島根大学 エスチュアリー研究センター・汽水域研究会合同出版物
島根大学 エスチュアリー研究センター特別出版物 第 1 号
Laguna (汽水域研究) 特別出版物 第 1 号

山陰 (島根県・鳥取県) の異尾甲殻類

日本海西部沿岸のヤドカリ類とその仲間たち

大 澤　正 幸

2022 年 11 月

表紙

左上 **(Top left):**

ケブカヒメヨコバサミ ***Paguristes ortmanni*** **Miyake, 1978**（島根県松江市美保関町菅浦）

右上 **(Top right):**

ホンヤドカリ ***Pagurus filholi*** **(De Man, 1887)**（松江市島根町加賀桂島）

左下 **(Bottom left):**

ヒラトゲガニ ***Hapalogaster dentata*** **(De Haan, 1849)**（松江市島根町加賀桂島）

右下 **(Bottom right):**

イソカニダマシ ***Petrolisthes japonicus*** **(De Haan, 1849)**（松江市島根町加賀桂島）

裏表紙

松江市島根町小具の岩礁海岸

山陰 (島根県・鳥取県)の異尾甲殻類
日本海西部沿岸のヤドカリ類とその仲間たち

大澤　正幸

エスチュアリー研究センター・汽水域研究会合同出版物
島根大学: エスチュアリー研究センター特別出版物 第1号
汽水域研究会: Laguna (汽水域研究) 特別出版物 第1号

Online published by Estuary Research Center, Shimane University
1060 Nishikawatsu-cho, Matsue, Shimane 690-8504
Tel: 81-852-32-6099; Fax: 81-852-32-6099

Publication Data
Anomuran Crustacea in San'in District (Shimane Prefecture and Tottori Prefecture), Western Japan
Masayuki Osawa
Edited by Yohshiki Saito, Toshiaki Irizuki, Masahiro Horinouchi, Kengo Kurata, Kota Katsuki, and Shun Kawaida
Estuary Research Center, Special Publications, No. 1
Laguna, Special Publications, No. 1
148 pages
Series: Special Publications
(Estuary Research Center, Shimane University; Japanese Association for Estuarine Science)
November 2022

目次

はじめに …… 1
材料および方法 …… 2
「山陰」からの記録種 …… 6
「山陰」における記録種の構成 …… 6
島根県の岩礁に生息する異尾類 …… 7
島根県の汽水域・内湾的環境に生息する異尾類 …… 8
鳥取県および島根県沿岸からの記録種の説明 …… 23
Hippoidea スナホリガニ上科 …… 23
Albuneidae クダヒゲガニ科 …… 23
Albunea groeningi Boyko, 2002 ヒメクダヒゲガニ …… 23
Paralbunea dayriti (Serène and Umali, 1965) ナメラカクダヒゲガニ …… 25
Blepharipodidae キタクダヒゲガニ科 …… 26
Blepharipoda liberata Shen, 1949 フシメクダヒゲガニ …… 26
Hippidae スナホリガニ科 …… 27
Hippa trancatifrons (Miers, 1878) ハマスナホリガニ …… 27
Paguroidea ホンヤドカリ上科 …… 29
Diogenidae ヤドカリ科 …… 29
Areopaguristes japonicus (Miyake, 1961) ブチヒメヨコバサミ …… 29
Clibanarius virescens (Krauss, 1843) イソヨコバサミ …… 31
Dardanus arrosor (Herbst, 1796) ケスジヤドカリ …… 33
Dardanus aspersus (Berthold, 1845) アカボシヤドカリ …… 35
Dardanus crassimanus (H. Milne Edwards, 1836) イシダタミヤドカリ …… 37
Dardanus impressus (De Haan, 1849) イボアシヤドカリ …… 39
Dardanus sanguinolentus (Quoy and Gaimard, 1824) ヤドカリ属の 1 種 (和名なし) …… 41
Diogenes edwardsii (De Haan, 1849) トゲツノヤドカリ …… 43
Diogenes izanamiae Asakura, 2006 イザナミツノヤドカリ …… 44
Diogenes nitidimanus Terao, 1913 テナガツノヤドカリ …… 45
Diogenes pallescens Whitelegge, 1897 ツノヤドカリ属の 1 種 (和名なし) …… 47
Diogenes spinifrons (De Haan, 1849) トゲトゲツノヤドカリ …… 48
Paguristes digitalis Stimpson, 1858 ヤスリヒメヨコバサミ …… 49
Paguristes gonagrus (H. Milne Edwards, 1836) ヒノマルヒメヨコバサミ …… 50
Paguristes ortmanni Miyake, 1978 ケブカヒメヨコバサミ …… 51
Paguristes versus Komai, 2001 カゴシマヒメヨコバサミ …… 53

Paguridae ホンヤドカリ科 …… 55
Anapagurus japonicus Ortmann, 1892 ユミナリヤドカリ …… 55
Catapaguroides fragilis (Melin, 1939) マダラヒメヤドカリ …… 57
Elassochirus cavimanus (Miers, 1879) ゴトウヤドカリ …… 59
Lophopagurus triserratus (Ortmann, 1892) セルプラヤドカリ …… 61
Nematopagurus australis (Henderson, 1888) ツメナガイトヒキヤドカリ …… 63
Nematopagurus tricarinatus (Stimpson, 1858) イトヒキヤドカリ …… 65
Pagurus conformis De Haan, 1849 メダマホンヤドカリ …… 66
Pagurus constans (Stimpson, 1858) イガグリホンヤドカリ …… 67
Pagurus decimbranchiae Komai and Osawa, 2001 アオヒゲヒラホンヤドカリ … 69
Pagurus erythrogrammus Komai, 2003 アカシマホンヤドカリ …… 71
Pagurus filholi (De Man, 1887) ホンヤドカリ …… 73
Pagurus japonicus (Stimpson, 1858) ヤマトホンヤドカリ …… 75
Pagurus lanuginosus De Haan, 1849 ケアシホンヤドカリ …… 77
Pagurus maculosus Komai and Imafuku, 1996 ホシゾラホンヤドカリ …… 78
Pagurus minutus Hess, 1865 ユビナガホンヤドカリ …… 79
Pagurus nigrivittatus Komai, 2003 クロシマホンヤドカリ …… 81
Pagurus nigrofascia Komai, 1996 ヨモギホンヤドカリ …… 83
Pagurus nipponensis (Yokoya, 1933) シマハダカホンヤドカリ …… 85
Pagurus ochotensis Brandt, 1851 オホーツクホンヤドカリ …… 87
Pagurus proximus Komai, 2000 イクビホンヤドカリ …… 89
Pagurus quinquelineatus Komai, 2003 ゴホンアカシマホンヤドカリ …… 90
Pagurus rathbuni (Benedict, 1892) ラスバンホンヤドカリ …… 91
Pagurus rubrior Komai, 2003 ベニホンヤドカリ …… 93
Pagurus spina Komai, 1994 ヒメケアシホンヤドカリ …… 95
Porcellanopagurus nihonkaiensis Takeda, 1985 マルミカイガラカツギ …… 96
Pylochelidae ツノガイヤドカリ科 …… 97
Pomatocheles jeffreysii Miers, 1879 ツノガイヤドカリ …… 97
Lithodoidea タラバガニ上科 …… 99
Hapalogastridae ヒラトゲガニ科 …… 99
Hapalogaster dentata (De Haan, 1849) ヒラトゲガニ …… 99
Oedignathus inermis (Stimpson, 1860) イボガニ …… 102
Lithodidae タラバガニ科 …… 103
Paralithodes camtschaticus (Tilesius, 1815) タラバガニ …… 103
Chirostyloidea ワラエビ上科 …… 105
Chirostylidae ワラエビ科 …… 105
Chirostylus ortmanni Miyake and Baba, 1968 オルトマンワラエビ …… 105

Galatheoidea ガラテア上科 …… 107
Galatheidae コシオリエビ科 …… 107
Galathea guttata Osawa, 2004 テハンコシオリエビ (新称) …… 107
Galathea orientalis Stimpson, 1858 トウヨウコシオリエビ …… 109
Galathea peitho Macpherson and Robainas-Barcia, 2015 ニセウロココシオリエビ …… 111
Lauriea simulata Macpherson and Robainas-Barcia, 2013 ヒヅメコシオリエビ属の 1 種 (和名なし) …… 113
Munididae チュウコシオリエビ科 …… 115
Bathymunida brevirostris (Yokoya, 1933) ハバヒロチュウコシオリエビ (新称) …… 115
Grimothea princeps (Benedict, 1902) オオコシオリエビ …… 117
Paramunida tricarinata (Alcock, 1894) ミツトゲザラザラチュウコシオリエビ …… 119
Trapezionida agave (Macpherson and Baba, 1993) ハヤトチュウコシオリエビ (新称) …… 121
Trapezionida pherusa (Macpherson and Baba, 1993) シロツノチュウコシオリエビ (新称) …… 123
Porcellanidae カニダマシ科 …… 125
Enosteoides ornatus (Stimpson, 1858) トゲカニダマシ …… 125
Pachycheles hertwigi Balss, 1913 バルスカニダマシ …… 127
Pachycheles stevensii Stimpson, 1858 コブカニダマシ …… 128
Petrolisthes coccineus (Owen, 1839) オオアカハラ …… 129
Petrolisthes japonicus (De Haan, 1849) イソカニダマシ …… 131
Pisidia serratifrons (Stimpson, 1858) フトウデネジレカニダマシ …… 133
Porcellanella triloba White, 1852 ウミエラカニダマシ …… 135
謝辞 …… 137
引用文献 …… 138

はじめに

異尾下目 Anomura は，甲殻亜門 Crustacea，軟甲綱 Malacostraca，十脚目 Decapoda に属する分類群である．一般的に「カニ類」と呼ばれる短尾下目 Brachyura と系統的に姉妹関係にあり，腹部が短くなった「カニ型」や「コシオリエビ型」，貝殻や軽石などを背負う「ヤドカリ型」など多様な体制の種を含む分類群である (Tudge et al., 2012)．そして，分子遺伝学的情報および形態形質情報に基づいた系統解析により，異尾下目内の「カニ型」の体制は，「コシオリエビ型」や「相称のヤドカリ型」の体制をとおして別々に複数回生じていると推定されている (Tsang et al., 2011; Bracken-Grissom et al., 2013)．異尾類は生息する環境の幅も大きく，淡水域，海岸に近い陸域，潮間帯から水深 5000 m にわたる海域より記録されている．

日本産の異尾類については，「相模湾産甲殻異尾類 (The Crustacean Anomura of Sagami Bay; Miyake, 1978)」および「原色日本大型甲殻類図鑑 (I) (三宅, 1998)」において総括的にまとめられている．しかしながら，近年の一連の分類学的研究の成果により，分類群および種名の変更，新タクサの追加が数多くなされており，正確な種同定にあたっては注意が必要である．最近では，Komai and Takeda (2006) が相模灘域から記録されているホンヤドカリ科についてまとまった再検討，整理を行っている．そして日本近隣では，台湾産の標本に基づいた異尾類の分類群別の一連の図説 (Crustacean Fauna of Taiwan: McLaughlin et al., 2007; Baba et al., 2009; Ahyong et al., 2010b; Osawa and Chan, 2010; Osawa et al., 2010) が出版されている．

日本海沿岸から記録されている異尾類については，Asakura (2006)および本尾 (2007)が整理している．日本海の西部に位置する「山陰」は，京都府，兵庫県，鳥取県，島根県，山口県にわたる沿岸地域であり，複雑かつ多様な地形が見られることから，多様な種が生息していると推測される．しかしながら，山陰の中でも，山口県，島根県，兵庫県から記録されていた種数は著しく少なく，このことは当地域における調査・報告の数が相対的に少ないことに起因していると指摘されていた (本尾, 2007)．本尾 (2007)の報告の時点では，島根県沿岸からは 7 科 12 属 18 種の異尾類が記録されているのみであったが，その後，大澤ほか (2014, 2015, 2016, 2018)の一連の報告により，島根県沿岸からは計 9 科 26 属 54 種が確認され，日本海沿岸において最も記録種の多い地域となっている．この記録種の増加は，本尾 (2007)が指摘していたとおり，「山陰」の生息種について明らかに過小評価されていたことを示している．

本報では，以上の成果を踏まえ，島根県および鳥取県沿岸の異尾類相の包括的な理解，そして山陰地域の生物地理に関する特徴の理解に向けた基礎情報として，現時点での分類学的知見に基づき，島根県および鳥取県沿岸における記録種について解説する．加えて，これまでに和名が与えられていないコシオリエビ上科の 4 種，*Galathea guttata* Osawa, 2004，*Bathymunida brevirostris* (Yokoya, 1933)，*Munida agave* Macpherson and Baba, 1993，*Munida pherusa* Macpherson and Baba, 1993 に対し，新称を提唱する．

材料および方法

異尾類の分類体系 (上科, 科) については, Ahyong et al. (2010a), Boyko and McLaughlin (2010), McLaughlin et al. (2010), Schnabel et al. (2011)に従った. 上科の順番は系統を反映させ, スナホリガニ上科 Hippoidea, ホンヤドカリ上科 Paguroidea, タラバガニ上科 Lithodoidea, ワラエビ上科 Chirostyloidea, ガラテア上科 Galatheoidea とした. 一方, 同じ上科・科における科・属および種の配列は, 学名のアルファベット順とした. なお, Fraaije (2014)および Fraaije et al. (2017, 2022)は, 化石種の分類を進めるにあたって, 前甲 (shield)の前・後部の溝の有無や位置などに基づき, 従来のヤドカリ科 Diogenidae をヤドカリ科, Annuntidiogenidae (現生では, ブチヒメヨコバサミ属 *Areopaguristes* やヒメヨコバサミ属 *Paguristes* などを含む), Calcinidae (現生では, オニヤドカリ属 *Aniculus*, ヤドカリ属 *Dardanus*, サンゴヤドカリ属 *Calcinus* などを含む), Paguropsidae (現生では, キンチャクヤドカリ属 *Paguropsis*, *Paguropsina* を含む)の 4 科に分割している. しかしながら, Annuntidiogenidae を定義する特徴には変異があり, 明瞭ではないことに加え, Calcinidae に所属する可能性のある属 (例えばヨコバサミ属 *Clibanarius*) がヤドカリ科に残されたままであり, これら 4 科の意義についてさらに検討を進める必要がある. そのため本報では, Annuntidiogenidae, Calcinida, Paguropsidae をヤドカリ科と同タクソンとして扱った.

調査標本は, 大澤ほか (2014, 2015, 2017, 2018)および Osawa and Ota (2020)が扱った標本に加えて, 鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館および鳥取県立博物館において新たに調査を行った標本を含む. これらの標本は, 島根県立宍道湖自然館 (SNMH: Shinjiko Nature Museum, Hoshizaki Green Foundation, Izumo), 国立科学博物館 (NSMT: National Science Museum, Tokyo; 現在の名称は National Museum of Nature and Science, Tsukuba), 鳥取県立博物館 (TRPM: Tottori Prefectural Museum, Tottori)に所蔵されている. 該当する標本には, これらの所蔵機関の略号および登録番号を付けて示した. なお, TRPM (未登録)は, 鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館において暫定的に保管されている標本を示している. 加えて, 一部の標本画像は, 著者が所持している未登録標本に基づいている. 調査標本のデータの順番は, 採集地, 採集環境, 採集方法, 採集日, 標本数および性(大きさ), 標本の所蔵機関および登録番号とした.

近年の報文 (例えば, McLaughlin et al., 2007; Baba et al., 2009; Osawa and Chan, 2010; Osawa et al., 2010)に従い, 標本の大きさは, ホンヤドカリ上科の種では前甲長(楯長, sl: shield length), その他の上科の種では甲長 (cl: carapace length)または額角を除いた甲長 (pcl: posterior carapace length; コシオリエビ科およびチュウコシオリエビ科)で示した. 前甲長および甲長は, 額角の先端から前甲または甲全体の後縁中央部までを計測した (図 1).

なお, 日本側の「日本海」域の範囲は, 北海道 (宗谷海峡, 稚内市)から山口県(関門海峡, 下関市)までの沿岸・沖合域とした (図 2A). 対馬海峡に面し, 九州の北に位置する福岡県から長崎県の海域は, その範囲に含めていない. そして「山陰」の範囲は, 京都府から山口県までの沿岸域とした (図 3). 調査標本の採集地である, 鳥取県および島根県の地名についても, 図 3 に示す.

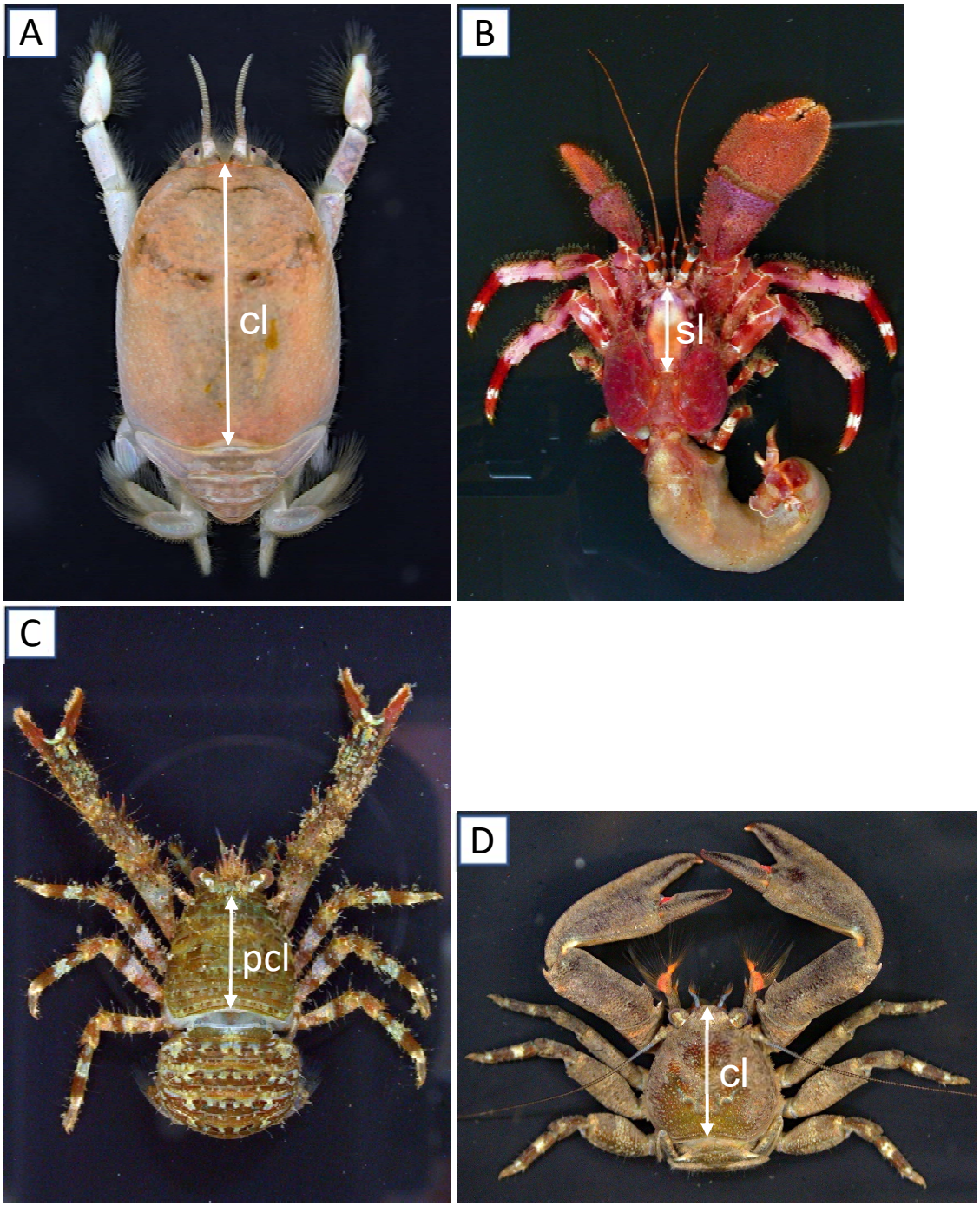


図 1. 標本の測定. A, ハマスナホリガニ *Hippa trancatifrons* (Miers, 1878) (スナホリガニ上科); B, ベニホンヤドカリ *Pagurus rubrior* Komai, 2003 (ホンヤドカリ上科); C, トウヨウコシオリエビ *Galathea orientalis* Stimpson, 1858 (ガラテア上科); D, イソカニダマシ *Petrolisthes japonicus* (De Haan, 1849) (ガラテア上科). cl, 甲長; pcl, 額角を除いた甲長; sl, 前甲長 (楯長).

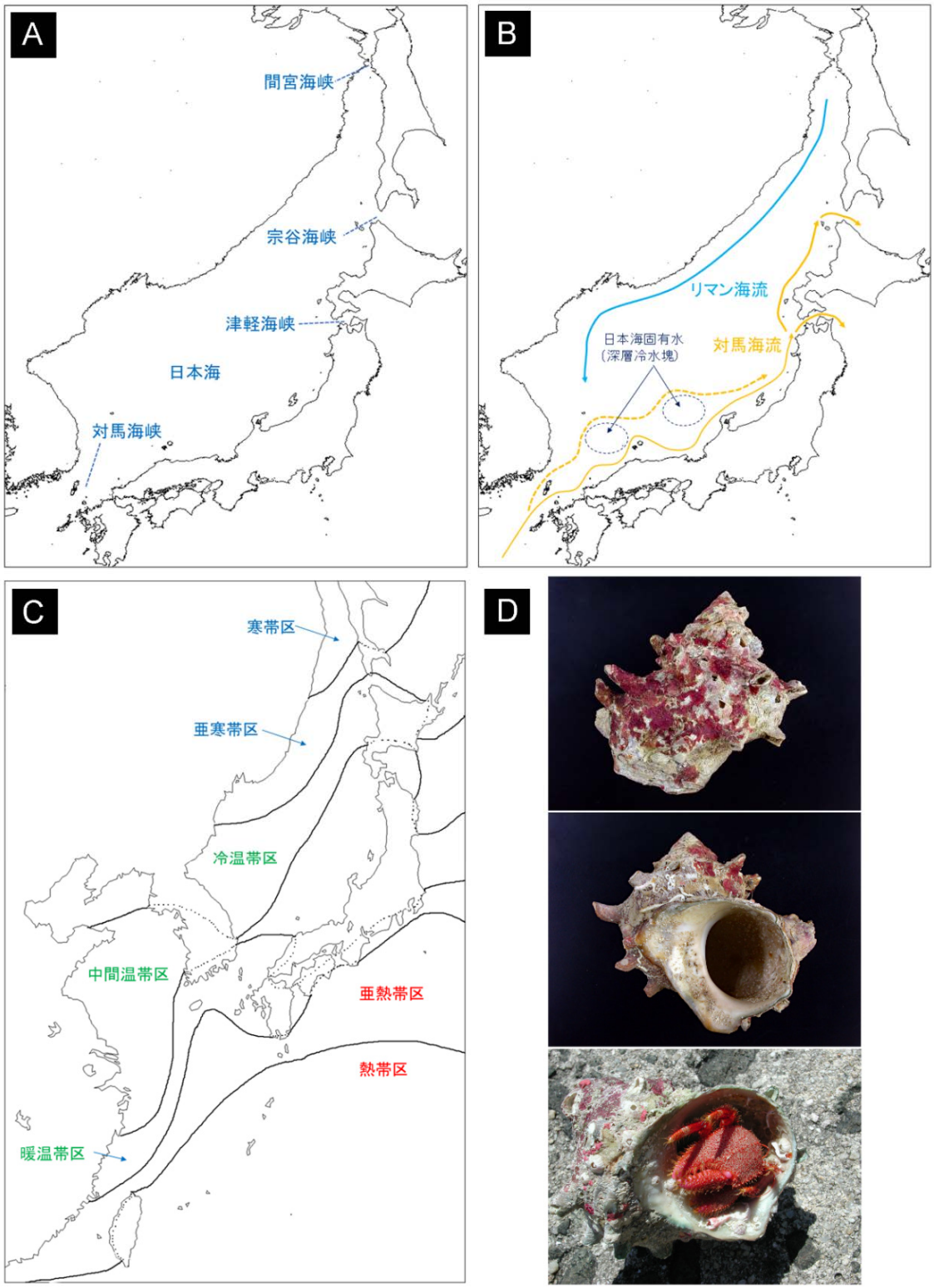


図 2. A, 日本列島と日本海; B, 日本海における海流 (表層流)および日本海固有水 (深層冷水塊; 主要な 4 水塊のうち, 西側の 2 つのみを示す); C, 日本近海の生物地理 (生物気候)帯区の配置 (西村, 1992: 図 2 を改編); D, サザエ *Turbo sazae* Fukuda, 2017 の殻 (上の 2 つ)とそれを宿貝とするベニホンヤドカリ *Pagurus rubrior* Komai, 2003 (下) (島根県松江市島根町小具).

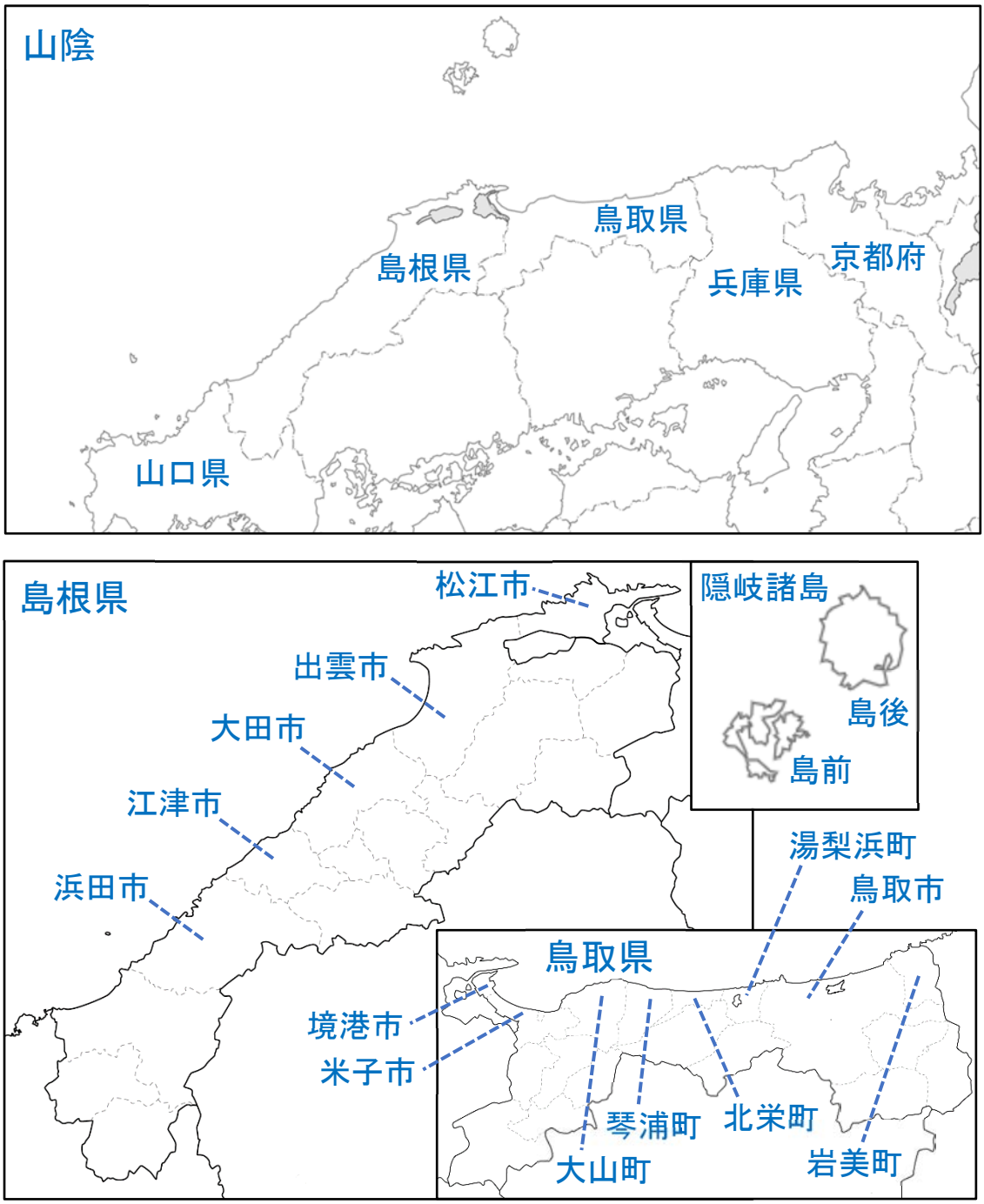


図 3. 山陰および鳥取県・島根県の地名.

「山陰」からの記録種

山口県から京都府までの「山陰」から記録されている異尾類は，Osawa and Ota (2020: Table 2)により，表にまとめられている．なおその表では，河野ほか (2015)によって山口県下関市蓋井島沖から記録されていたコマチコシオリエビ *Allogalathea elegans* (Adams and White, 1848) (*Galathea elegans* として報告)が見落とされていた(加えて，園山ほか，2017a を参照)ため，本報における「山陰」からの記録種として改めて含めた．

本報において，生時の個体画像に基づいて，オルトマンワラエビ *Chirostylus ortmanni* Miyake and Baba, 1968 を日本海沿岸から初めて記録する．本種および本尾・豊田 (2005)が報告している 2 未詳種 (クロシマホンヤドカリ近似種 *Pagurus* cf. *nigrivittatus* Komai, 2003; コシオリエビ属の 1 種 近似種 *Galathea* cf. *ohshimai* Miyake and Baba, 1967)を含めると，これまでに「山陰」からは計 5 上科 11 科 39 属 82 種が記録されている (表 1)．なお，Osawa and Ota (2020)が指摘しているとおり，これらの記録種の一部には，種同定の正否について検証が必要な記録・標本が含まれていることに注意する必要がある．

「山陰」における記録種の構成

西村 (1992)は，日本近海を 7 つの生物地理 (生物気候)帯区 (熱帯区，亜熱帯区，暖温帯区，中間温帯区，冷温帯区，亜寒帯区，寒帯区)に分けることができると論じている (図 2C)．地球規模の海洋生物地理区に当てはめると，熱帯区および亜熱帯区は「インドー西太平洋区」の一部に，3 つの温帯区 (暖温帯区，中間温帯区，冷温帯区)は「東亜区」に，亜寒帯区および寒帯区は「北太平洋区」の一部にそれぞれ相当する．北海道から山口県までの日本海沿岸は，冷温帯区，中間温帯区，暖温帯区の 3 つの温帯区に区分され，島根県沿岸は中間温帯区と暖温帯区との境界付近に位置するとされている．

現時点において，本尾・豊田 (2005)が報告している 2 未詳種 (クロシマホンヤドカリ近似種 *Pagurus* cf. *nigrivittatus* Komai, 2003，コシオリエビ属の 1 種 近似種 *Galathea* cf. *ohshimai* Miyake and Baba, 1967)を除く，「山陰」から記録されている 80 種の異尾類について分布パタンに基づいて分別すると，「東亜区」に分布が限定される東アジア固有要素 (東亜系動物群)が 45 種 (全体の種数の 56%)と卓越しており，続いてインドー西太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する 29 種 (36%)および北太平洋に分布の中心を持つ 6 種 (8%)を認識できた (表 3)．加えて，東アジア系動物群の 45 種のうちの 19 種の記録地は，中・南琉球列島，台湾，香港などの熱帯域を含んでいる．これら 19 種とインドー西太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する 29 種を合わせた 48 種 (全体の種数の 60%)は「暖海性種」と判断できる．これらのことは，西村 (1992)が示した生物地理 (生物気候)帯区における島根県周辺沿岸の位置づけ (中間温帯区ー暖温帯区)と矛盾しておらず，加えて「山陰」が対馬暖流の影響を強く受ける地域であることも支持される．一方，北太平洋に分布の中心を持つ 6 種すべては，山陰沿岸ではバイかごや底曳網・延縄漁をとおして，沖合の水深 100 m 以深から得られている．本尾 (2007)が指摘しているとおり，これらの北太平洋要素の種の分布の南限が，低緯度海域である「山陰」までおよんでいることは，アジア大陸に沿って南下するリマン海流や日本海固有水 (深層冷水塊)の存在 (図 2B)，そして陸棚が深所まで緩傾斜している隠岐諸島西方沖の海底地形と関連付けることができると考えられる．

島根県の岩礁に生息する異尾類

本州沿岸において，太平洋側は冷温帯区，中間温帯区，暖温帯区，亜熱帯区の 4 生物地理帯区に区分される一方，日本海側では中間温帯区と暖温帯区の 2 生物地理帯区のみに区分され，中間温帯区が「山陰」西部より北の広い地域を占める (図 2B). そのため生物地理学的群集は，日本海側では太平洋側より単調であり，対馬暖流が本州の日本海沿岸全体に沿って流れていることが，その単調さの要因であるとされている (西村, 1992).

加えて，日本海沿岸では潮差 (潮位差)が小さいため，太平洋沿岸に比べて相対的に潮間帯群集の発達が弱い. 冬期には，日本海への対馬暖流の流入が大幅に減少するため，夏期に比べて海水面が著しく低下する. そのため，前年の夏期に潮間帯に定着した底生生物の大部分は，冬期の干出による低温，寒風，乾燥にさらされることから，潮間帯群集が未発達で，いっそう貧弱な状態になっていると考えられている (西村, 1992).

島根半島の日本海側の岩礁では，干潮時に小規模ながらタイドプールが形成され，そこではケブカヒメヨコバサミ *Paguristes ortmanni* Miyake, 1978，ホンヤドカリ *Pagurus filholi* (De Man, 1887)，ケアシホンヤドカリ *P. lanuginosus* De Haan, 1849 を周年にわたって確認できる (図 5B, C, 7B–D). これらの種に加え，春期から秋期にかけては，イソヨコバサミ *Clibanarius virescens* (Krauss, 1843) (図 7A)およびホシゾラホンヤドカリ *Pagurus maculosus* Komai and Imafuku, 1996 を確認できる. また，冬期から春期にかけては，夏期には潮間帯下部または潮下帯で見られるヒラトゲガニ *Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849)やイソカニダマシ *Petrolisthes japonicus* (De Haan, 1849)も，干潮時のタイドプール付近において観察できる (図 7E, F). 島根半島の岩礁潮間帯において通常確認できる異尾類は，これら 7 種に限られ，ホンヤドカリの出現個体数が最も多い.

一方，島根半島の日本海側の岩礁潮下帯では，ヤマトホンヤドカリ *Pagurus japonicus* (Stimpson, 1858)およびベニホンヤドカリ *P. rubrior* Komai, 2003 (図 2D)を，サザエ刺網漁業の混獲物として頻繁に確認できる. サザエ *Turbo sazae* Fukuda, 2017 (軟体動物門: 腹足綱: 古腹足目: リュウテン科: リュウテン属; 図 2D)は，本州から九州にかけての岩礁での刺網漁業が対象とする主要な水産資源としてよく知られている. 太平洋側では，北上する黒潮 (暖流)が房総半島沖で流路を変え，東方に向かって沿岸から離れてゆく一方，日本海側では，対馬暖流が本州沿岸全体に沿って北上し，主要な水量は津軽海峡をとおして太平洋側に流出している. そのため，サザエの漁獲地の北限は，太平洋側では千葉県である一方，日本海側ではより高緯度の青森県・北海道南部となっている. なお島根県は，サザエの漁獲量が全都道府県中で第 4 位となっており，日本有数の産地である.

島根県の汽水域・内湾的環境に生息する異尾類

島根半島の日本海側，隠岐諸島沿岸の河口・内湾域 (図 4A, D)，そして境水道・中海沿岸の潮間帯や護岸付近 (図 4B, C)において，最も普通に確認できる異尾類は，ホンヤドカリ科のユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus* Hess, 1865 である (大澤ほか, 2014; 図 6A, B). 島根半島の日本海側沿岸の河口域では，ホンヤドカリ *Pagurus filholi* (De Man, 1887)も確認されている (図 5C). しかしながら，ホンヤドカリは開放的な岩礁海岸 (図 5)において最も普通に見かけることができるヤドカリ類であることから，周辺の岩礁環境から当地の河口域に偶来したものと判断される．なお石飛ほか (2000)は，1996 年時点において，ホンヤドカリ (*P. geminus* McLaughlin, 1976 として報告)を中海の西部から記録している．隠岐諸島 (島前中ノ島，島後)沿岸の内湾域 (図 4D)からは，ヨモギホンヤドカリ *Pagurus nigrofascia* Komai, 1996 を確認している (図 6D).

島根半島の日本海側・隠岐諸島の沿岸において，内湾的環境の潮下帯の砂泥底 (図 4E)からは，クダヒゲガニ科のナメラカクダヒゲガニ *Paralbunea dayriti* (Serène and Umali, 1965); ヤドカリ科のケスジヤドカリ *Dardanus arrosor* (Herbst, 1796), アカボシヤドカリ *Dardanus aspersus* (Berthold, 1845), トゲツノヤドカリ *Diogenes edwardsii* (De Haan, 1849), テナガツノヤドカリ *Diogenes nitidimanus* Terao, 1913 およびトゲトゲツノヤドカリ *Diogenes spinifrons* (De Haan, 1849); そしてホンヤドカリ科のユミナリヤドカリ *Anapagurus japonicus* Ortmann, 1892 およびマダラヒメヤドカリ *Catapaguroides fragilis* (Melin, 1939)が記録されている (大澤ほか, 2014, 2015, 2022).

一方，境水道の潮下帯からは，ヤドカリ科のケスジヤドカリ *Dardanus arrosor* (Herbst, 1796)，カニダマシ科のフトウデネジレカニダマシ *Pisidia serratifrons* (Stimpson, 1858)とウミエラカニダマシ *Porcellanella triloba* White, 1852 が記録されている (大澤ほか, 2014). なかでもフトウデネジレカニダマシは，底曳網の一曳網により 45 個体がまとめて採集されており，曳網場所の何らかの基底に局所的に集中して生息しているか，あるいは内湾的環境の潮下帯に棲む，代表的なカニダマシ類の可能性がある (大澤ほか, 2014).

表 1. 山陰（山口県～京都府）沿岸から記録されている異尾類 (河野ほか, 2015; Osawa & Ota 2020; 大澤ほか, 2022; 本報)
***: 種同定の正否については検証が必要; #: 島根・鳥取県から記録されていない種**

	種 (学名)	種 (和名)	備考
Hippoidea スナホリガニ上科			
Albuneidae クダヒゲガニ科 (3種)			
	Albunea groeningi Boyko, 2002	ヒメクダヒゲガニ	
	Albunea symmysta (Linnaeus, 1758)*	クダヒゲガニ	
	Paralbunea dayriti (Serène and Umali, 1965)	ナメラカクダヒゲガニ	大澤ほか (2022)
Blepharipodidae キタクダヒゲガニ科 (1種)			
	Blepharipoda liberata Shen, 1949	フシメクダヒゲガニ	
Hippidae スナホリガニ科 (1種)			
	Hippa trancatifrons (Miers, 1878)	ハマスナホリガニ	
Paguroidea ホンヤドカリ上科			
Diogenidae ヤドカリ科 (19種)			
	Aniculus miyakei Forest, 1984*	ホンドオニヤドカリ	
	Areopaguristes japonicus (Miyake, 1961)	ブチヒメヨコバサミ	
	Clibanarius virescens (Krauss, 1843)	イソヨコバサミ	
	Dardanus arrosor (Herbst, 1796)	ケスジヤドカリ	
	Dardanus aspersus (Berthold, 1845)	アカボシヤドカリ	
	Dardanus crassimanus (H. Milne Edwards, 1836)	イシダタミヤドカリ	
	Dardanus impressus (De Haan, 1849)	イボアシヤドカリ	
	Dardanus pedunculatus (Herbst, 1804)*	ソメンヤドカリ	
	Dardanus sanguinolentus (Quoy and Gaimard, 1824)	ヤドカリ属の1種（和名なし）	大澤ほか (2014; *D. lagopodes* (Forskål, 1775)として報告)
	Diogenes edwardsii (De Haan, 1849)	トゲツノヤドカリ	
	Diogenes izanamiae Asakura, 2006	イザナミツノヤドカリ	
	Diogenes nitidimanus Terao, 1913	テナガツノヤドカリ	
	Diogenes penicillatus Stimpson, 1858#	フサゲツノヤドカリ	山口県 (Komai et al., 2002)
	Diogenes pallescens Whitelegge, 1897	ツノヤドカリ属の1種（和名なし）	
	Diogenes spinifrons (De Haan, 1849)	トゲトゲツノヤドカリ	
	Paguristes digitalis Stimpson, 1858	ヤスリヒメヨコバサミ	
	Paguristes gonagrus (H. Milne Edwards, 1836)	ヒノマルヒメヨコバサミ	
	Paguristes ortmanni Miyake, 1978	ケブカヒメヨコバサミ	
	Paguristes versus Komai, 2001	カゴシマヒメヨコバサミ	
Paguridae ホンヤドカリ科 (33種)			
	Anapagurus japonicus Ortmann, 1892	ユミナリヤドカリ	
	Catapaguroides fragilis (Melin, 1939)	マダラヒメヤドカリ	
	Catapaguroides japonicus de Saint Laurent, 1968#	ヒメヤドカリ	山口県 (Komai et al., 2002)
	Diacanthurus ophthalmicus (Ortmann, 1892)*	メナガホンヤドカリ	
	Elassochirus cavimanus (Miers, 1879)	ゴトウヤドカリ	
	Labidochirus anomalus (Balss, 1913)	ニホンサメハダホンヤドカリ	
	Lophopagurus triserratus (Ortmann, 1892)	セルプラヤドカリ	

表 1. 続き 1.

	種 (学名)	種 (和名)	備考
	Nematopagurus australis (Henderson, 1888)	ツメナガイトヒキヤドカリ	
	Nematopagurus tricarinatus (Stimpson, 1858)	イトヒキヤドカリ	
	Pagurus conformis De Haan, 1849	メダマホンヤドカリ	
	Pagurus constans (Stimpson, 1858)	イガグリホンヤドカリ	
	Pagurus decimbranchiae Komai and Osawa, 2001	アオヒゲヒラホンヤドカリ	
	Pagurus erythrogrammus Komai, 2003	アカシマホンヤドカリ	
	Pagurus filholi (De Man, 1887)	ホンヤドカリ	
	Pagurus japonicus (Stimpson, 1858)	ヤマトホンヤドカリ	
	Pagurus lanuginosus De Haan, 1849	ケアシホンヤドカリ	
	Pagurus maculosus Komai and Imafuku, 1996	ホシゾラホンヤドカリ	
	Pagurus minutus Hess, 1865	ユビナガホンヤドカリ	
	Pagurus nigrivittatus Komai, 2003	クロシマホンヤドカリ	
	Pagurus cf. *nigrivittatus* Komai, 2003*#	クロシマホンヤドカリ近似種	京都府 (本尾・豊田, 2005)
	Pagurus nigrofascia Komai, 1996	ヨモギホンヤドカリ	
	Pagurus nipponensis (Yokoya, 1933)	シマハダカホンヤドカリ	
	Pagurus ochotensis Brandt, 1851	オホーツクホンヤドカリ	
	Pagurus proximus Komai, 2000	イクビホンヤドカリ	
	Pagurus quinquelineatus Komai, 2003	ゴホンアカシマホンヤドカリ	
	Pagurus rathbuni (Benedict, 1892)	ラスバンホンヤドカリ	
	Pagurus rubrior Komai, 2003	ベニホンヤドカリ	
	Pagurus spina Komai, 1994	ヒメケアシホンヤドカリ	
	Pagurus trigonocheirus (Stimpson, 1858)	ミツカドホンヤドカリ	
	Pagurus undosus (Benedict, 1892)	ミゾテホンヤドカリ	
	Porcellanopagurus nihonkaiensis Takeda, 1985	マルミカイガラカツギ	
	Spiropagurus spiriger (De Haan, 1849)	ゼンマイヤドカリ	
	Turleania senticosa (McLaughlin and Haig, 1996)#	トゲネジレヤドカリ	山口県 (Komai et al., 2002; *T. similis* Komai, 1999として報告)
Pylochelidae ツノガイヤドカリ科 (1種)			
	Pomatocheles jeffreysii Miers, 1879	ツノガイヤドカリ	
Lithodoidea タラバガニ上科			
Hapalogastridae ヒラトゲガニ科 (2種)			
	Hapalogaster dentata (De Haan, 1849)	ヒラトゲガニ	
	Oedignathus inermis (Stimpson, 1860)	イボガニ	
Lithodidae タラバガニ科 (1種)			
	Paralithodes camtschaticus (Tilesius, 1815)	タラバガニ	

表 1. 続き 2.

	種 (学名)	種 (和名)	備考
Chirostyloidea ワラエビ上科			
Chirostylidae ワラエビ科 (1種)			
	Chirostylus ortmanni Miyake and Baba, 1968	オルトマンワラエビ	本報
Galatheoidea ガラテア上科			
Galatheidae コシオリエビ科 (5種)			
	Allogalathea elegans (Adams and White, 1848)#	コマチコシオリエビ	山口県 (河野ほか, 2015; *Galathea elegans* として報告)
	Galathea guttata Osawa, 2004	テハンコシオリエビ (新称)	
	Galathea cf. *ohshimai* Miyake and Baba, 1967*#	コシオリエビ属の1種 近似種	京都府 (本尾・豊田, 2005)
	Galathea orientalis Stimpson, 1858	トウヨウコシオリエビ	
	Galathea peitho Macpherson and Robainas-Barcia, 2015	ニセウロココシオリエビ	
	Lauriea simulata Macpherson and Robainas-Barcia, 2013	ヒヅメコシオリエビ属の1種 (和名なし)	
Munididae チュウコシオリエビ科 (6種)			
	Bathymunida brevirostris (Yokoya, 1933)	ハバヒロチュウコシオリエビ (新称)	
	Grimothea princeps (Benedict, 1902)	オオコシオリエビ	
	Paramunida tricarinata (Alcock, 1894)	ミツトゲザラザラチュウコシオリエビ	
	Trapezionida agave (Macpherson and Baba, 1993)	ハヤトチュウコシオリエビ (新称)	
	Trapezionida japonica (Stimpson, 1858)*	チュウコシオリエビ	
	Trapezionida pherusa (Macpherson and Baba, 1993)	シロツノチュウコシオリエビ (新称)	
Porcellanidae カニダマシ科 (8 種)			
	Enosteoides ornatus (Stimpson, 1858)	トゲカニダマシ	
	Pachycheles hertwigi Balss, 1913	バルスカニダマシ	
	Pachycheles stevensii Stimpson, 1858	コブカニダマシ	
	Petrolisthes coccineus (Owen, 1839)	オオアカハラ	
	Petrolisthes japonicus (De Haan, 1849)	イソカニダマシ	
	Pisidia serratifrons (Stimpson, 1858)	フトウデネジレカニダマシ	
	Porcellana pulchra Stimpson, 1858#	ベッコウカニダマシ	京都府 (本尾・豊田, 2005)
	Porcellanella triloba White, 1852	ウミエラカニダマシ	

表 2. 島根県，鳥取県沿岸から記録されている異尾類
記録に関する文献はすべてではなく，限定的．*: 種同定の正否については検証が必要

	種 (学名)	種 (和名)	島根県	文献	汽水域・内湾環境における記録	鳥取県	文献	本報において扱った種
Hippoidea スナホリガニ上科								
Albuneidae クダヒゲガニ科 (3種)								
	Albunea groeningi Boyko, 2002	ヒメクダヒゲガニ				●	Boyko (2002)	●
	Albunea symmysta (Linnaeus, 1758)*	クダヒゲガニ				●	佐藤・加藤 (1996)	
	Paralbunea dayriti (Serène and Umali, 1965)	ナメラカクダヒゲガニ	●	大澤ほか (2022)	島根半島 (内湾砂地)			●
Blepharipodidae キタクダヒゲガニ科 (1種)								
	Blepharipoda liberata Shen, 1949	フシメクダヒゲガニ	●	加藤・池田 (1992)		●	Miyake et al. (1962); Miyake (1978); 佐藤・加藤 (1996)	●
Hippidae スナホリガニ科 (1種)								
	Hippa trancatifrons (Miers, 1878)	ハマスナホリガニ	●	大澤ほか (2014)		●	Miyake et al. (1962); 和田ほか (2014); 鳥取県立博物館 (2015)	●
Paguroidea ホンヤドカリ上科								
Diogenidae ヤドカリ科 (18種)								
	Aniculus miyakei Forest, 1984*	ホンドオニヤドカリ	●	佐藤・加藤 (1996; *A. aniculus* (Fabricius, 1787)として報告)		●	Miyake et al. (1962; *A. aniculus* として報告)	
	Areopaguristes japonicus (Miyake, 1961)	ブチヒメヨコバサミ	●	大澤ほか (2014)		●	Miyake et al. (1962; *Paguristes japonicus* として報告)	●
	Clibanarius virescens (Krauss, 1843)	イソヨコバサミ	●	大澤ほか (2014)		●	本報	●
	Dardanus arrosor (Herbst, 1796)	ケスジヤドカリ	●	大澤ほか (2014)	境水道，島根半島 (砂地，底刺網)	●	Miyake et al. (1962)	●
	Dardanus aspersus (Berthold, 1845)	アカボシヤドカリ	●	大澤ほか (2014)	島根半島 (砂地，底刺網)	●	Miyake et al. (1962; *D. diogenes* (De Haan, 1849)として報告)	●
	Dardanus crassimanus (H. Milne Edwards, 1836)	イシダタミヤドカリ	●	大澤ほか (2014)				●
	Dardanus impressus (De Haan, 1849)	イボアシヤドカリ	●	大澤ほか (2015)				●
	Dardanus pedunculatus (Herbst, 1804)*	ソメンヤドカリ				●	Miyake et al. (1962; *D. haani* Rathbun, 1903として報告)	
	Dardanus sanguinolentus (Quoy and Gaimard, 1824)	ヤドカリ属の1種（和名なし）	●	大澤ほか (2014; *D. lagopodes* (Forskål, 1775)として)				●
	Diogenes edwardsii (De Haan, 1849)	トゲツノヤドカリ	●	大澤ほか (2014)	島根半島 (砂地，底刺網)	●	Miyake et al. (1962)	●
	Diogenes izanamiae Asakura, 2006	イザナミツノヤドカリ	●	大澤ほか (2014)				●
	Diogenes nitidimanus Terao, 1913	テナガツノヤドカリ	●	大澤ほか (2014)	島根半島 (内湾砂地)	●	岸田 (1963a)	●
	Diogenes pallescens Whitelegge, 1897	ツノヤドカリ属の1種（和名なし）	●	大澤ほか (2014)				●
	Diogenes spinifrons (De Haan, 1849)	トゲトゲツノヤドカリ	●	大澤ほか (2014)	島根半島 (内湾砂地)	●	和田ほか (2014)	●
	Paguristes digitalis Stimpson, 1858	ヤスリヒメヨコバサミ	●	Harada (1968)		●	Miyake et al. (1962)	●
	Paguristes gonagrus (H. Milne Edwards, 1836)	ヒノマルヒメヨコバサミ				●	Osawa and Ota (2020)	●
	Paguristes ortmanni Miyake, 1978	ケブカヒメヨコバサミ	●	大澤ほか (2014)		●	Miyake et al. (1962; *P. barbatus* (Heller, 1862)として報告); 鳥取県立博物館 (2015)	●
	Paguristes versus Komai, 2001	カゴシマヒメヨコバサミ				●	Osawa and Ota (2020)	●

表 2. 続き 1.

	種 (学名)	種 (和名)	島根県	文献	汽水域・内湾環境における記録	鳥取県	文献	本報において扱った種
Paguridae ホンヤドカリ科 (30種)								
	Anapagurus japonicus Ortmann, 1892	ユミナリヤドカリ	●	大澤ほか (2015)	隠岐諸島島後 (内湾砂れき地)			●
	Catapaguroides fragilis (Melin, 1939)	マダラヒメヤドカリ	●	大澤ほか (2015)	隠岐諸島島後 (内湾砂れき地)	●	Osawa and Ota (2020)	●
	Diacanthurus ophthalmicus (Ortmann, 1892)*	メナガホンヤドカリ				●	米子市 (1997)	
	Elassochirus cavimanus (Miers, 1879)	ゴトウヤドカリ	●	大澤ほか (2014)		●	岸田 (1963a; *Pagurus cavimanus* として報告)	●
	Labidochirus anomalus (Balss, 1913)	ニホンサメハダホンヤドカリ	●	岸田 (1963a; *Pagurus amomalus* として報告); 三宅 (1998)		●	Miyake et al. (1962; *Pagurus amomalus* として報告); 岸田 (1963a; *Pagurus amomalus* として報告)	
	Lophopagurus triserratus (Ortmann, 1892)	セルプラヤドカリ	●	大澤ほか (2015)		●	Yokoya (1933)	●
	Nematopagurus australis (Henderson, 1888)	ツメナガイトヒキヤドカリ				●	Osawa and Ota (2020)	●
	Nematopagurus tricarinatus (Stimpson, 1858)	イトヒキヤドカリ	●	大澤ほか (2015)		●	Osawa and Ota (2020)	●
	Pagurus conformis De Haan, 1849	メダマホンヤドカリ				●	Osawa and Ota (2020)	●
	Pagurus constans (Stimpson, 1858)	イガグリホンヤドカリ				●	Osawa and Ota (2020)	●
	Pagurus decimbranchiae Komai and Osawa, 2001	アオヒゲヒラホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)				●
	Pagurus erythrogrammus Komai, 2003	アカシマホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)		●	Osawa and Ota (2020)	●
	Pagurus filholi (De Man, 1887)	ホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)	島根半島 (河口)	●	Miyake et al. (1962; *P. samuelis* (Stimpson, 1857)として報告); 鳥取県立博物館 (2015)	●
	Pagurus japonicus (Stimpson, 1858)	ヤマトホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)		●	Miyake *et al.* (1962); 鳥取県立博物館 (2015)	●
	Pagurus lanuginosus De Haan, 1849	ケアシホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)		●	Miyake et al. (1962); 鳥取県立博物館 (2015)	●
	Pagurus maculosus Komai and Imafuku, 1996	ホシゾラホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)				●
	Pagurus minutus Hess, 1865	ユビナガホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)	中海, 境水道, 島根半島 (河口)	●	Miyake et al. (1962; *P. dubius* (Ortmann, 1892)として報告)	●
	Pagurus nigrivittatus Komai, 2003	クロシマホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)				●
	Pagurus nigrofascia Komai, 1996	ヨモギホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)				●
	Pagurus nipponensis (Yokoya, 1933)	シマハダカホンヤドカリ				●	Osawa and Ota (2020)	●
	Pagurus ochotensis Brandt, 1851	オホーツクホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)				●
	Pagurus proximus Komai, 2000	イクビホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)				●
	Pagurus quinquelineatus Komai, 2003	ゴホンアカシマホンヤドカリ	●	大澤ほか (2016)		●	Osawa and Ota (2020)	●
	Pagurus rathbuni (Benedict, 1892)	ラスバンホンヤドカリ	●	本尾ほか (2011); Komatsu (2014)		●	大澤ほか (2014)	●
	Pagurus rubrior Komai, 2003	ベニホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)		●	Miyake et al. (1962; *P. similis* (Ortmann, 1892) として報告)	●
	Pagurus spina Komai, 1994	ヒメケアシホンヤドカリ	●	大澤ほか (2014)				●
	Pagurus trigonocheirus (Stimpson, 1858)	ミツカドホンヤドカリ	●	Komatsu (2014)		●	Harada (1968)	
	Pagurus undosus (Benedict, 1892)	ミゾテホンヤドカリ	●	本尾ほか (2011)				
	Porcellanopagurus nihonkaiensis Takeda, 1985	マルミカイガラカツギ				●	Osawa and Ota (2020)	●
	Spiropagurus spiriger (De Haan, 1849)	ゼンマイヤドカリ				●	Miyake et al. (1962); 佐藤・加藤 (1996)	●

表 2. 続き 2.

	種 (学名)	種 (和名)	島根県	文献	汽水域・内湾環境における記録	鳥取県	文献	本報において扱った種
Pylochelidae ツノガイヤドカリ科 (1種)								
	Pomatocheles jeffreysii Miers, 1879	ツノガイヤドカリ	●	Yokoya (1933)				●
Lithodoidea タラバガニ上科								
Hapalogastridae ヒラトゲガニ科 (2種)								
	Hapalogaster dentata (De Haan, 1849)	ヒラトゲガニ	●	大澤ほか (2014)		●	本報	●
	Oedignathus inermis (Stimpson, 1860)	イボガニ	●	本報		●	Miyake et al. (1962); 岸田 (1963a)	●
Lithodidae タラバガニ科 (1種)								
	Paralithodes camtschaticus (Tilesius, 1815)	タラバガニ	●	上田 (1958)		●	Miyake et al. (1962); 岸田 (1963a)	●
Chirostyloidea ワラエビ上科								
Chirostylidae ワラエビ科 (1種)								
	Chirostylus ortmanni Miyake and Baba, 1968	オルトマンワラエビ				●	本報	●
Galatheoidea ガラテア上科								
Galatheidae コシオリエビ科 (4種)								
	Galathea guttata Osawa, 2004	テハンコシオリエビ (新称)				●	Osawa and Ota (2020)	●
	Galathea orientalis Stimpson, 1858	トウヨウコシオリエビ	●	大澤ほか (2014)		●	Miyake et al. (1962)	●
	Galathea peitho Macpherson and Robainas-Barcia, 2015	ニセウロココシオリエビ	●	大澤ほか (2018)				●
	Lauriea simulata Macpherson and Robainas-Barcia, 2013	ヒヅメコシオリエビ属の1種 (和名なし)	●	大澤ほか (2014)				●
Munididae チュウコシオリエビ科 (6種)								
	Bathymunida brevirostris (Yokoya, 1933)	ハバヒロチュウコシオリエビ (新称)				●	Osawa and Ota (2020)	●
	Grimothea princeps (Benedict, 1902)	オオコシオリエビ	●	大澤ほか (2014; *Cervimunida princeps* として報告)				●
	Paramunida tricarinata (Alcock, 1894)	ミツトゲザラザラチュウコシオリエビ				●	Osawa and Ota (2020)	●
	Trapezionida agave (Macpherson and Baba, 1993)	ハヤトチュウコシオリエビ (新称)				●	Osawa and Ota (2020; *Munida agave* として報告)	●
	Trapezionida japonica (Stimpson, 1858)*	チュウコシオリエビ	●	佐藤・加藤 (1996; *Munida japonica* として報告)				
	Trapezionida pherusa (Macpherson and Baba, 1993)	シロツノチュウコシオリエビ (新称)				●	Osawa and Ota (2020; *Munida pherusa* として報告)	●
Porcellanidae カニダマシ科 (7種)								
	Enosteoides ornatus (Stimpson, 1858)	トゲカニダマシ	●	大澤ほか (2016)				●
	Pachycheles hertwigi Balss, 1913	バルスカニダマシ	●	大澤ほか (2014)				●
	Pachycheles stevensii Stimpson, 1858	コブカニダマシ	●	大澤ほか (2014)		●	本報	●
	Petrolisthes coccineus (Owen, 1839)	オオアカハラ	●	大澤ほか (2014)				●
	Petrolisthes japonicus (De Haan, 1849)	イソカニダマシ	●	大澤ほか (2014)		●	本報	●
	Pisidia serratifrons (Stimpson, 1858)	フトウデネジレカニダマシ	●	大澤ほか (2014)	境水道	●	本報	●
	Porcellanella triloba White, 1852	ウミエラカニダマシ	●	大澤ほか (2014)	境水道			●

表 3. 分布パタンに基づいて分別した山陰沿岸から記録されている異尾類
*: 種同定の正否については検証が必要

	種 (学名)	種 (和名)	備考
東アジア固有要素: 45種 (山陰全体の記録種の56%)			
Hippoidea スナホリガニ上科			
Blepharipodidae キタクダヒゲガニ科			
	Blepharipoda liberata Shen, 1949	フシメクダヒゲガニ	
Hippidae スナホリガニ科			
	Hippa trancatifrons (Miers, 1878)	ハマスナホリガニ	分布南限: 台湾
Paguroidea ホンヤドカリ上科			
Diogenidae ヤドカリ科			
	Aniculus miyakei Forest, 1984*	ホンドオニヤドカリ	分布南限: 台湾
	Areopaguristes japonicus (Miyake, 1961)	ブチヒメヨコバサミ	
	Dardanus impressus (De Haan, 1849)	イボアシヤドカリ	分布南限: 台湾
	Diogenes edwardsii (De Haan, 1849)	トゲツノヤドカリ	分布南限: 台湾, 香港
	Diogenes izanamiae Asakura, 2006	イザナミツノヤドカリ	
	Diogenes nitidimanus Terao, 1913	テナガツノヤドカリ	分布南限: 台湾
	Diogenes penicillatus Stimpson, 1858	フサゲツノヤドカリ	分布南限: 台湾
	Diogenes spinifrons (De Haan, 1849)	トゲトゲツノヤドカリ	分布南限: 台湾
	Paguristes digitalis Stimpson, 1858	ヤスリヒメヨコバサミ	
	Paguristes ortmanni Miyake, 1978	ケブカヒメヨコバサミ	
	Paguristes versus Komai, 2001	カゴシマヒメヨコバサミ	分布南限: 台湾
Paguridae ホンヤドカリ科			
	Anapagurus japonicus Ortmann, 1892	ユミナリヤドカリ	
	Catapaguroides fragilis (Melin, 1939)	マダラヒメヤドカリ	
	Catapaguroides japonicus de Saint Laurent, 1968	ヒメヤドカリ	
	Diacanthurus ophthalmicus (Ortmann, 1892)*	メナガホンヤドカリ	分布南限: 台湾
	Labidochirus anomalus (Balss, 1913)	ニホンサメハダホンヤドカリ	
	Pagurus conformis De Haan, 1849	メダマホンヤドカリ	分布南限: 台湾
	Pagurus constans (Stimpson, 1858)	イガグリホンヤドカリ	
	Pagurus decimbranchiae Komai and Osawa, 2001	アオヒゲヒラホンヤドカリ	
	Pagurus erythrogrammus Komai, 2003	アカシマホンヤドカリ	
	Pagurus filholi (De Man, 1887)	ホンヤドカリ	
	Pagurus japonicus (Stimpson, 1858)	ヤマトホンヤドカリ	分布南限: 台湾
	Pagurus lanuginosus De Haan, 1849	ケアシホンヤドカリ	
	Pagurus maculosus Komai and Imafuku, 1996	ホシゾラホンヤドカリ	
	Pagurus minutus Hess, 1865	ユビナガホンヤドカリ	分布南限: 台湾
	Pagurus nigrivittatus Komai, 2003	クロシマホンヤドカリ	分布南限: 台湾
	Pagurus nigrofascia Komai, 1996	ヨモギホンヤドカリ	
	Pagurus nipponensis (Yokoya, 1933)	シマハダカホンヤドカリ	分布南限: 台湾
	Pagurus proximus Komai, 2000	イクビホンヤドカリ	

表 3. 続き 1.

	種 (学名)	種 (和名)	備考
	Pagurus quinquelineatus Komai, 2003	ゴホンアカシマホンヤドカリ	
	Pagurus rubrior Komai, 2003	ベニホンヤドカリ	
	Pagurus spina Komai, 1994	ヒメケアシホンヤドカリ	
	Porcellanopagurus nihonkaiensis Takeda, 1985	マルミカイガラカツギ	
Pylochelidae ツノガイヤドカリ科			
	Pomatocheles jeffreysii Miers, 1879	ツノガイヤドカリ	分布南限: 台湾
Lithodoidea タラバガニ上科			
Hapalogastridae ヒラトゲガニ科			
	Hapalogaster dentata (De Haan, 1849)	ヒラトゲガニ	
	Oedignathus inermis (Stimpson, 1860)	イボガニ	
Chirostyloidea ワラエビ上科			
Chirostylidae ワラエビ科			
	Chirostylus ortmanni Miyake and Baba, 1968	オルトマンワラエビ	分布南限: 台湾
Galatheoidea ガラテア上科			
Munididae チュウコシオリエビ科			
	Bathymunida brevirostris (Yokoya, 1933)	ハバヒロチュウコシオリエビ (新称)	
Porcellanidae カニダマシ科			
	Pachycheles hertwigi Balss, 1913	バルスカニダマシ	
	Pachycheles stevensii Stimpson, 1858	コブカニダマシ	
	Petrolisthes japonicus (De Haan, 1849)	イソカニダマシ	分布南限: 台湾, 香港
	Pisidia serratifrons (Stimpson, 1858)	フトウデネジレカニダマシ	分布南限: 台湾海峡, 南シナ海
	Porcellana pulchra Stimpson, 1858	ベッコウカニダマシ	分布南限: 香港
インドー西太平洋要素: 29種 (36%)			
Hippoidea スナホリガニ上科			
Albuneidae クダヒゲガニ科			
	Albunea groeningi Boyko, 2002	ヒメクダヒゲガニ	
	Albunea symmysta (Linnaeus, 1758)*	クダヒゲガニ	
	Paralbunea dayriti (Serène and Umali, 1965)	ナメラカクダヒゲガニ	
Paguroidea ホンヤドカリ上科			
Diogenidae ヤドカリ科			
	Clibanarius virescens (Krauss, 1843)	イソヨコバサミ	
	Dardanus arrosor (Herbst, 1796)	ケスジヤドカリ	
	Dardanus aspersus (Berthold, 1845)	アカボシヤドカリ	
	Dardanus crassimanus (H. Milne Edwards, 1836)	イシダタミヤドカリ	
	Dardanus pedunculatus (Herbst, 1804)*	ソメンヤドカリ	

表 3. 続き 2.

	種 (学名)	種 (和名)	備考
	Dardanus sanguinolentus (Quoy and Gaimard, 1824)	ヤドカリ属の1種（和名なし）	
	Diogenes pallescens Whitelegge, 1897	ツノヤドカリ属の1種（和名なし）	
	Paguristes gonagrus (H. Milne Edwards, 1836)	ヒノマルヒメヨコバサミ	
	Lophopagurus triserratus (Ortmann, 1892)	セルプラヤドカリ	
	Nematopagurus australis (Henderson, 1888)	ツメナガイトヒキヤドカリ	
	Nematopagurus tricarinatus (Stimpson, 1858)	イトヒキヤドカリ	
	Spiropagurus spiriger (De Haan, 1849)	ゼンマイヤドカリ	
	Turleania senticosa (McLaughlin and Haig, 1996)	トゲネジレヤドカリ	
Galatheoidea ガラテア上科			
Galatheidae コシオリエビ科			
	Allogalathea elegans (Adams and White, 1848)	コマチコシオリエビ	
	Galathea guttata Osawa, 2004	テハンコシオリエビ (新称)	
	Galathea orientalis Stimpson, 1858	トウヨウコシオリエビ	
	Galathea peitho Macpherson and Robainas-Barcia, 2015	ニセウロココシオリエビ	
	Lauriea simulata Macpherson and Robainas-Barcia, 2013	ヒゾメコシオリエビ属の1種 (和名なし)	
Munididae チュウコシオリエビ科			
	Grimothea princeps (Benedict, 1902)	オオコシオリエビ	
	Paramunida tricarinata (Alcock, 1894)	ミツトゲザラザラチュウコシオリエビ	
	Trapezionida agave (Macpherson and Baba, 1993)	ハヤトチュウコシオリエビ (新称)	
	Trapezionida japonica (Stimpson, 1858)*	チュウコシオリエビ	
	Trapezionida pherusa (Macpherson and Baba, 1993)	シロツノチュウコシオリエビ (新称)	
Porcellanidae カニダマシ科			
	Enosteoides ornatus (Stimpson, 1858)	トゲカニダマシ	
	Petrolisthes coccineus (Owen, 1839)	オオアカハラ	
	Porcellanella triloba White, 1852	ウミエラカニダマシ	
北太平洋要素: 6種 (8%)			
Paguroidea ホンヤドカリ上科			
Paguridae ホンヤドカリ科			
	Elassochirus cavimanus (Miers, 1879)	ゴトウヤドカリ	
	Pagurus ochotensis Brandt, 1851	オホーツクホンヤドカリ	
	Pagurus rathbuni (Benedict, 1892)	ラスバンホンヤドカリ	
	Pagurus trigonocheirus (Stimpson, 1858)	ミツカドホンヤドカリ	
	Pagurus undosus (Benedict, 1892)	ミゾテホンヤドカリ	
Lithodoidea タラバガニ上科			
Lithodidae タラバガニ科			
	Paralithodes camtschaticus (Tilesius, 1815)	タラバガニ	

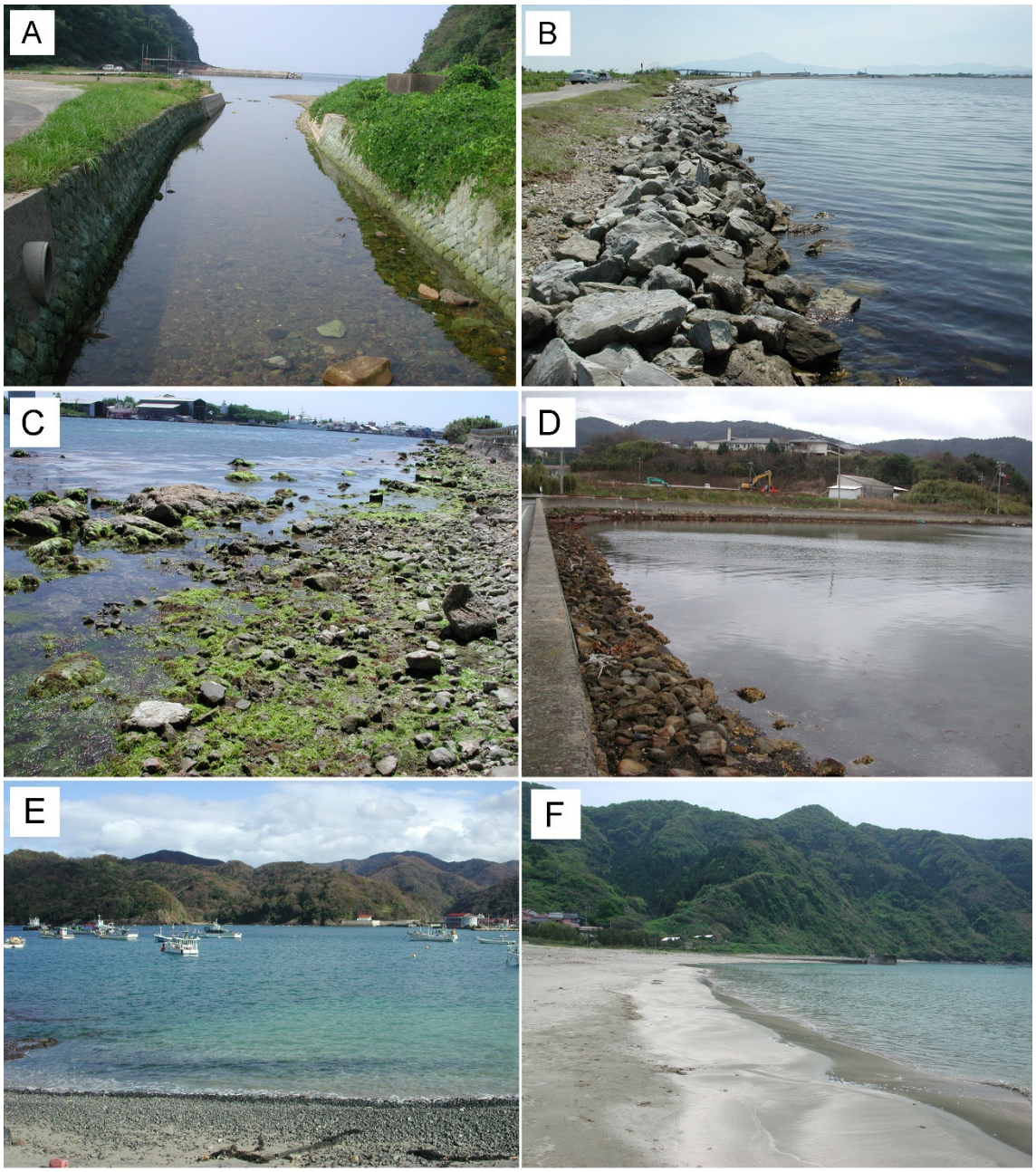


図 4. A, 島根県松江市島根町佐波, 小河川, 河口部; B, 松江市八束町森山堤防, 護岸, 転石域; C, 松江市美保関町森山, 礫・砂泥域; D, 海士町福井 (隠岐諸島島前中ノ島), 礫・砂泥域; E, 島根町加賀桂島, 南側の湾, 砂域; F, 松江市鹿島町古浦, 砂浜.

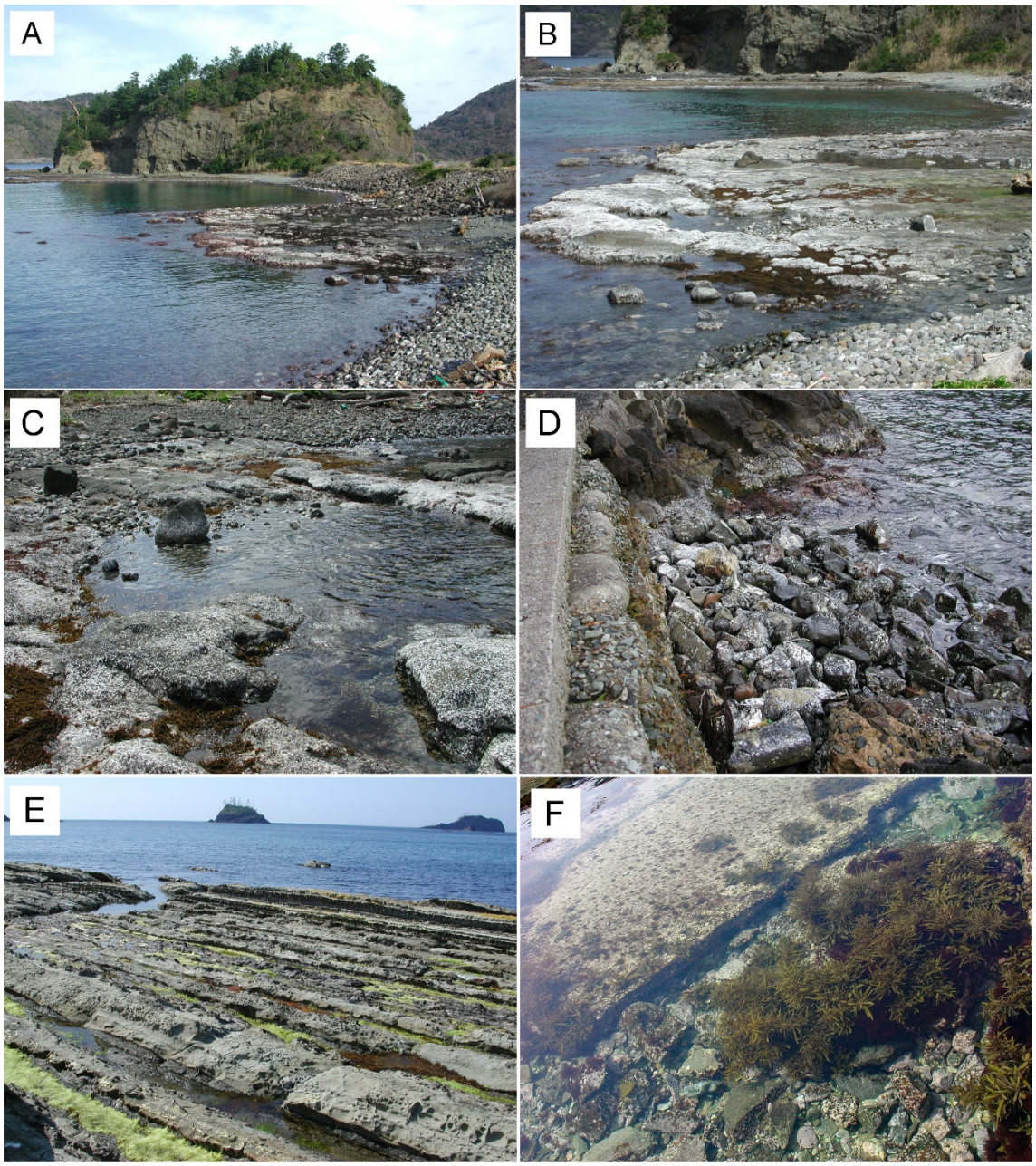


図 5. A, 島根県松江市島根町加賀桂島, 北側の湾; B, 同, 湾の中央, 岩礁・転石域; C, 同, 湾の中央, 岩礁, タイドプール; D, 同, 湾の左方, 転石域; E, 松江市島根町小具, 岩礁; F, 同, 潮下帯, 転石域.

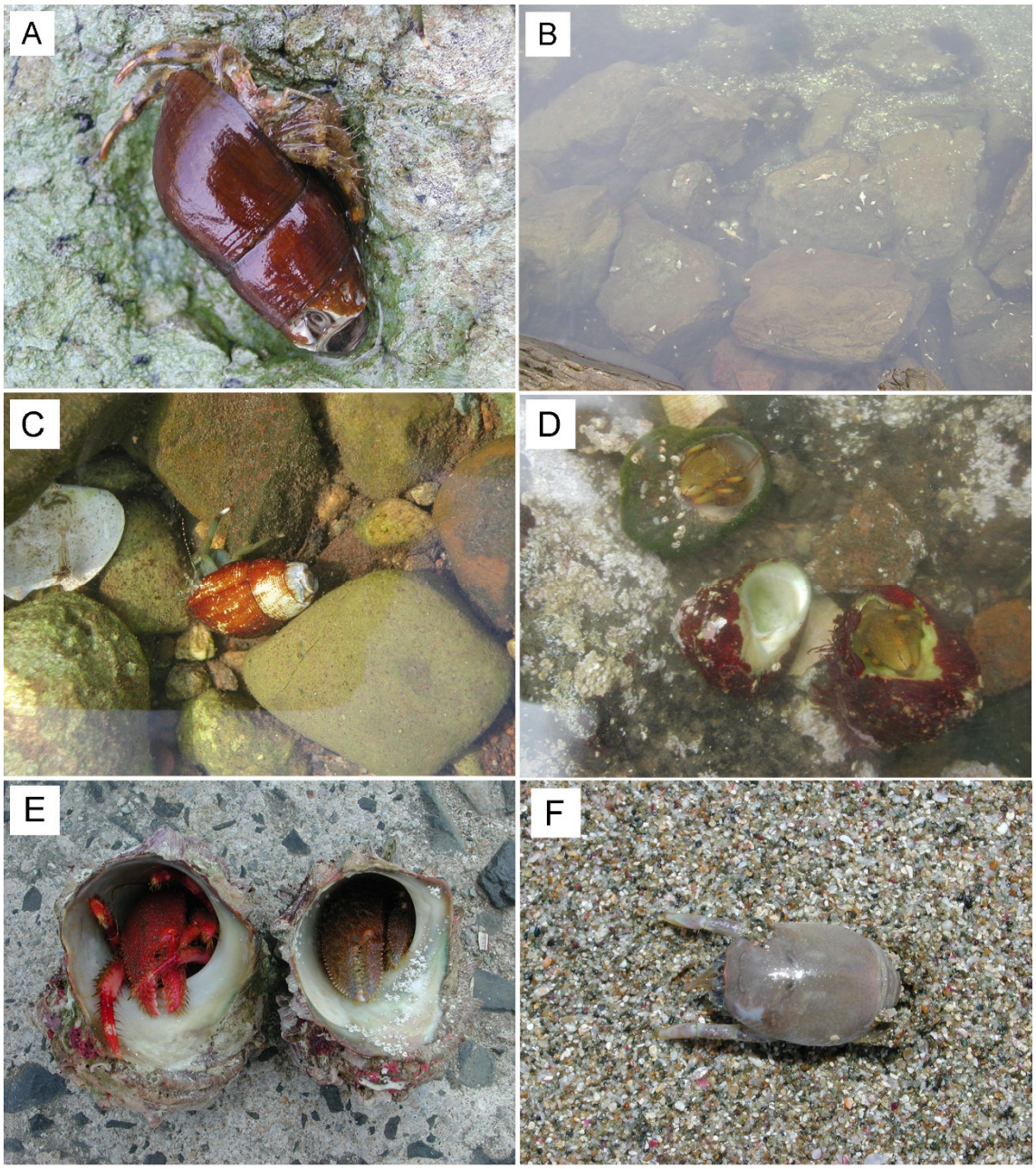


図 6. A, ユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus* Hess, 1865 (島根県松江市島根町佐波); B, ユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus* Hess, 1865 (松江市八束町森山堤防); C, ホンヤドカリ *Pagurus filholi* (De Man, 1887) (松江市島根町佐波); D, ヨモギホンヤドカリ *Pagurus nigrofascia* Komai, 1996 (海士町福井); E, ベニホンヤドカリ *Pagurus rubrior* Komai, 2003 (左側), ヤマトホンヤドカリ *Pagurus japonicus* (Stimpson, 1858) (右側) (松江市島根町小具); F, ハマスナホリガニ *Hippa trancatifrons* (Miers, 1878) (松江市鹿島町古浦).

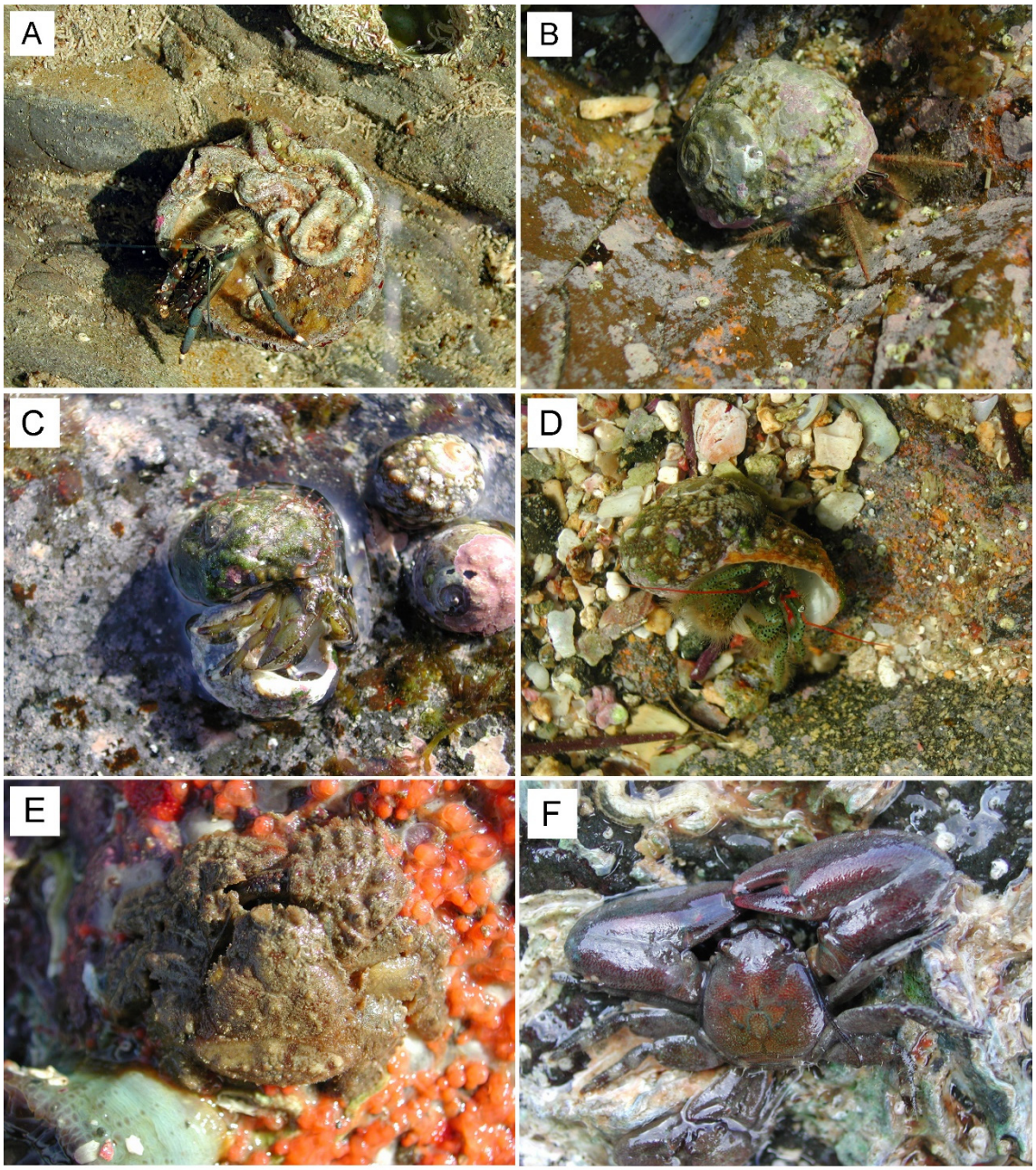


図 7. A, イソヨコバサミ *Clibanarius virescens* (Krauss, 1843) (島根県松江市島根町小具); B,ケブカヒメヨコバサミ *Paguristes ortmanni* Miyake, 1978 (松江市美保関町菅浦); C, ホンヤドカリ *Pagurus filholi* (De Man, 1887) (松江市島根町加賀桂島); D, ケアシホンヤドカリ *Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849 (松江市美保関町菅浦); E, ヒラトゲガニ *Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849) (松江市島根町加賀桂島); F, イソカニダマシ *Petrolisthes japonicus* (De Haan, 1849) (松江市島根町加賀桂島).

島根県および鳥取県沿岸からの記録種の説明

「山陰」から記録されている 82 種 (表 1)のうち，過去の報告，そして新たに検討した標本および生時の個体画像に基づいて，島根県および鳥取県沿岸から合計 75 種が記録・確認されており (表 2)，当地域の記録種は，「山陰」全体の記録種のほぼ全体を網羅している．そのうち，標本または画像を直接検討することができた 67 種について概説する．なお調査標本には，これまでに記録情報の少ない兵庫県沿岸から採集された標本も一部加えている．

Hippoidea スナホリガニ上科

Albuneidae クダヒゲガニ科

Albunea groeningi Boyko, 2002 ヒメクダヒゲガニ
(図 8)

調査標本．鳥取県． 美保湾，アカエイ胃内容物，2013 年 6 月 18 日，1 オス (cl 6.3 mm)，3 メス (cl 7.5–8.3 mm)，SNMH．美保湾，ヨコスジフエダイ胃内容物，2013 年 10 月 1 日，1 メス (cl 7.9 mm)，SNMH．

分布． マダガスカル，オーストラリア，マレーシア・フィリピンから台湾・日本 (Boyko, 2002, 2010)．国内の記録は，太平洋側では愛知県，三重県，高知県，日本海側では富山県，鳥取県，そして沖縄島 (Boyko, 2002; Osawa and Fujita, 2007; 締次・木村, 2019)．

生息場所． 砂泥底；潮間帯から水深 45.7 m (Boyko, 2002; Osawa and Fujita, 2007)．

備考． 調査標本は，美保湾において採集されたアカエイ *Hemitrygon akajei* (Bürger in Müller and Henle, 1841)およびヨコスジフエダイ *Lutjanus ophuysenii* (Bleeker, 1860)の胃内容物中から得られた．

日本海沿岸から記録されているクダヒゲガニ科は，ヒメクダヒゲガニ，クダヒゲガニ *Albunea symmysta* (Linnaeus, 1758)，ナメラカクダヒゲガニ *Paralbunea dayriti* (Serène and Umali, 1965)の 3 種を含む (岸田, 1963a; Boyko, 2002; 大澤ほか, 2022)が，本科の記録は日本側本州沿岸に限られている．ただし，Boyko (2002)以前の日本国内の報文では，日本周辺沿岸のクダヒゲガニ科の種に対して主に「クダヒゲガニ *A. symmysta*」の名前のみが認識されていた．そのため過去の記録では，ヒメクダヒゲガニやコジワクダヒゲガニ *Albunea occulta* Boyko, 2002 のような近似の別種が「クダヒゲガニ」として同定されていた可能性がある．山陰からの「クダヒゲガニ」記録 (岸田, 1963a: 兵庫県新温泉町諸寄；佐藤・加藤, 1996: 鳥取県美保湾)は，その種名が記載されているのみであり，検証できない．

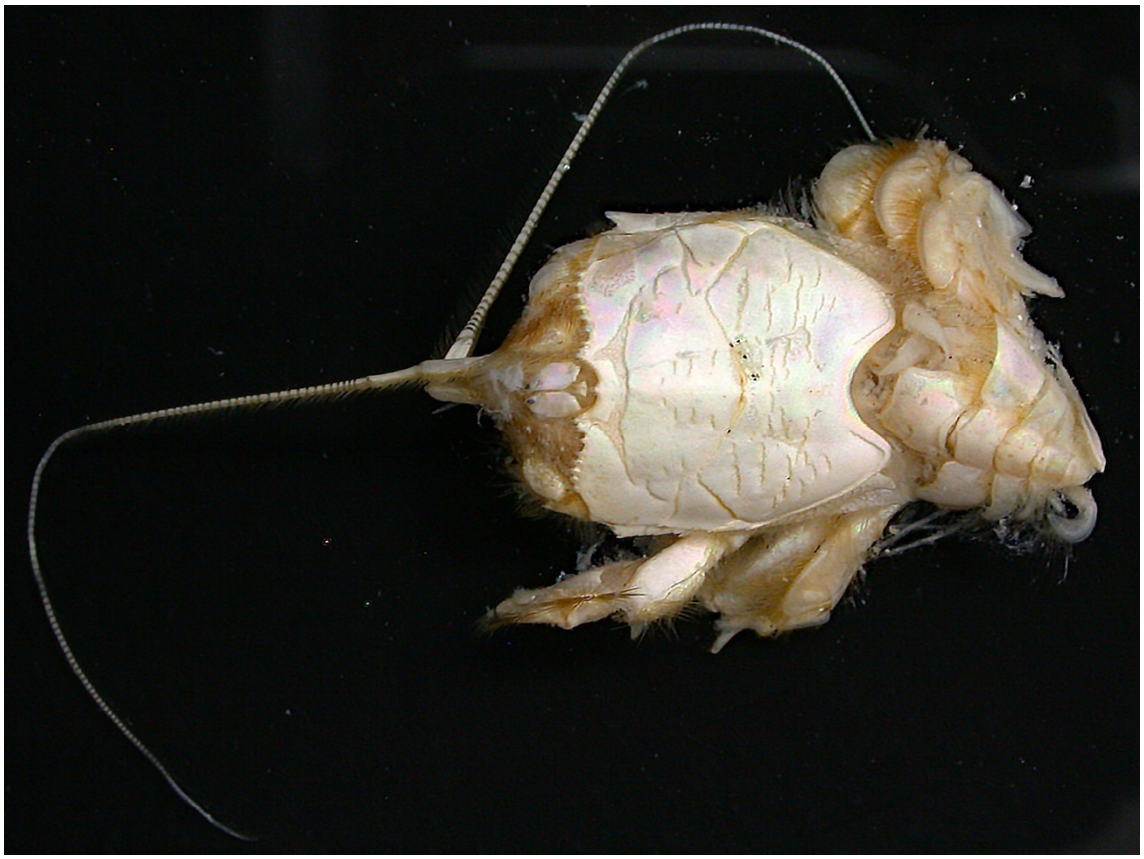


図 8. *Albunea groeningi* Boyko, 2002 ヒメクダヒゲガニ, 鳥取県美保湾, メス (cl 8.3 mm), エタノール液浸.

***Paralbunea dayriti* (Serène and Umali, 1965)** ナメラカクダヒゲガニ
(図 9)

調査標本. 島根県. 松江市美保関町菅浦 (菅浦湾西部), 水深 5–6 m, 砂底, 2020 年 9 月 10 日, 1 性不明・破損個体 (cl 10.3 mm), SNMH.

分布. オーストラリア (西オーストラリア, クィーンズランド, ニューサウスウェールズ), ニューカレドニア, タヒチ, マーシャル諸島, マリアナ諸島 (グアム), フィリピン, 台湾, 日本 (Boyko, 2002, 2010; Osawa et al., 2010). なお, Boyko (2020)が報告しているフィリピン産の標本は, 水深 50–500 m に仕掛けられた刺網により採集されている. 国内の記録は, 太平洋側では千葉県, 神奈川県, 愛知県, 和歌山県, 日本海・東シナ海側では島根県, 長崎県, 熊本県 (Boyko, 2002; 大澤ほか, 2022).

生息場所. 水深 6.1–45.5 m (Boyko, 2002). 島根県から採集された標本は, 水深 5–6 m の砂底において, 表面から約 10 cm の深さに埋在していた (大澤ほか, 2022).

備考. 調査標本は, 採集後に腹部や胸脚を紛失した破損個体である.

日本から記録されているナメラカクダヒゲガニ属 *Paralbunea* Serène, 1977 は, ナメラカクダヒゲガニと沖縄島から記載されたタケダクダヒゲガニ *P. takedai* Osawa and Fujita, 2012 の 2 種であり, 日本海沿岸からの記録はナメラカクダヒゲガニに限られる (Boyko, 2002; Osawa and Fujita, 2012; 大澤ほか, 2022).

図 9. *Paralbunea dayriti* (Serène and Umali, 1965) ナメラカクダヒゲガニ, 島根県松江市美保関町菅浦, 性不明個体 (cl 10.3 mm), エタノール液浸.

Blepharipodidae キタクダヒゲガニ科

***Blepharipoda liberata* Shen, 1949** フシメクダヒゲガニ
(図 10)

調査標本. 鳥取県. 福部 (鳥取市福部町), 水深 50–90 m, 1953 年 5 月 17 日, 1 抱卵メス (cl 28.0 mm), TRPM (305-061-02).

分布. 中国, 韓国, 日本 (Boyko, 2002). 国内の記録は, 太平洋側では相模湾, 和歌山県, 日本海・東シナ海側では北海道 (余市町) から山口県, 福岡県, 熊本県 (天草市) (本尾, 2007; 三宅, 1998).

生息場所. 砂泥底; 低潮線下から水深 90 m (朝倉, 1995; 三宅, 1998).

備考. 調査標本は, Miyake (1978) が検討した標本中に含まれている 1 個体である. 標本は保存液中で脱灰が進んでおり, 現在の状態は良くない.

島根県・鳥取県におけるフシメクダヒゲガニの記録は, 島根県西ノ島町 (隠岐諸島島前西ノ島; 加藤・池田, 1992), 鳥取県鳥取市賀露町・福部町 (Miyake, 1978; Boyko, 2002)を含む.

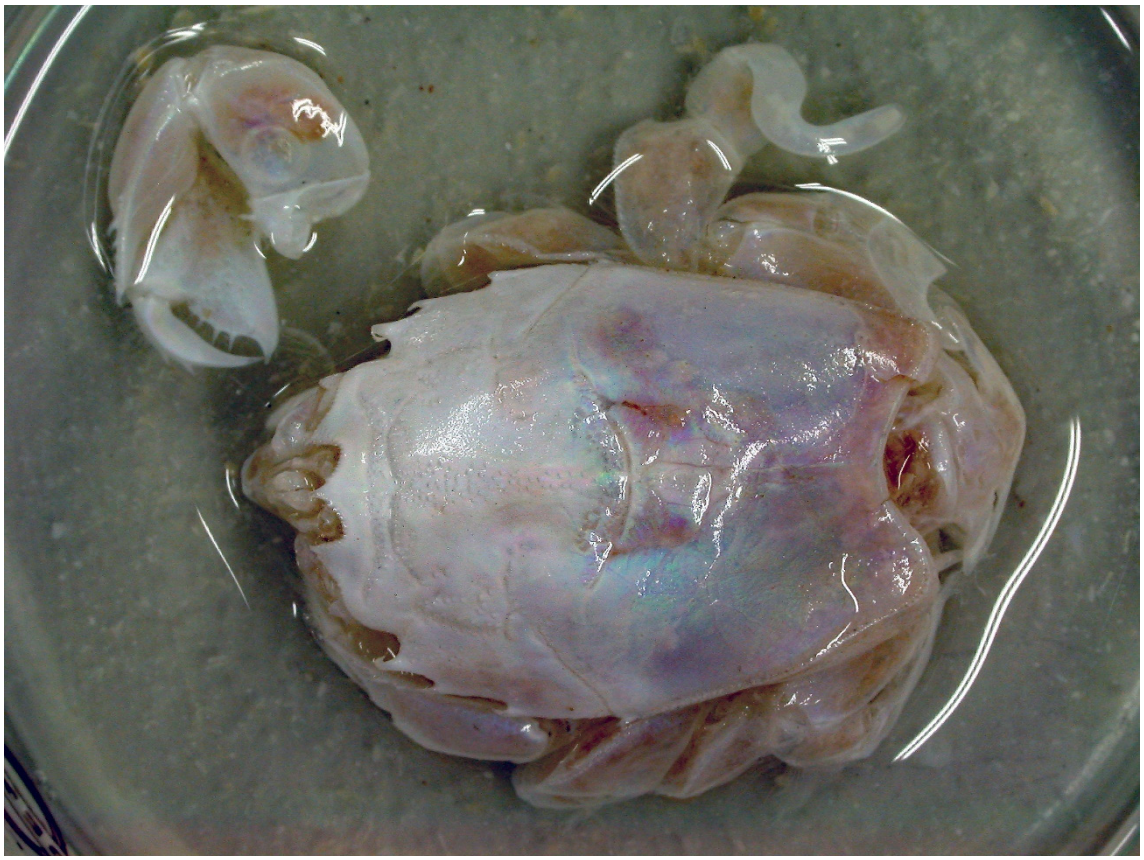


図 10. *Blepharipoda liberata* Shen, 1949 フシメクダヒガガニ, 鳥取県鳥取市福部町, 抱卵メス (cl 28.0 mm), 液浸.

Hippidae スナホリガニ科

***Hippa trancatifrons* (Miers, 1878)** ハマスナホリガニ
(図 6F, 11)

調査標本. 島根県. 松江市鹿島町古浦, 砂浜, 潮間帯, 2013 年 5 月 18 日, 2 メス (cl 14.6, 15.8 mm), SNMH. **鳥取県.** 岩美町羽尾, 2009 年 8 月 16 日, 1 メス (cl 7.2 mm), 2 抱卵メス (cl 8.5, 9.2 mm), TRPM-CB-0000592. 羽合町 (湯梨浜町)宇野, 2001 年 9 月 8 日, 8 乾燥性未確認個体 (cl 6.7–9.0 mm), TRPM (未登録).

分布. 中国, 台湾, 日本 (太平洋側: 相模湾, 駿河湾, 高知県; 日本海・東シナ海側: 山形県から福岡県, 鹿児島県長崎鼻 (加藤・鈴木, 1992; 三宅, 1998; Osawa et al., 2010; 土井・鈴木, 2022).

生息場所. 砂浜; 潮間帯, 波打ち際 (加藤・鈴木, 1992; 峯水, 2002; 図 3F).

備考. 日本沿岸からのスナホリガニ属 *Hippa* Fabricius, 1787 は, ミナミスナホリガニ *H. adactyla* Fabricius, 1787, スナホリガニ *H. marmorata* (Hombron and Jacquinot, 1846), ハマスナホリガニの 3 種を含む (三宅, 1998; Osawa et al., 2010). 日本海沿岸では, ハマスナホリガニのみが確認されている.

本種は, 波打ち際付近において, 波の流動に合わせて砂地中に潜ったり, 砂地中から出たりという行動を繰り返しているため, 通常見出すことは難しい. 加えて, 同じ砂浜でも生息している場所は限定されている可能性があり, 普段は目に触れることが少ない沿岸性の異尾類であると考えられる.

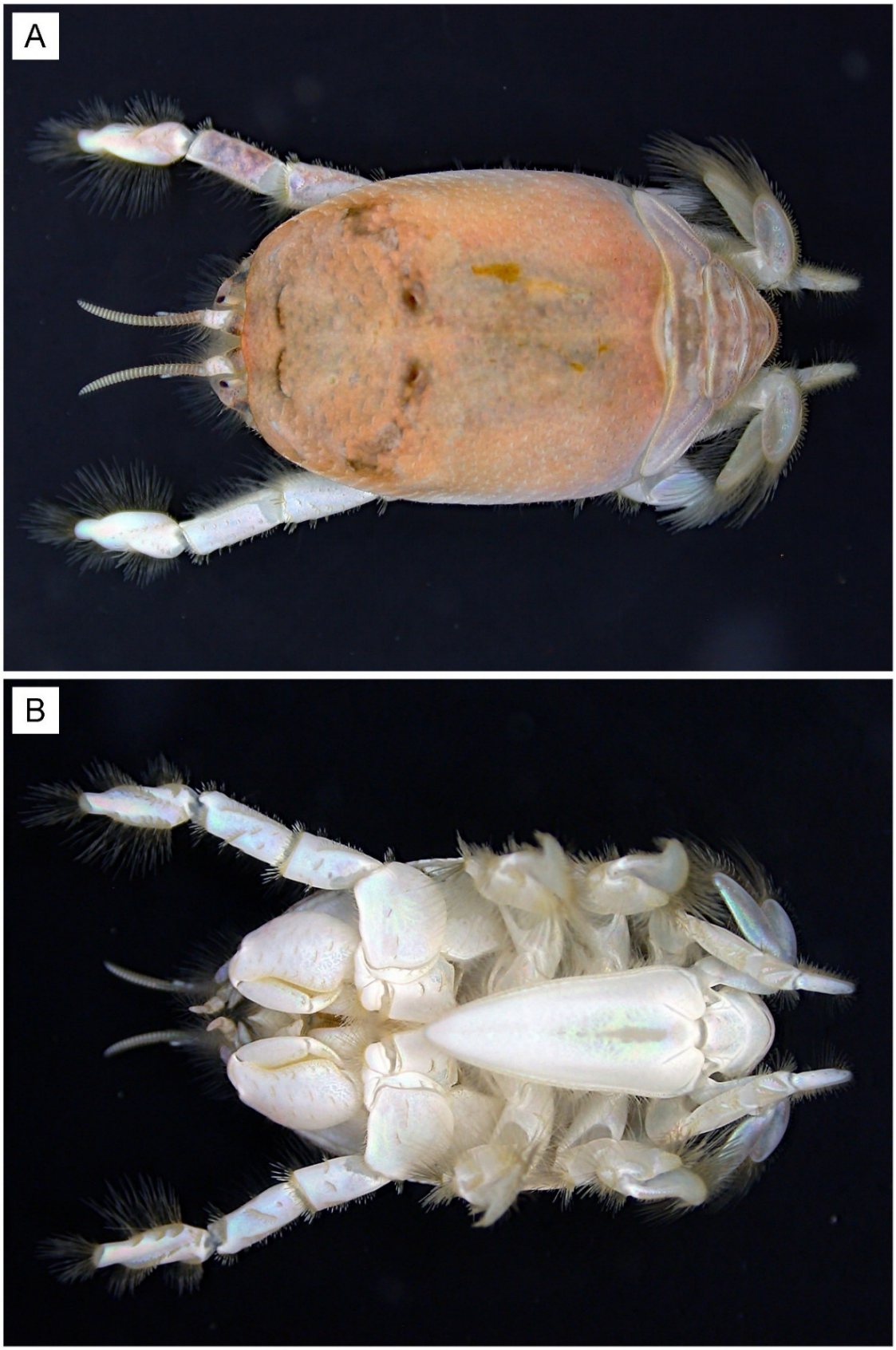


図 11. *Hippa trancatifrons* (Miers, 1878) ハマスナホリガニ，島根県松江市鹿島町古浦，メス (cl15.8 mm)，背面 (A)；同，腹面 (B).

Paguroidea ホンヤドカリ上科
Hippidae スナホリガニ科
Diogenidae ヤドカリ科

***Areopaguristes japonicus* (Miyake, 1961)** ブチヒメヨコバサミ
(図 12)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, タコつぼ, 2013 年 4 月 20 日, 1 抱卵メス (sl 3.9 mm), SNMH. . 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 1 オス (sl 3.9 mm), SNMH. **鳥取県.** 岩美町田後沖, 小坊主, 水深 17 m, SCUBA, 2019 年 5 月 12 日, 1 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 岩美町田後沖, ヤマダシ, 35°60.2′N, 134°31.1′E, 水深 26 m, SCUBA, 2019 年 6 月 4 日, 1 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録).

分布. 日本 (房総半島・福井県から九州まで, 伊豆大島), 韓国 (奥野・有馬, 2004, *Paguristes japonicus* として報告; Komai, 2009, *Stratiotes japonicus* として報告; Kim and Kim, 2014).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 25 m (Komai, 2009, *Stratiotes japonicus* として報告).

備考. 本種は *Paguristes* Dana, 1851 として記載されたが, 現在は Rahayu and McLaughlin (2010)によって *Areopaguristes* Rahayu and McLaughlin, 2010 (ブチヒメヨコバサミ属)に所属が変更されている. Komai (2009)は, ブチヒメヨコバサミを再記載するとともに, 新種クロトゲヒメヨコバサミ *Stratiotes nigroapiculus* Komai, 2009 を記載し, これらの 2 種はよく似ていることから, 後者はブチヒメヨコバサミの過去の記録報告において混同されていたことを述べている. なお, これら 2 種が属する *Stratiotes* Thomson, 1899 は, *Stratiotes* Putzeys, 1846 (甲虫目)の新参同名 (junior homonym)であることが判明したことから, 先に触れたとおり Rahayu and McLaughlin (2010)によって, 前者に対して置換名 *Areopaguristes* が与えられている. その後 Marin (2016)は, *Areopaguristes nigroapiculus* を *A. hirsutimanus* (Kobjakova, 1971)の新参異名 (junior synonym)と結論付けている.

図 12. *Areopaguristes japonicus* (Miyake, 1961) ブチヒメヨコバサミ, 島根県隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), オス (sl 3.9 mm).

***Clibanarius virescens* (Krauss, 1843) イソヨコバサミ**
(図 7A, 13)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013 年 4 月 16 日, 1 オス (sl 6.1 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013 年 5 月 14 日, 2 オス (sl 6.0, 6.4 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013 年 10 月 10 日, 1 オス (sl 6.8 mm), SNMH. **鳥取県.** 東伯町 (琴浦町)逢束沖合 40 m, 水深 4 m, 1990 年 8 月 1 日, 2 乾燥個体 (1 オス, sl 5.6 mm; 性未確認, sl 未測定), TRPM (未登録).

分布. アフリカ東岸からインドネシア, タイ, 台湾, 日本 (東京湾・石川県から九州まで, 琉球列島), 韓国, フィジー (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 海草藻場, 砂底, 岩礁, サンゴ礁; 潮間帯から水深 15 m (峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007).

備考. イソヨコバサミは, 日本沿岸の岩礁潮間帯において確認できる代表的なヤドカリ類の 1 種である.

品川・秦 (2005)は, 松江市鹿島町御津において岩礁潮間帯の生物分布の調査を行っており, イソヨコバサミは同所的に見られるホンヤドカリ *Pagurus filholi* (De Man, 1887)に比べてより低塩分域においても生息できる広塩性の海岸動物であると報告している. しかし, この場所と同様に日本海に面した松江市島根町佐波の小河川の河口部の低塩分域では, ユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus* Hess, 1865 とホンヤドカリのみが見られ, イソヨコバサミは確認されていない. 島根半島沿岸では, ホンヤドカリに比べてイソヨコバサミの出現個体数が明らかに少ない.

図 13. *Clibanarius virescens* (Krauss, 1843) イソヨコバサミ, 松江市島根町小具, オス (sl 未測定).

***Dardanus arrosor* (Herbst, 1796)** ケスジヤドカリ
(図 14)

調査標本. 島根県. 松江市境水道, 底曳網, 2005 年 10 月 20 日, 1 メス (sl 23.7 mm), SNMH. 松江市島根町野波, 漁港, 底刺網, 漁獲残物, 2014 年 6 月 21 日, 1 オス (sl 9.3 mm), SNMH. **鳥取県.** 鳥取市長尾鼻沖, 35°55´N, 134°00´E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 1 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55´N, 134°00´E, 水深 120 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 1 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録).

分布. アフリカ西岸 (ギニア湾)・東岸, 地中海, 紅海, フィリピン, 台湾, 日本 (相模湾・男鹿半島から九州まで), 韓国, 東シナ海, オーストラリア, ニュージーランド (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007).

生息場所. 砂泥底, 岩礁; 水深 15–290 m (三宅, 1998; 峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007).

備考. ケスジヤドカリは, アカボシヤドカリ *Dardanus aspersus* (Berthold, 1845)およびトゲツノヤドカリ *Diogenes edwardsii* (De Haan, 1849)とともに, 島根半島沿岸の砂泥底における底曳網漁業で混獲される代表的なヤドカリ類である.

本種は, 宿貝の表面にヤドカリイソギンチャク *Calliactis japonica* Carlgren, 1928 を付けることがある (有馬, 2014).

図 14. *Dardanus arrosor* (Herbst, 1796) ケスジヤドカリ, 島根県松江市島根町野波, 漁港,オス (sl 9.3 mm).

***Dardanus aspersus* (Berthold, 1845)** アカボシヤドカリ
(図 15A)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 漁獲残物, 2013 年 6 月 26 日, 1 性未確認個体 (sl 12.2 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, 漁獲残物, 2013 年 9 月 10 日, 1 メス (sl 16.7 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, かご網, 2013 年 11 月 9 日, 1 メス (sl 22.2 mm), SNMH.

分布. 日本 (房総半島・富山湾から九州まで), 台湾, 東シナ海, 南シナ海, アンダマン海 (McLaughlin, 2002a; Asakura, 2006).

生息場所. 砂泥底; 水深 15–50 m (峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007).

備考. Miyake (1978)および三宅 (1998)は, ワタセヤドカリ *Dardanus watasei* (Terao, 1913)をヒラテヤドカリ *Dardanus scutellatus* (H. Milne Edwards, 1836)と同一種とみなした. しかしながら, Osawa (2013)は, 前者のタイプ (模式)標本の再検討に基づき, アカボシヤドカリと同一種であることを明らかにした. なおヒラテヤドカリは, 東アフリカからフレンチポリネシアにわたるインド－西太平洋の広域に分布する種であり, 日本では琉球列島と小笠原諸島から記録されている (三宅, 1998; Rahayu and Osawa, 2012; Poupin et al., 2013). ヒラテヤドカリは, 形態および色彩ともアカボシヤドカリとは大きく異なる (図 15B).

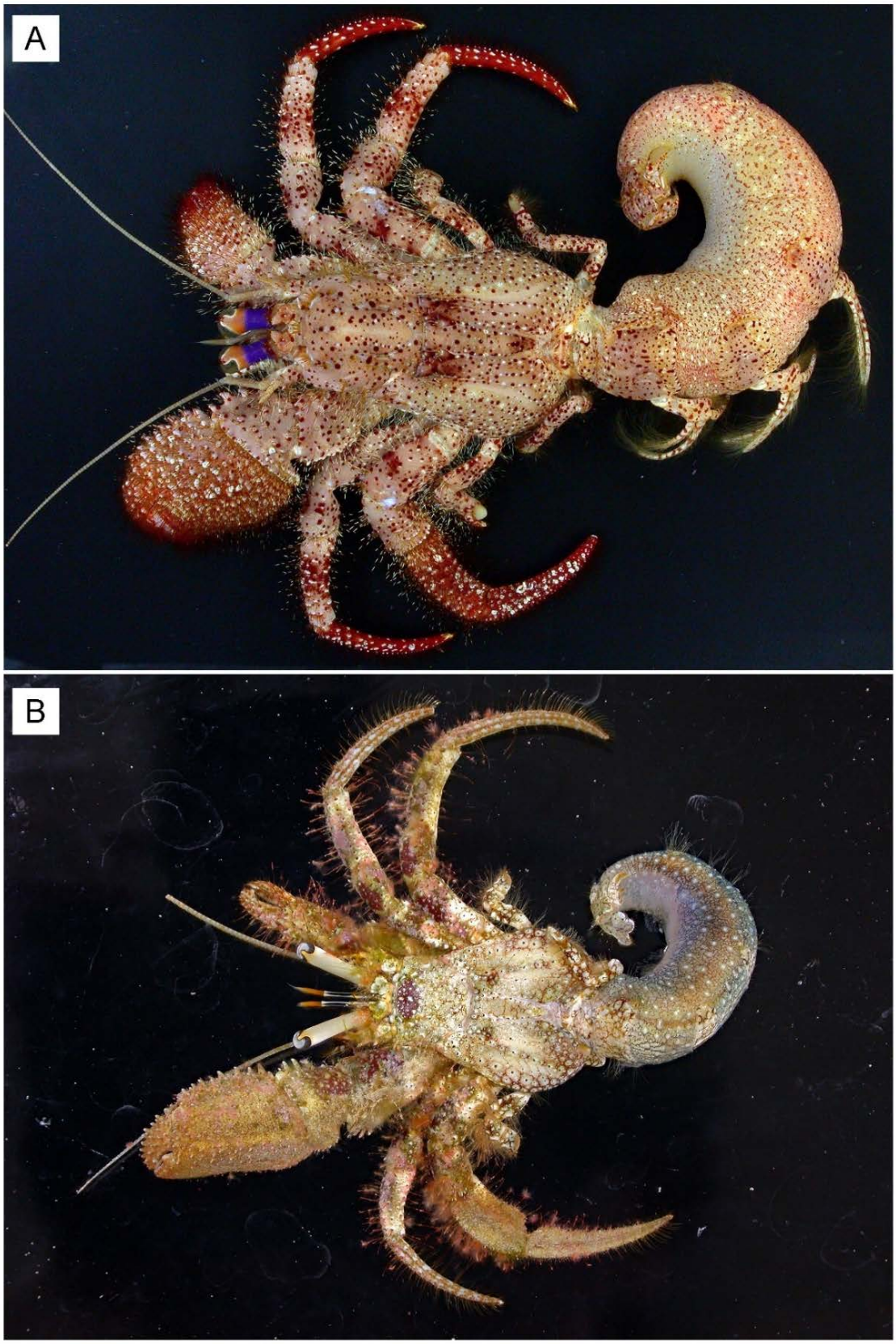


図 15. *Dardanus aspersus* (Berthold, 1845) アカボシヤドカリ，島根県松江市島根町野波，漁港，メス (sl 未測定) (A); *Dardanus scutellatus* (H. Milne Edwards, 1836) ヒラテヤドカリ，沖縄県浦添市空寿崎 (沖縄島)，オス (sl 未測定) (B).

***Dardanus crassimanus* (H. Milne Edwards, 1836)** イシダタミヤドカリ
(図 16)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 漁獲残物, 2013 年 7 月 9 日, 1 メス (sl 19.0 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 2013 年 8 月 2 日, 1 オス (sl 18.0 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 2013 年 8 月 9 日, 1 メス (sl 13.0 mm), SNMH.

分布. アフリカ東岸, モーリシャス, インド, スリランカ, ベトナム, オーストラリア, 香港, フィリピン, 台湾, 韓国, 日本 (太平洋側: 東京湾から鹿児島湾; 日本海・東シナ海側: 山形県, 京都府若狭湾, 島根県, 熊本県天草市) (三宅, 1998; Asakura, 2006; McLaughlin et al., 2007; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 岩礁, 砂泥底; 水深 1–180 m から記録されているが, 50 m 以浅に多い (三宅, 1998; 峯水, 2002).

備考. イシダタミヤドカリは, ヤマトホンヤドカリ *Pagurus japonicus* (Stimpson, 1858) およびベニホンヤドカリ *Pagurus rubrior* Komai, 2003 とともに, 島根半島沿岸でのサザエ刺網漁業で混獲されるが, 後者 2 種に比べて出現する個体数は少ない.

図 16. *Dardanus crassimanus* (H. Milne Edwards, 1836) イシダタミヤドカリ, 松江市島根町小具, 漁港, オス (sl 18.0 mm).

***Dardanus impressus* (De Haan, 1849)** イボアシヤドカリ
(図 17)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 底刺網, 漁獲残物, 2014 年 6 月 7 日, 1 メス (sl 11.0 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, 底刺網, 漁獲残物, 2014 年 6 月 27 日, 1 オス (sl 11.2 mm), SNMH.

分布. 日本 (房総半島・山形県から九州まで, 伊豆大島, 小笠原諸島), 韓国, 台湾 (奥野・有馬, 2004; Asakura, 2006; McLaughlin et al., 2007).

生息場所. 砂泥底, 岩礁, 転石帯; 水深 5–200 m (峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007).

備考. 調査標本はいずれも, 漁港岸に漁獲残物として放置されていた乾燥した個体 (現状はエタノール液浸)である (大澤ほか, 2015). 腹部が失われ, 破損が進んでいたが, 鉗脚および歩脚の形態に加え, 眼柄に 2 本の赤帯を持つことに基づき, イボアシヤドカリに同定された (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007 を参照).

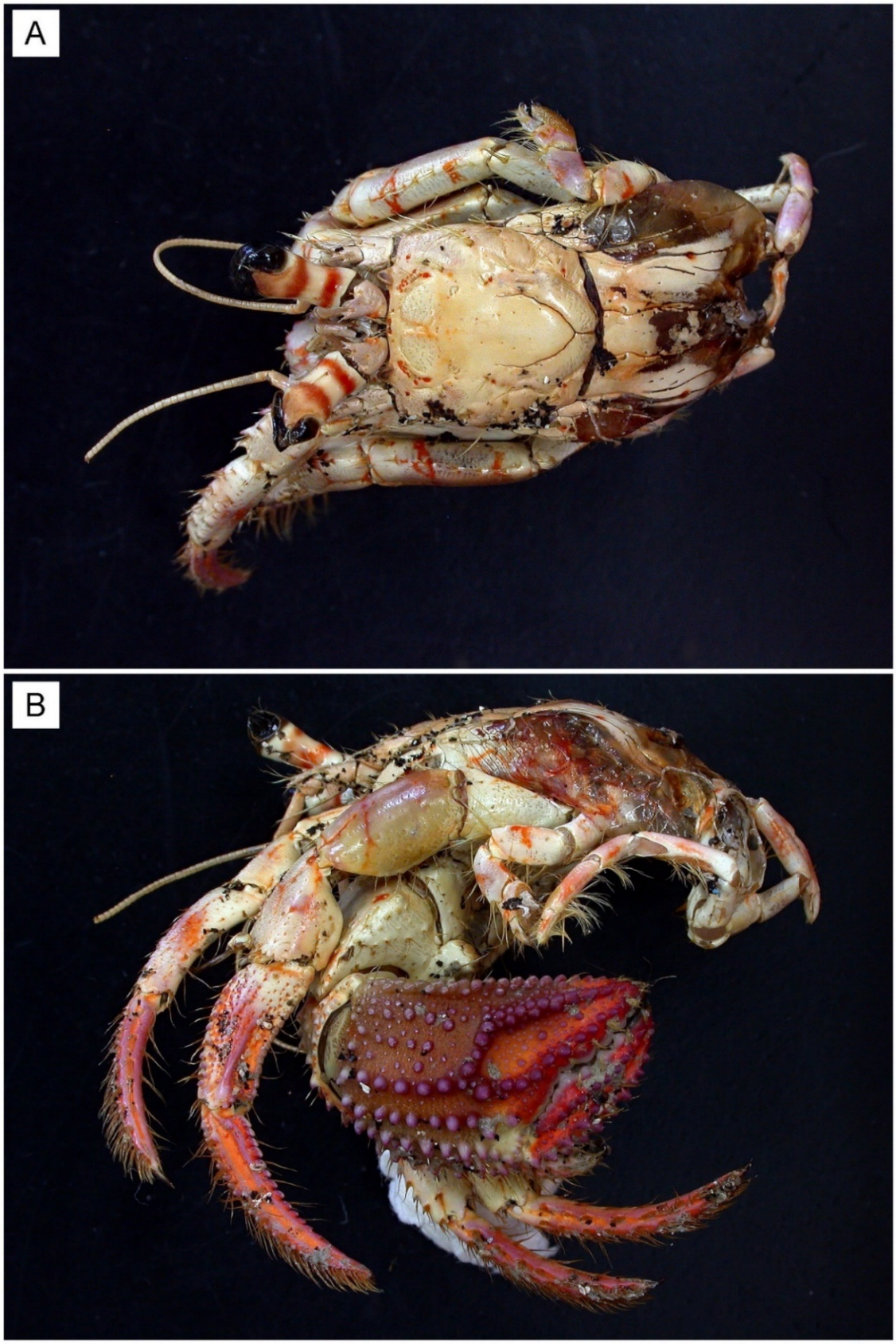


図 17. *Dardanus impressus* (De Haan, 1849) イボアシヤドカリ, 島根県松江市島根町小具, 漁港, メス (sl 11.0 mm), 乾燥, 背面 (A); 同, 左側面 (B).

***Dardanus sanguinolentus* (Quoy and Gaimard, 1824) ヤドカリ属の 1 種 (和名なし)**
(図 18)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 漁獲残物, 2013 年 10 月 3 日, 1 オス (sl 8.4 mm), SNMH.

分布. インド－西太平洋の広域. 紅海, マイヨット, レユニオン, セーシェル, インドネシア, パプアニューギニア, オーストラリア, ニューカレドニア, フィジー, ソシエテ諸島, グアム, ベトナム, フィリピン, 台湾, 日本 (伊豆半島, 八丈島, 紀伊半島, 琉球諸島, 島根県) (三宅, 1998; 加藤・奥野, 2001; 奥野ほか, 2006; 大澤ほか, 2014, *D. lagopodes* として報告; Malay et al., 2018).

生息場所. 岩礁, サンゴ礁, 砂泥底; 潮間帯から水深 5–30 m (奥野ほか, 2006, *D. lagopodes* として報告; Malay et al., 2018).

備考.「オイランヤドカリ *Dardanus lagopodes*(Forskål, 1775)」には, 体色の二型(黒色型と赤色型)が知られていた (Ball and Haig, 1972; 朝倉, 1995; 奥野ほか, 2006; McLaughlin et al., 2007; “black/brown/blue knee knee”と“red knee”). 調査標本は, 漁港岸に漁獲残物として放置されていた乾燥した個体 (現状はエタノール液浸)であり, 破損が進んでいた. そのため, 標本の新鮮な色彩は不明であったが, 残存している色彩は三宅 (1998: 図版 37, 図 4), 加藤・奥野 (2001: 77, 右下の図), 奥野・有馬 (2004: 図 2J)による「赤色型」の図によく一致していた. このことから, 大澤ほか (2014)は, 調査標本をオイランヤドカリ *D. lagopodes* として報告した.

その後 Malay et al. (2018)は, 赤色型と黒色型はその体色の違いに加えて, 左第 3 胸脚 (左第 2 歩脚)の形態の違い (腕節と指節の側面の中央背部に沿った溝の有無)に基づき, 別種であることを明らかにした. Malay et al. (2018)は, 黒色型が真の *D. lagopodes* であると判断し, 赤色型が, この種の新参異名 (junior synonym)とその時点まで扱われていた *Dardanus sanguinolentus* (Quoy and Gaimard, 1824)であると結論づけた. なお, *D. lagopodes* の新参異名には *D. affinis* (H. Milne Edwards, 1836)と *D. euopsis* (Dana, 1852), 一方 *D. sanguinolentus* の新参異名には, *D. depressus* Heller, 1861 および暫定的に *D. helleri* Paul’son, 1875 が含まれている (Malay et al., 2018).

McLaughlin et al. (2007: 91, upper unnumbered fig.)・Malay et al. (2018: Fig. 4A)と三宅 (1998: 図版 37, 図 4)・加藤・奥野 (2001: 77, 右下の図)・奥野・有馬 (2004: 図 2J)の調査標本の間には, 前甲の模様に違いがある. 前者では小さな赤い斑紋が前方側部に持つ一方, 後者では前方中央部に大きな赤い斑紋を持つ. 島根県から得られた標本は, その後者と同様な斑紋を持っている.

調査標本は大きく破損していることから, 当標本に基づいた和名新称の提唱を避けた.

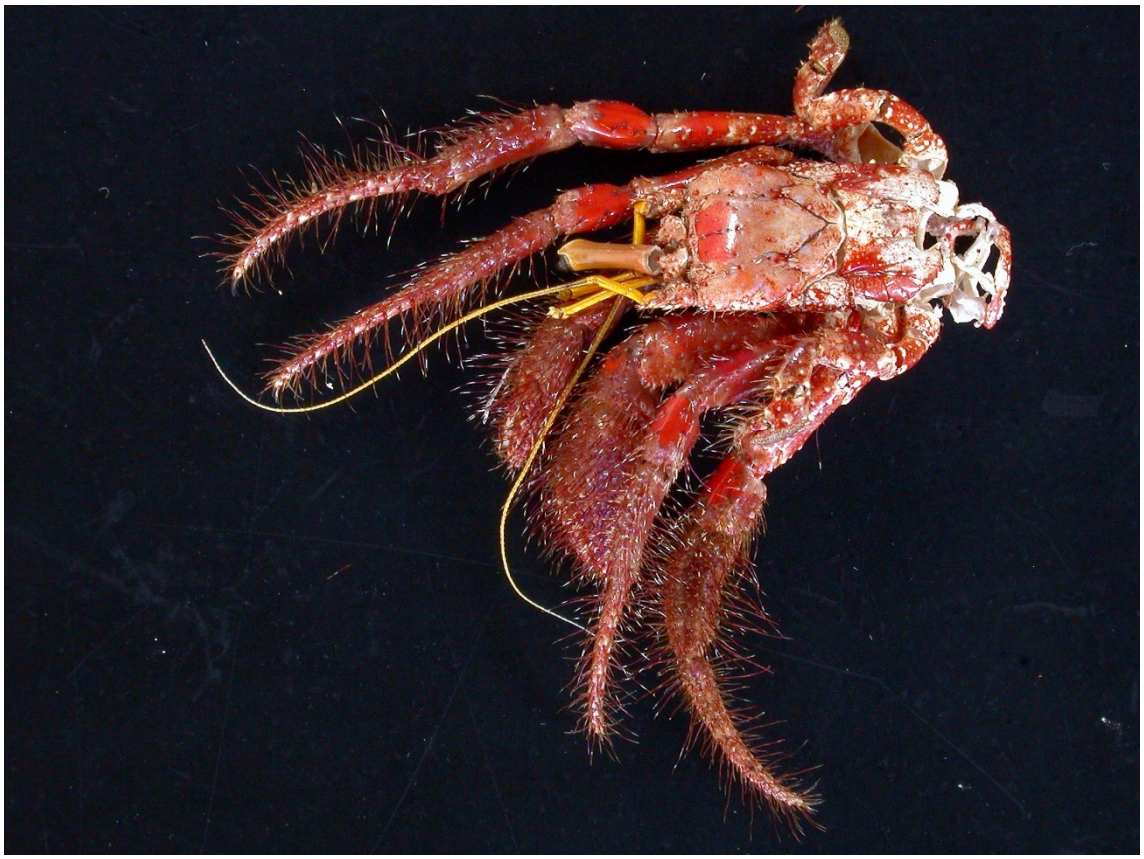


図 18. *Dardanus sanguinolentus* (Quoy and Gaimard, 1824) ヤドカリ属の 1 種 (和名なし), 島根県松江市島根町小具, 漁港, オス (sl 8.4 mm), 乾燥.

***Diogenes edwardsii* (De Haan, 1849)** トゲツノヤドカリ
(図 19)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 漁獲残物, 2013 年 6 月 26 日, 2 オス (sl 7.6, 7.8 mm), SNMH. 松江市島根町野波, 漁港, 底刺網, 漁獲残物, 2014 年 6 月 21 日, 2 オス (sl 8.0, 9.4 mm), SNMH. **鳥取県.** 北条町 (北栄町)松神～東伯町(琴浦町)二軒屋沖合 3 km, 水深 25 m, 1990 年 7 月 6 日, 1 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 北条町 (北栄町)・羽合町 (湯梨浜町)天神川河口沖合 4 km, 水深 30 m, 1992 年 6 月 8 日, 3 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録).

分布. 宮城県女川湾・山形県から九州まで, 東シナ海, 韓国, 台湾, 香港 (Asakura, 2006; McLaughlin et al., 2007; Kim and Kim, 2014).

生息場所. 主に内湾の砂泥底. 外洋に面した砂底でも確認されている; 水深 10–97 m (三宅, 1998; 峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007; 有馬, 2014).

備考. 本種は, 左鉗脚の掌部に通常, ヤドカリコテイソギンチャク *Pycanthus paguri* sensu Uchida and Soyama, 2001 を付けている (三宅, 1998; 峯水, 2002; 有馬, 2014). 調査標本でも, ヤドカリコテイソギンチャクの付着が確認された (図 19 ではヤドカリコテイソギンチャクを取り除いている).

図 19. *Diogenes edwardsii* (De Haan, 1849) トゲツノヤドカリ, 島根県松江市島根町野波, 漁港, オス (sl 9.4 mm).

***Diogenes izanamiae* Asakura, 2006 イザナミツノヤドカリ**
(図 20)

調査標本. 島根県. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 1 オス (sl 2.0 mm), SNMH.

分布. 大阪府, 広島県, 石川県, 島根県 (Asakura, 2006; 大澤ほか, 2014; 柏尾ほか, 2016; 吉郷, 2022).

生息場所. 岩礁または丸石の浜, 転石下; 潮間帯 (Asakura, 2006).

備考. 調査標本に加え, 島根県海士町 (隠岐諸島島前中ノ島)においても本種を確認している.

本尾・山内 (2011)は, 島根県隠岐の島町 (隠岐諸島島後)の賀茂湾における水深 2–5 m の砂泥底からツノヤドカリ属の不明種 *Diogenes* sp.を報告しており, その標本は「左鉗脚大で指部に半透明な長毛がある」と述べている. 大澤ほか (2014)は, その形態と採集場所の近似に基づき, 本尾・山内 (2011 の標本についてイザナミツノヤドカリの可能性があることを指摘している.

図 20. *Diogenes izanamiae* Asakura, 2006 イザナミツノヤドカリ, 島根県隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), オス (sl 2.0 mm).

***Diogenes nitidimanus* Terao, 1913 テナガツノヤドカリ**
(図 21)

調査標本. 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 砂底, 2013 年 10 月 4 日, 1 オス (sl 1.7 mm), SNMH.

分布. 日本 (北海道南部から九州), 香港, 韓国, ロシア (ピョートル大帝湾) (Asakura, 2006; 朝倉, 2012). McLaughlin et al. (2007)は, 台湾産と日本産の標本を比較し, それらに形態の違いが見られることから, 前者を *Diogenes* aff. *nitidimanus* として報告している.

生息場所. 河口などの塩分の低い場所の砂底, 砂質の干潟; 潮間帯から水深約 10 m (朝倉, 2012; 有馬, 2014).

備考. 調査標本は尾節を欠いていた. 本種の形態的特徴については, 朝倉 (1995)および Korn et al. (2008)が示している. 調査標本は, Korn et al. (2008)によるテナガツノヤドカリの表徴形質におおまかに一致していたが, 左鉗脚と歩脚の剛毛の状態に違いが見られた. 歩脚の指節の剛毛は, Korn et al. (2008)によるテナガツノヤドカリの図に比べて, 調査標本では明らかに少なく, まばらであった. 調査標本では, 左鉗脚の指節および掌部の上縁にまばらな剛毛が存在するが, Korn et al. (2008)では剛毛の有無について記載されていない. 調査標本は小型の 1 個体のみであることから, 暫定的にテナガツノヤドカリと同定したが, 今後の追加標本の検討により別種となる可能性がある (大澤ほか, 2014).

図 21. *Diogenes nitidimanus* Terao, 1913 テナガツノヤドカリ, 島根県松江市島根町加賀桂島, オス (sl 1.7 mm).

***Diogenes pallescens* Whitelegge, 1897 ツノヤドカリ属の 1 種 (和名なし)**
(図 22)

調査標本. 島根県. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 2013 年 10 月 20 日, 1 メス (sl 2.5 mm), SNMH.

分布. アフリカ東岸からアンダマン海, ベトナム, 日本 (房総半島, 伊豆大島, 琉球列島, 島根県), マレー列島, オーストラリア北部, グアム, ツアモツ (Rahayu and Osawa, 2012; お茶の水大学湾岸生物教育研究センター, 2013; 有馬, 2014; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 岩礁, サンゴ礁, 砂れき・砂泥底; 潮間帯から水深 70 m (McLaughlin, 2002b; Rahayu and Osawa, 2012; 有馬, 2014).

備考. 調査標本に加えて, 松江市島根町加賀桂島からも本種を確認している.

McLaughlin (2002b)は, *Diogenes gardineri* Alcock, 1905 と *D. serenei* Forest, 1956 を本種の新参異名 (junior synonym)であると結論付けている.

調査標本は左鉗脚を欠いており, 状態が十分ではないことから, 当標本に基づいた和名新称の提唱を避けた.

図 22. *Diogenes pallescens* Whitelegge, 1897 ツノヤドカリ属の 1 種 (和名なし), 島根県出雲市十六島町十六島漁港, メス (sl 2.5 mm).

***Diogenes spinifrons* (De Haan, 1849)** トゲトゲツノヤドカリ
(図 23)

調査標本. 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 砂底, 2013 年 10 月 4 日, 1 メス (sl 3.9 mm), SNMH. 松江市島根町加賀桂島, 砂底, 2013 年 10 月 5 日, 1 オス (sl 1.9 mm), SNMH.

分布. 日本 (相模湾・山形県から九州まで), 台湾 (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007).

生息場所. 砂泥底; 潮間帯から水深 30 m (峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007). 朝倉 (2012)によると, 本種は「外洋性の砂浜潮間帯から潮下帯に生息する」としている. 一方, 有馬 (2014)は,「遠浅で幅のある砂底, 砂泥底を好む」としている.

備考. 本種は, 形態が類似するトゲツノヤドカリ *Diogenes edwardsii* (De Haan, 1849)とは異なり, 左鉗脚の掌部外面にヤドカリコテイソギンチャク *Pycanthus paguri* sensu Uchida and Soyama, 2001 を付けることはない (三宅, 1998; 峯水, 2002). 加えて, 左鉗脚の掌部外面は, トゲトゲツノヤドカリでは多数の小棘状突起に覆われる一方, トゲツノヤドカリでは棘状突起の数が少なく, むしろ滑らかな部分が多く占める.

図 23. *Diogenes spinifrons* (De Haan, 1849) トゲトゲツノヤドカリ, 島根県松江市島根町加賀桂島, メス (sl 3.9 mm).

***Paguristes digitalis* Stimpson, 1858 ヤスリヒメヨコバサミ**
(図 24)

調査標本. 鳥取県. 赤碕町 (琴浦町赤碕), 光栄丸, 1996 年 6 月, 2 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM-甲 07-038. 北条町 (北栄町)・羽合町 (湯梨浜町)天神川河口沖合 4 km, 水深 30 m, 1992 年 6 月 8 日, 1 乾燥オス (sl 9.2 mm), TRPM (未登録).

分布. 日本 (北海道函館から九州まで), 韓国 (Komai, 2001).

生息場所. 岩礁・岸壁; 水深 220 m 以浅 (Komai, 2001; 有馬, 2014).

備考. 本種のこれまでの記録には, 境水道 (Harada, 1968)および鳥取県 (Miyake et al., 1962)が含まれる. 調査標本に基づき, 鳥取県沿岸における出現を確認できた.

Komai (2001)は, 本種を詳細に再記載している. 加えて, *Paguristes kagoshimensis* Ortmann, 1892 のシンタイプ (総模式標本)を再検討し, それが実際にはヤスリヒメヨコバサミ *Paguristes digitalis* Stimpson, 1858 であることを判明させるとともに, それまで「カゴシマヒメヨコバサミ *P. kagoshimensis*」として報告されていた記録・標本について, 分類学的整理を行っている (Komai, 2001).

図 24. *Paguristes digitalis* Stimpson, 1858 ヤスリヒメヨコバサミ, 鳥取県琴浦町赤碕, 性未確認個体 (sl 未測定), 乾燥.

***Paguristes gonagrus* (H. Milne Edwards, 1836)** ヒノマルヒメヨコバサミ
(図 25)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 50 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 オス (sl 5.6 mm), TRPM-781. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 50 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 オス (sl 6.4 mm), TRPM-782. 鳥取市賀露～気高町酒津沖 40–50 km, 水深 40–50 m, 1995 年 9 月 14 日, 1 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録).

分布. 日本 (相模湾から琉球列島, 鳥取県), 台湾, 中国, フィリピン (Komai, 2010; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 砂泥底, 貝殻まじりの砂れき底; 水深 13–200 m (Komai, 2010; Osawa and Ota, 2020).

備考. 日本国内の文献や図鑑 (例えば, Miyake, 1978; 三宅, 1998)では, ヒノマルヒメヨコバサミの学名は *Paguristes balanophilus* Alcock, 1905 として扱われてきた. *Paguristes gonagrus* と *P. balanophilus* の分類学的実体については, Rahayu and McLaughlin (2006)および Rahayu and Forest (2009)による, それら 2 種のタイプ (模式)標本の再検討で明らかにされ, その後 Komai (2010)により, *P. gonagrus* と和名「ヒノマルヒメヨコバサミ」を結び付ける詳細な記載がなされた.

本種の宿貝の表面は, *Epizoanthus ramosus* Carlgren 1934 (ヤドリスナギンチャク科 Epizoanthidae)の群体に覆われる (峯水, 2002; Komai, 2010; Reimer et al., 2010).

図 25. *Paguristes gonagrus* (H. Milne Edwards, 1836) ヒノマルヒメヨコバサミ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, オス (sl 6.4 mm).

***Paguristes ortmanni* Miyake, 1978 ケブカヒメヨコバサミ**
(図 7B, 26)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 2010 年 6 月 4 日, 1 オス (sl 8.3 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 2010 年 6 月 18 日, 1 オス (sl 8.0 mm), 1 抱卵メス (sl 7.3 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 2010 年 6 月 23 日, 1 メス (sl 7.4 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013 年 4 月 16 日, 1 メス (sl 6.4 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013 年 5 月 16 日, 2 オス (sl 8.9, 9.8 mm), SNMH. 松江市美保関町菅浦, 潮間帯, 転石下, 2011 年 8 月 6 日, 1 オス (sl 8.3 mm), SNMH. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 1 オス (sl 8.0 mm). **鳥取県.** 岩美町熊井浜, 2006 年 8 月 5 日, 1 オス (sl 未測定), TRPM-CB-0000124. **兵庫県.** 豊岡市竹野町, スノーケルセンター前, 2007 年 7 月 17 日, 1 メス (sl 未測定), TRPM-CB-0000123.

分布. 日本 (北海道から九州まで, 伊豆大島), 韓国 (三宅, 1998; Komai, 2001; 奥野・有馬, 2004).

生息場所. 岩礁, 内湾; 潮間帯から水深 210 m (三宅, 1998; 有馬, 2014).

備考. 島根半島の日本海側の岩礁潮間帯において, ホンヤドカリ *Pagurus filholi* (De Man, 1887)やケアシホンヤドカリ *Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849 とともに, 周年にわたって最も普通に確認できるヤドカリ類である. ケブカヒメヨコバサミは, ホンヤドカリおよびケアシホンヤドカリより大型になる.

Komai (2001)は, 本種を詳細に再記載している.

図 26. *Paguristes ortmanni* Miyake, 1978 ケブカヒメヨコバサミ, 島根県松江市島根町小具,オス (sl 9.8 mm).

***Paguristes versus* Komai, 2001 カゴシマヒメヨコバサミ**
(図 27)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 3 オス (sl 4.9–5.8 mm), TRPM-783.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から大隅諸島; 日本海側: 富山県, 鳥取県), 韓国, 台湾 (菊池, 1932, *P. kagoshimensis* Ortmann, 1892 として報告; Komai 2001; McLaughlin et al. 2007; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 砂泥底; 水深 80–254 m (Komai 2001; McLaughlin et al. 2007; Osawa and Ota, 2020).

備考. 過去の文献 (例えば, Miyake, 1978; 三宅, 1998)では, カゴシマヒメヨコバサミの学名は *Paguristes kagoshimensis* Ortmann, 1892 として扱われていた. Komai (2001)は, *P. kagoshimensis* のシンタイプ (総模式標本)を再検討し, それが実際にはヤスリヒメヨコバサミ *Paguristes digitalis* Stimpson, 1858 であることを明らかにし, 加えて「カゴシマヒメヨコバサミ」と呼ばれていたものを新種 *Paguristes versus* Komai, 2001 として記載した.

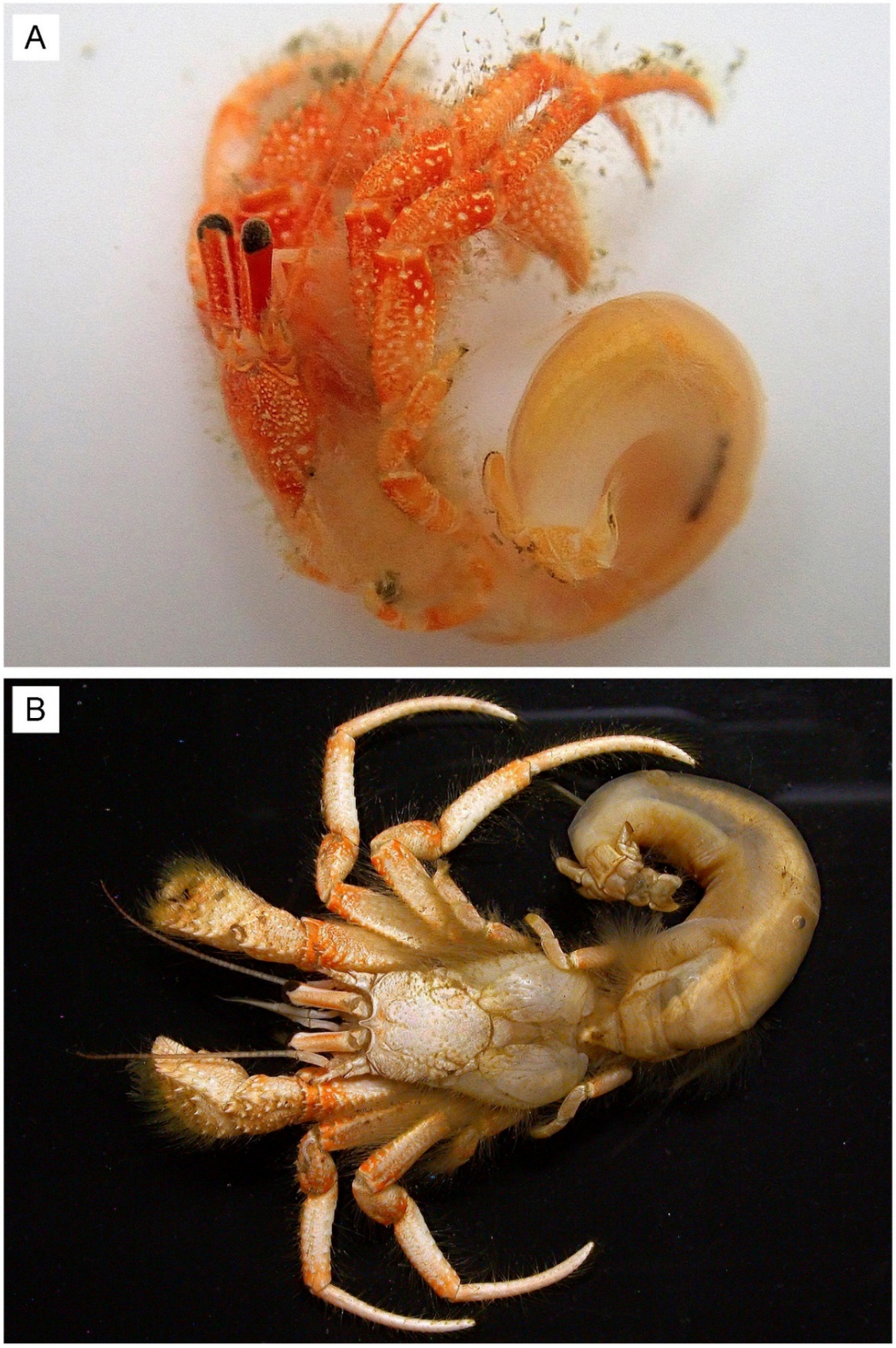


図 27. *Paguristes versus* Komai, 2001 カゴシマヒメヨコバサミ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, オス (sl 5.8 mm) (A); 同, エタノール液浸 (B).

Paguridae ホンヤドカリ科

***Anapagurus japonicus* Ortmann, 1892** ユミナリヤドカリ
(図 28)

調査標本．島根県．隠岐の島町加茂湾 (隠岐諸島島後), 36°10′29.75″ N, 133°16′48.73″ E–36°10′28.90″ N, 133°16′48.61″ E, 水深 13–19 m, 砂底, そりネット, 2012 年 6 月 26 日, 2 オス (sl 2.5, 3.0 mm), 2 抱卵メス (sl 1.8, 1.8 mm), NSMT-Cr 23850. 隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), 36°09′14.11″ N, 133°14′27.46″ E–36°09′18.65″N, 133°14′29.93″E, 水深 30 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012 年 6 月 27 日, 3 オス (sl 2.1–2.6 mm), 5 抱卵メス (sl 1.4–1.9 mm), NSMT-Cr 23851. 隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), 36°09′10.30″ N, 133°14′30.17″ E–36°09′09.81″ N, 133°14′20.51″ E, 水深 30–39 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012 年 6 月 27 日, 5 オス (sl 1.9–2.4 mm), 1 抱卵メス (sl 1.7 mm), NSMT-Cr 23852.

分布．日本沿岸のみから記録されている. 太平洋側: 房総半島から紀伊半島, 伊豆大島; 日本海・東シナ海側: 島根県 (隠岐諸島島後), 山口県萩市沖, 対馬, 天草諸島 (Komai et al., 2002; 奥野・有馬, 2006; 大澤ほか, 2015). 加えて, 有馬 (2014) は, 琉球列島北部の屋久島において撮影された本種の生態写真を掲載している.

生息場所．砂泥・砂れき底; 水深 20–83 m (Komai and Takeda, 2006; 有馬, 2014; 大澤ほか, 2015).

備考．調査標本の採集地である隠岐の島町加茂湾 (隠岐諸島島後)では, 潮下帯の砂泥・砂れき底において, マダラヒメヤドカリ *Catapaguroides fragilis* (Melin, 1939)とともに採集された (大澤ほか, 2015).

本種のタイプ (模式)標本は失われている (Komai and Takeda, 2006). García-Gómez (1994)は, 和歌山県と熊本県から採集された標本に基づき, 本種を再記載している.

図 28. *Anapagurus japonicus* Ortmann, 1892 ユミナリヤドカリ, 島根県隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), オス (sl 2.4 mm).

***Catapaguroides fragilis* (Melin, 1939)** マダラヒメヤドカリ
(図 29)

調査標本．島根県．隠岐の島町加茂湾 (隠岐諸島島後), 36°10′29.75′ N, 133°16′48.73′ E–36°10′28.90′ N, 133°16′48.61′ E, 水深 13–19 m, 砂底, そりネット, 2012 年 6 月 26 日, 1 抱卵メス (sl 1.4 mm), NSMT-Cr 23853. 隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), 36°09′14.11′ N, 133°14′27.46′ E–36°09′18.65′ N, 133°14′29.93′ E, 水深 30 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012 年 6 月 27 日, 2 オス (sl 1.4, 1.8 mm), 1 メス (sl 1.2 mm), 1 抱卵メス (sl 1.5 mm), NSMT-Cr 23854. 隠岐の島町松島南 (隠岐諸島島後), 36°09′14.13′N, 133°15′04.29′E–36°09′14.80′N, 133°14′46.79′E, 水深 27–33 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012 年 6 月 27 日, 4 オス (sl 1.1–1.6 mm), 3 メス (sl 0.9–1.1 mm), 1 抱卵メス (sl 1.1 mm), NSMT-Cr 23855. **鳥取県.** 岩美町田後沖, ヤマダシ, 35°60.2′N, 134°31.1′E, 水深 26 m, SCUBA, 2019 年 6 月 4 日, 1 抱卵メス (sl 1.2 mm), TRPM-793.

分布. 日本 (太平洋側: 小笠原諸島 兄島, 伊豆諸島 大島, 相模湾, 高知県, 大隅諸島; 日本海・東シナ海側: 鳥取県, 島根県 隠岐諸島島後, 熊本県天草市), 韓国, ムルロア (de Saint Laurent, 1968; Miyake, 1978; 奥野・有馬, 2006; 大澤ほか, 2015; Kim and Kim, 2017; Komai, 2017; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 内湾の砂底, 砂泥底; 水深 10–75 m (有馬, 2014; Komai, 2017). 大澤ほか (2015)が隠岐諸島島後から記録した標本は, 水深 13–33 m の砂・砂れき底から得られた.

備考. Miyake (1978)がマダラヒメヤドカリ *Catapaguroides fragilis* として相模湾から報告している標本の一部 (9 標本のうち 7 標本)については, Komai andTakeda (2006)がそれらの標本の再調査に基づき, ヒメヤドカリ *Catapaguroides japonicus* de Saint Laurent, 1968 であることを指摘しており, Miyake (1978)によるマダラヒメヤドカリの図 (text-fig. 53)は, 熊本県天草市からの標本に基づいた可能性が高いと述べている. 有馬 (2014)では, 伊豆半島および伊豆諸島大島において撮影されたマダラヒメヤドカリの生態写真が掲載されている. Komai (2017)は, タイプ (模式)標本を含めた日本産の標本に基づき, マダラヒメヤドカリを詳細に再記載している.

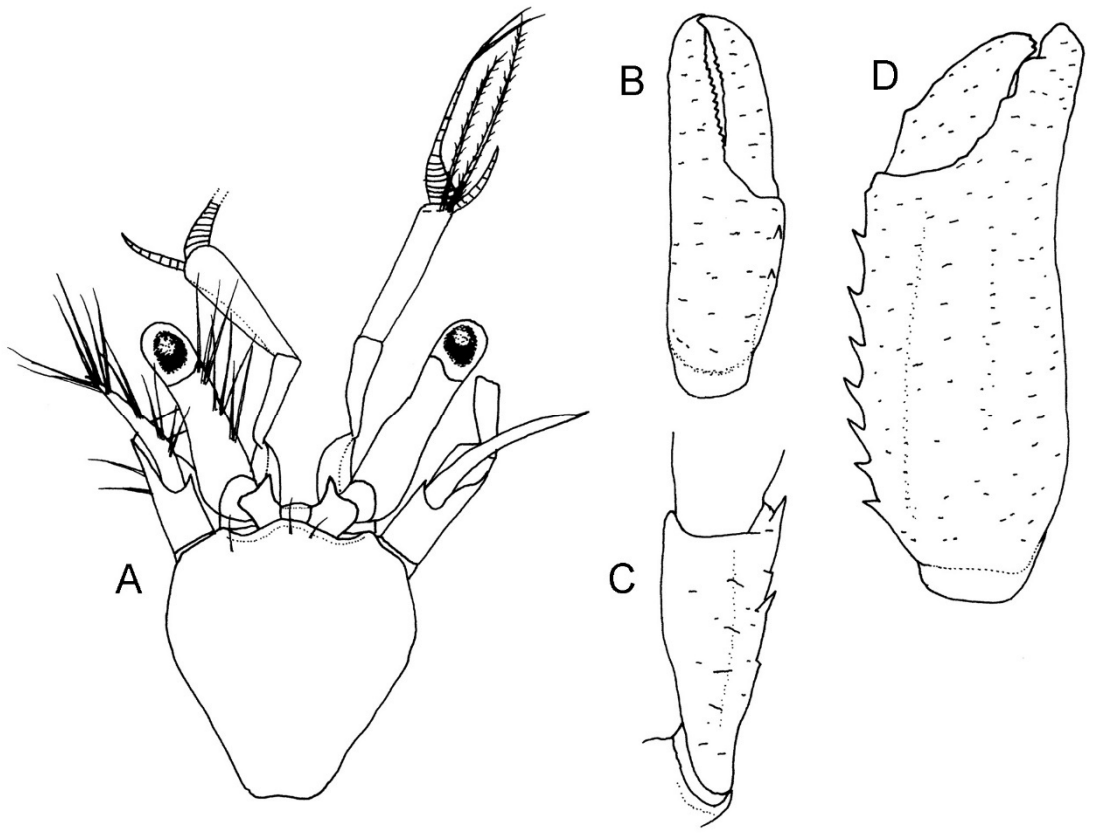


図 29. *Catapaguroides fragilis* (Melin, 1939) マダラヒメヤドカリ, 島根県隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), オス (sl 1.8 mm), 前甲 (A); 左鉗脚, 鉗部 (B); 左鉗脚, 腕節 (C); 右鉗脚, 鉗部 (D).

***Elassochirus cavimanus* (Miers, 1879)** ゴトウヤドカリ
(図 30)

調査標本. 島根県. 浜田市沖, 35°02.5´N, 132°06.0´E, 水深 107 m, 底曳網, 島根県水産技術センター (浜田市), 2013 年 2 月 18 日, 2 オス (sl 17.0, 17.0 mm), SNMH.

分布. ベーリング海, オホーツク海, アリューシャン諸島, アラスカ湾, カナダの太平洋岸, アメリカ ワシントン州, 日本 (北海道から岩手県釜石市・島根県まで), 韓国 (岸田, 1963a; 三宅, 1998; Asakura, 2006; 本尾ほか, 2011).

生息場所. 石まじりの砂底; 水深 36–400 m (McLaughlin, 1974; 三宅, 1998; 有馬, 2014).

備考. 本尾ほか (2011)は, 島根県出雲市沖の水深 200 m 付近において操業されたバイかご漁によって採集された標本に基づき, ホンヤドカリ科の 3 種, ゴトウヤドカリ, ラスバンホンヤドカリ *Pagurus rathbuni* (Benedict, 1892), ミゾテホンヤドカリ *Pagurus undosus* (Benedict1892)を報告し, その時点での, これらの寒海・深海性種の南限記録であるとした. その後, 島根県浜田市, 出雲市, 隠岐諸島沖の標本に基づき, 寒海・深海性種としてオホーツクホンヤドカリ *Pagurus ochotensis* Brandt, 1851 およびミツカドホンヤドカリ *Pagurus trigonocheirus* (Stimpson, 1858)が追加記録された (大澤ほか, 2014; Komatsu, 2014). なお, オホーツクホンヤドカリとミツカドホンヤドカリは山口県萩市沖からも報告されており, 当水域がそれら 2 種の現時点での南限記録となっている (土井ほか, 2014; 園山ほか, 2017b).

図 30. *Elassochirus cavimanus* (Miers, 1879) ゴトウヤドカリ, 島根県浜田市沖, オス (sl 17.0 mm).

***Lophopagurus triserratus* (Ortmann, 1892)** セルプラヤドカリ
(図 31)

調査標本. 島根県. 隠岐の島町四敷島南 (隠岐諸島島後), 36°09′00.65′ N, 133°14′14.97′E–36°09′02.02′N, 133°14′13.88′E, 水深 47 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012 年 6 月 27 日, 1 オス (sl 1.8 mm), NSMT-Cr 23856. **鳥取県.** 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 1 オス (sl 2.4 mm), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 50 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 80 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 80 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 2 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録).

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島, 相模湾, 田辺湾, 伊豆諸島, 小笠原諸島; 日本海・東シナ海側: 京都府若狭湾から熊本県天草諸島), 韓国, 台湾, 東シナ海, 南シナ海, インドネシア, オーストラリア, ニュージーランド (Yokoya, 1933; 三宅, 1998, *Pylopagurus serpulophilus* Miyake, 1978 として報告; Komai, 1999a, *Australeremus triserratus* として報告; de Saint Laurent and McLaughlin, 2000; Asakura, 2006; 大澤ほか, 2015, *Lophopagurus* (*Australeremus*) *triserratus* として報告).

生息場所. 岩礁, 岩底; 水深 60–400 m (de Saint Laurent and McLaughlin, 2000; Komai and Takeda, 2006; 有馬, 2014). 隠岐諸島島後の標本は, 水深 47 m の砂れき底から得られた (大澤ほか, 2015).

備考. *Pylopagurus serpulophilus* Miyake, 1978 (セルプラヤドカリの和名が与えられていた; 三宅 (1998)を参照)と *Lophopagurus triserratus* (Ortmann, 1892)は, 同一種であると結論付けられている (McLaughlin and Gunn, 1992; Komai, 1999a).

本種は通常, 巻貝を利用するが, カンザシゴカイ類の空になった棲管の中に入ることも知られている (有馬, 2014). 調査標本の多くは, カンザシゴカイ類の空になった棲管を利用していた.

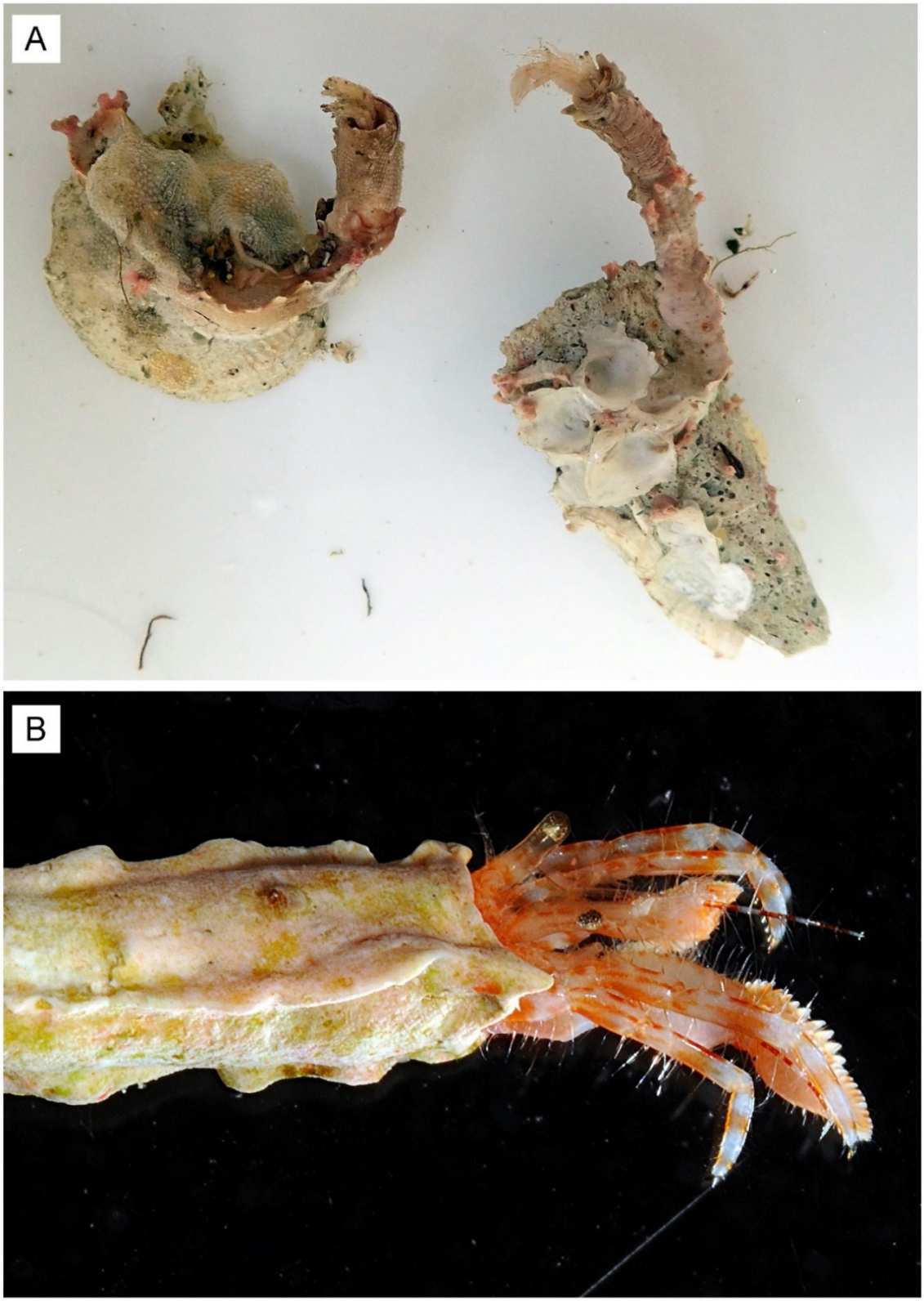


図 31. *Lophopagurus triserratus* (Ortmann, 1892) セルプラヤドカリ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, 性未確認個体 (sl 未測定) (A); 島根県隠岐の島町四敷島南 (隠岐諸島島後), オス (sl 1.8 mm) (B).

***Nematopagurus australis* (Henderson, 1888)** ツメナガイトヒキヤドカリ
(図 32)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 1 メス (sl 4.3 mm), TRPM-784.

分布. 日本 (相模湾, 駿河湾, 鳥取県), 東シナ海, 台湾, 南シナ海, マレーシア, インドネシア, ニューカレドニア, フィジー (McLaughlin 2004; Komai and Takeda 2006; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 泥・砂泥底; 水深 417 m 以浅 (McLaughlin 2004; Osawa and Ota, 2020).

備考. 調査標本は右鉗脚を失っていたが, 左鉗脚や歩脚の形態に基づき, 本種に同定された (McLaughlin, 2004; McLaughlin et al., 2007 を参照). Miyake (1978)により *Pagurus pilosipes* (Stimpson, 1858)と同定された相模湾および東シナ海産の標本の一部は, ツメナガイトヒキヤドカリであることが判明している (Komai, 2003a, *Nematopagurus* sp.として報告; Komai and Takeda, 2006).

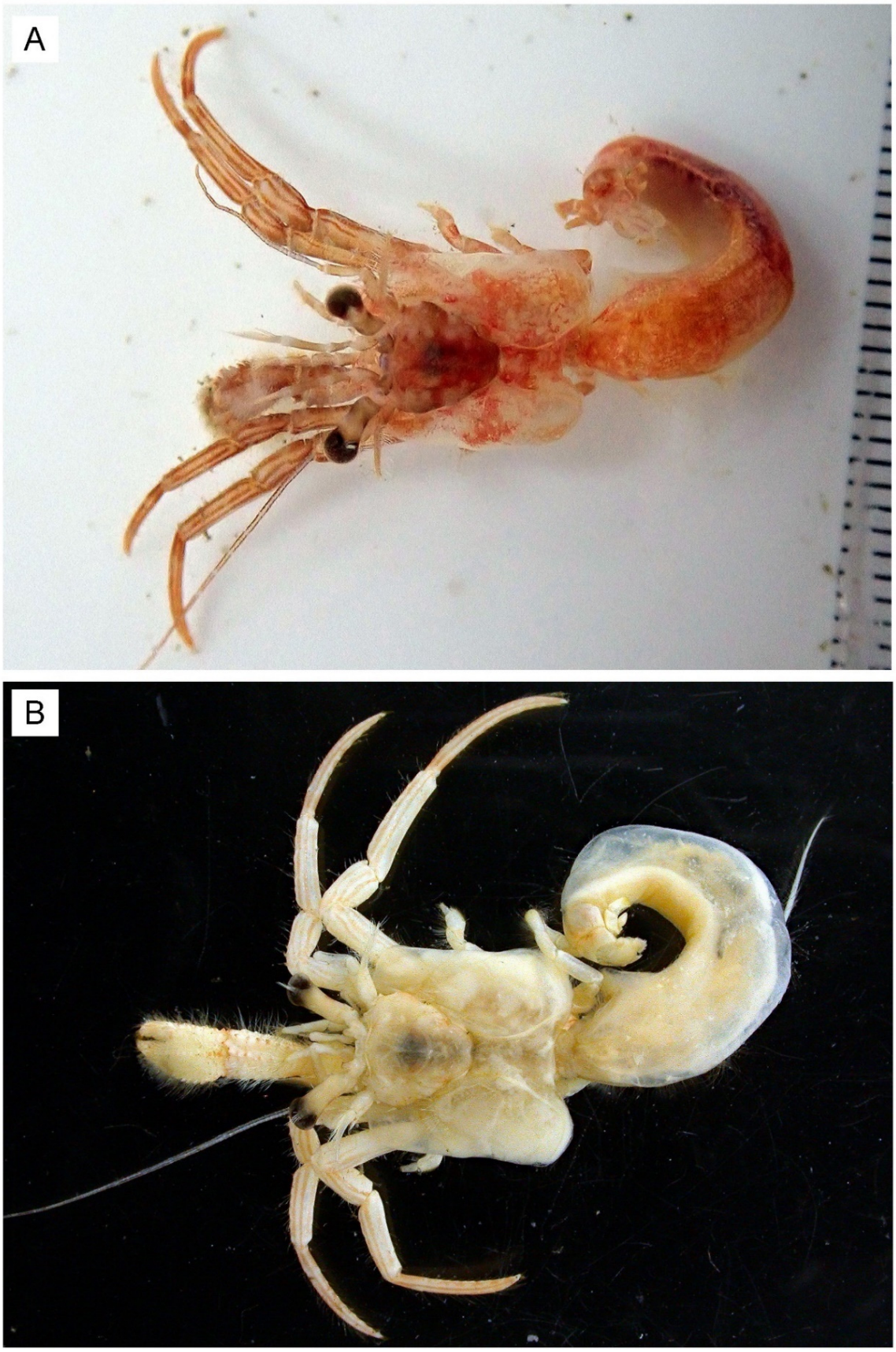


図 32. *Nematopagurus australis* (Henderson, 1888) ツメナガイトヒキヤドカリ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, メス (sl 4.3 mm) (A); 同, エタノール液浸 (B).

***Nematopagurus tricarinatus* (Stimpson, 1858)** イトヒキヤドカリ
(図 33)

調査標本．島根県． 隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), 36°09′14.11″ N, 133°14′27.46″E–36°09′18.65″N, 133°14′29.93″E, 水深 30 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012 年 6 月 27 日, 1 メス (sl 3.4 mm), NSMT-Cr 23857. **鳥取県．** 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 50 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 オス (sl 3.1 mm), TRPM-794.

分布． 日本 (太平洋側: 相模湾, 伊豆大島, 紀伊半島, 土佐湾, 鹿児島県; 日本海・東シナ海側: 鳥取県, 島根県, 福岡県), 台湾, 南シナ海, インドネシア (Asakura., 2006; 奥野・有馬, 2006; 大澤ほか, 2015; Osawa and Ota, 2020).

生息場所． 内湾の砂泥・砂れき底; 水深 9–72 m (Komai and Takeda, 2006; 有馬, 2014; 大澤ほか, 2015).

備考． イトヒキヤドカリの学名には, *Nematopagurus vallatus* (Melin, 1939)があてられてきたが, McLaughlin (2004)は, 日本からの *N. vallatus* の記録の多く (例えば, Miyake, 1978; 三宅, 1998)が *N. tricarinatus* のものであろうと述べている. 日本国内の確証のある *N. vallatus* の記録は, タイプ (模式)産地である小笠原諸島に限られる一方, ニューカレドニアおよびノーホーク海嶺からも本種が記録されている (McLaughlin, 2004).

イトヒキヤドカリは, *N. vallatus* に形態が類似するが, 左右鉗脚の掌部背面の竜骨状隆起の間にこぶ状突起を欠くことで後者から区別できる (McLaughlin, 2004).

図 33. *Nematopagurus tricarinatus* (Stimpson, 1858) イトヒキヤドカリ, 島根県隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), 1 メス (sl 3.4 mm).

***Pagurus conformis* De Haan, 1849** メダマホンヤドカリ
(図 34)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 1 オス (sl 4.1 mm), TRPM-795.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から鹿児島県; 日本海・東シナ海側: 鳥取県, 山口県, 福岡県玄界灘), 東シナ海, 韓国, 台湾 (三宅, 1998, *P. megalops* (Stimpson, 1858)として報告; Komai, 2004; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 内湾の砂泥底; 水深 5–190 m (Komai, 2004; 有馬, 2014).

備考. Komai (2004)は, *Pagurus megalops* (Stimpson, 1858)が *Pagurus conformis* (ナラビホンヤドカリの和名が与えられていた; 三宅, 1998 を参照)の新参異名 (junior synonym)であることを明らかにした.

本種は, 宿貝の表面に 1 個体または複数個体のイソギンチャク類を付けることがある (Komai, 2004; 有馬, 2014). 調査標本は, 腹部においてナガフクロムシ科 (フジツボ下綱: 根頭上目)の 1 種に寄生されていた (図 34 では, ヤドカリ標本の本体から取り去っている).

図 34. *Pagurus conformis* De Haan, 1849 メダマホンヤドカリ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, オス (sl 未測定).

***Pagurus constans* (Stimpson, 1858)** イガグリホンヤドカリ
(図 35A)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55´N, 134°00´E, 水深 70 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 1 オス (sl 9.5 mm), TRPM-796.

分布. 日本 (太平洋側: 北海道南部から紀伊半島, 広島県, 愛媛県; 日本海・東シナ海側: 北海道から鳥取県, 熊本県天草市), 韓国, ロシア (ピョートル大帝湾) (Miyake et al., 1962; Komai, 1999b, *Parapagurodes* に属するとして報告; 本尾, 2007; Osawa and Ota, 2020; 吉郷, 2022).

生息場所. 岩底, 内湾の砂泥底; 水深 5–200 m (三宅, 1998; Komai, 1999b; 有馬, 2014).

備考. Komai (1999b)は, *Pagurus sagamiensis* Miyake, 1978 (サガミホンヤドカリの和名が与えられていた; 三宅, 1998 を参照)のタイプ (模式)標本には, イガグリホンヤドカリ *Pagurus constans* (Stimpson, 1858), *Pagurus brachiomastus* sensu lato (チャイロイクビホンヤドカリ *P. simulans* Komai, 2000 として後に記載された), イマイホンヤドカリ *Pagurus imaii* (Yokoya, 1939)が混同されて含まれており, そのホロタイプ (完模式標本)は *P. constans* であることを明らかにした. 従って, *P. sagamiensis* は *P. constans* の新参異名 (junior synonym)となっている.

本種は, イガグリガイウミヒドラ *Hydryssa sodalis* (Stimpson, 1859) (刺胞動物門, ウミヒドラ科 Hydractiniidae)の巻貝様の殻 (図 35B)を通常利用するが, カイメン (*Suberites* sp.)の穴や巻貝からも確認されている (三宅, 1998; Komai, 1999b).

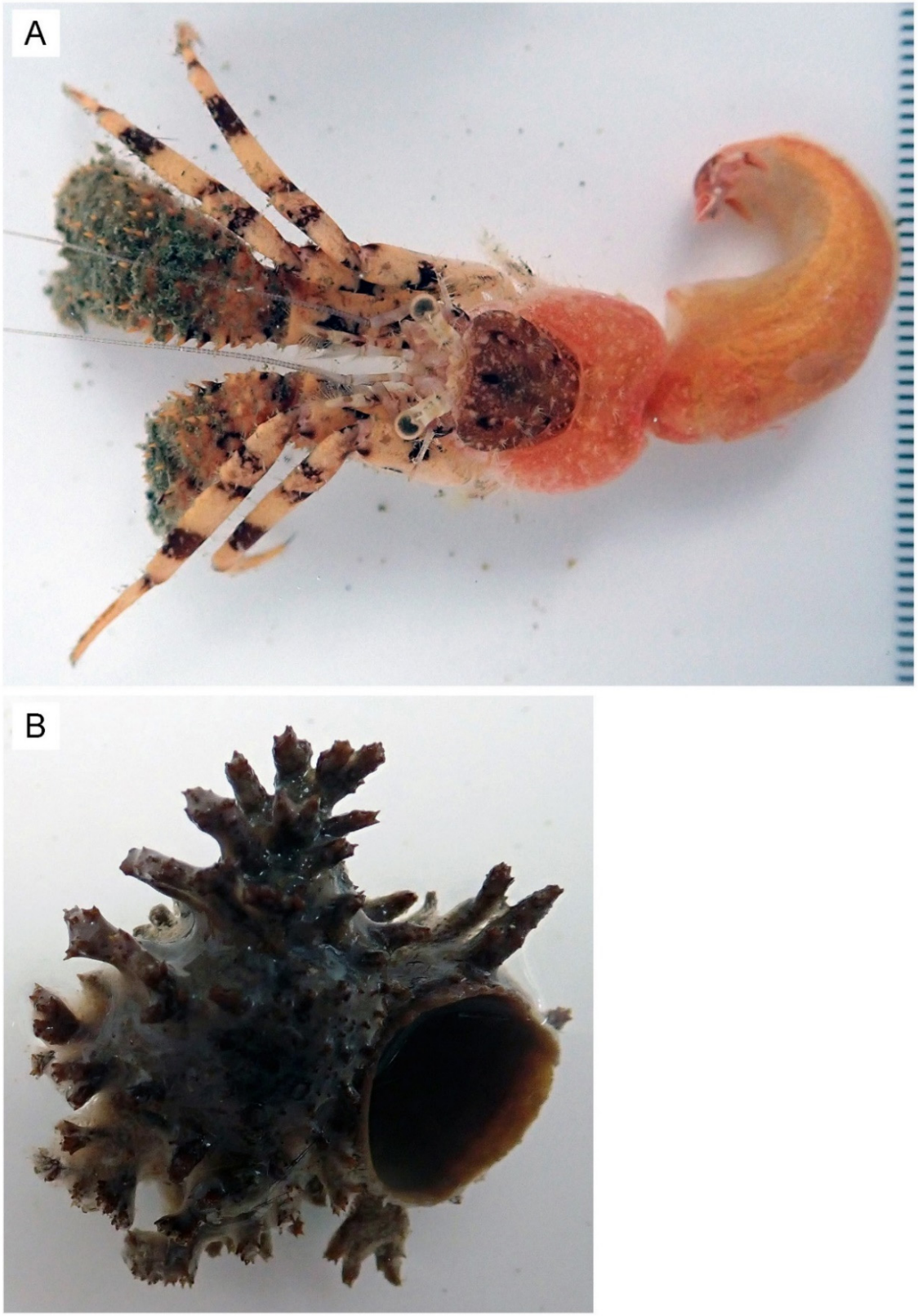


図 35. *Pagurus constans* (Stimpson, 1858) イガグリホンヤドカリ，鳥取県鳥取市長尾鼻沖，オス (sl 未測定) (A); イガグリガイウミヒドラ *Hydryssa sodalis* (Stimpson, 1859) (B).

***Pagurus decimbranchiae* Komai and Osawa, 2001** アオヒゲヒラホンヤドカリ
(図 36)

調査標本. 島根県. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 2013 年 6 月 22 日, 3 オス (sl 1.6–2.4 mm), SNMH.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島, 三浦半島, 伊豆半島, 伊豆大島, 種子島; 日本海側: 島根県), 韓国 (Komai and Osawa, 2001; 奥野・有馬, 2004; 大澤ほか, 2014; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 15 m (Komai and Osawa, 2001; 奥野・有馬, 2004; Komai and Takeda, 2006).

備考. 調査標本に加えて, 島根県松江市島根町小具からも本種を確認している.

アオヒゲヒラホンヤドカリは, フトコロガイ *Euplica scripta* (Lamarck, 1822)やマツムシ *Pyrene testudinaria tylerae* (Griffith and Pigeon, 1834)などの殻口の狭い腹足類の殻を宿貝として利用する (Komai and Osawa, 2001). そのため, 体は背腹方向に平たくなっている.

図 36. *Pagurus decimbranchiae* Komai and Osawa, 2001 アオヒゲヒラホンヤドカリ，島根県出雲市十六島町，オス (sl 2.4 mm).

***Pagurus erythrogrammus* Komai, 2003 アカシマホンヤドカリ**
(図 37)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 2013 年 5 月 12 日, 2 オス (sl 2.4, 3.6 mm), SNMH. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 2013 年 4 月 10 日, 1 オス (sl 3.2 mm), SNMH. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 2013 年 4 月 15 日, 2 オス (sl 3.2, 3.4 mm), 1 メス (sl 2.1 mm), SNMH. **鳥取県.** 岩美町田後沖, ヤマダシ, 35°60.2′N, 134°31.1′E, 水深 26 m, SCUBA, 2019 年 6 月 4 日, 1 オス (sl 1.8 mm), TRPM-797.

分布. 日本沿岸からのみ記録されている. 太平洋側: 房総半島から紀伊半島, 伊豆大島; 日本海側: 福井県, 鳥取県, 島根県 (Komai, 2003a; 奥野・有馬, 2004; 大澤ほか, 2014; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 75 m (Komai, 2003a; Komai and Takeda, 2006).

備考. 本種は *Pagurus pilosipes* (Stimpson, 1858)として誤って認識されていた (Miyake, 1978). Miyake (1978)により *Pagurus pilosipes* と同定された標本には, 真の "*P. pilosipes*" は見当たらない一方, アオヒゲヒラホンヤドカリ *Pagurus decimbranchiae* Komai and Osawa, 2001, アカシマホンヤドカリ *P. erythrogrammus* Komai, 2003, クロシマホンヤドカリ *P. nigrivittatus* Komai, 2003, イクビホンヤドカリ *P. proximus* Komai, 2000, ゴホンアカシマホンヤドカリ *P. quinquelineatus* Komai, 2003, ツメナガイトヒキヤドカリ *Nematopagurus australis* (Henderson, 1888), ヨコヤホンヤドカリ *Propagurus obtsusifrons* (Ortmann, 1892)の 7 種が含まれており, Miyake (1978)はこれらを混同していたことが明らかになっている (Komai and Osawa, 2001; Komai, 2003a; Komai and Takeda, 2006). 真の *Pagurus pilosipes* (オキナワアカシマホンヤドカリ)はオキナワアカシマホンヤドカリ属 *Boninpagurus* Asakura and Tachikawa, 2003 に移され, 現在の学名は *Boninpagurus pilosipes* となっている (Komai et al., 2011).

図 37. *Pagurus erythrogrammus* Komai, 2003 アカシマホンヤドカリ，島根県出雲市十六島町，オス (sl 3.4 mm).

***Pagurus filholi* (De Man, 1887)** ホンヤドカリ
(図 6C, 7C, 38)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 2010 年 6 月 4 日, 2 オス (sl 3.0, 3.5 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 2010 年 6 月 18 日, 1 オス (sl 5.3 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013 年 4 月 16 日, 1 オス (sl 6.3 mm), SNMH. 松江市美保関町惣津, 潮間帯, 転石下, 2011 年 4 月 29 日, 1 オス (sl 5.0 mm), SNMH. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 1 オス (sl 4.7 mm), SNMH. **鳥取県.** 岩美町大谷海岸, 2009 年 5 月 21 日, 5 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM-CB-0000428. **兵庫県.** 豊岡市竹野町, スノーケルセンター前, 2007 年 7 月 17 日, 1 オス (sl 未測定), TRPM-CB-0000122.

分布. ロシア (カムチャッカ, クリル諸島, ナホトカ, オルガ湾, ピョートル大帝湾), 韓国, 日本 (北海道から九州まで) (Asakura, 2006). Terao (1913)による小笠原諸島からの本種 (*Pagurus samuelis* (Stimpson, 1857)として報告)の記録は, ムニンタテジマホンヤドカリ *P. insulae* Asakura, 2001 のものであるとみなされている (朝倉, 2003). また, Maki and Tsuchiya (1923)による台湾からの本種 (*P. samuelis* として報告)の記録は, キカイホンヤドカリ *P. angustus* (Stimpson, 1858)の誤同定であると考えられている (McLaughlin et al., 2007). ホンヤドカリは, 琉球列島の大隅群島以南から確認されていない (Osawa, 2012).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 5 m (朝倉, 1995; 峯水, 2002).

備考. ホンヤドカリの学名には, *Pagurus geminus* McLaughlin, 1976 があてられてきた (たとえば, Miyake, 1978; 三宅, 1998)が, これは *P. filholi* (De Man, 1887)の新参異名 (junior synonym)であることが判明している (Sandberg and McLaughlin, 1993).

本種は, 本州から九州にかけての太平洋と日本海・東シナ海の両沿岸の岩礁潮間帯において普通に確認できる, 最も代表的なヤドカリ類である (朝倉, 1995), 島根県の日本海沿岸においても, 最も普通に見かけることができるヤドカリ類である.

図 38. *Pagurus filholi* (De Man, 1887) ホンヤドカリ，島根県松江市島根町小具，オス (sl 6.3 mm).

***Pagurus japonicus* (Stimpson, 1858)** ヤマトホンヤドカリ
(図 6E, 39)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 2010 年 6 月 18 日, 1 オス (sl 8.7 mm), 1 抱卵メス (sl 8.7 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 2013 年 4 月 5 日, 2 オス (sl 15.9, 17.6 mm), SNMH. 松江市美保関町菅浦, 潮間帯, 転石下, 2011 年 8 月 6 日, 1 メス (sl 15.1 mm), SNMH. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 1 オス (sl 13.2 mm), SNMH. **鳥取県.** 岩美町東浜, 2006 年 8 月 16 日, 1 オス (sl 未測定), TRPM-CB-0000119. 岩美町羽尾, 2009 年 9 月 25 日, 1 オス (sl 未測定), TRPM-CB-0000539.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から九州; 日本海・東シナ海側: 青森県から九州), 中国北部, 韓国, 台湾北東部 (三宅, 1998; Komai, 2003b; McLaughlin et al., 2007).

生息場所. 岩礁, 砂泥底; 水深 30 m 以浅 (峯水, 2002; Komai, 2003b; McLaughlin et al., 2007).

備考. Komai (2003b)は, *Pagurus barbatus* (Ortmann, 1892) (ケブカホンヤドカリの和名が与えられていた; Miyake, 1978; 三宅, 1998 を参照)が *P. japonicus* (Stimpson, 1858)の新参異名 (junior synonym)であることを明らかにした.

ヤマトホンヤドカリは, 大型個体ではサザエ *Turbo sazae* Fukuda, 2017 を主な宿貝とする. 島根半島の日本海側沿岸では, サザエ刺網漁業の混獲物として, ベニホンヤドカリ *Pagurus rubrior* Komai, 2003 とともに頻繁に確認できる.

図 39. *Pagurus japonicus* (Stimpson, 1858) ヤマトホンヤドカリ，島根県松江市島根町小具，漁港，オス (sl 17.6 mm).

***Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849 ケアシホンヤドカリ**
(図 7D, 40)

調査標本. 島根県. 松江市美保関町惣津, 潮間帯, 転石下, 2011 年 4 月 29 日, 1 メス (sl 5.4 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013 年 4 月 16 日, 1 オス (sl 7.5 mm), SNMH. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 1 メス (sl 5.4 mm), SNMH. **鳥取県.** 岩美町熊井浜, 1998 年 8 月 2 日, 2 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 岩美町田後, 2009 年 9 月 4 日, 1 オス (sl 未測定), TRPM-CB-0000550.

分布. 日本 (北海道南部から九州まで), 韓国, ロシア (ピョートル大帝湾) (Komai and Imafuku, 1996).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 5 m (Komai and Imafuku, 1996; 峯水, 2002).

備考.「ケアシホンヤドカリ *Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849」では, 歩脚の斑紋パタンに基づき, 2 つの色彩型 (黒斑型と白斑型)が認識されていた (Miyake, 1978; 三宅, 1982; Imafuku and Ikeda, 1995)が, Komai and Imafuku (1996)は, ケアシホンヤドカリを黒斑型に限定し, 白斑型を新種 *P. maculosus* Komai and Imafuku, 1996 (ホシゾラホンヤドカリ)として記載した. 両種は色彩の違いに加え, 右鉗脚の指節および長節の形態によって区別できる (Komai and Imafuku, 1996). ケアシホンヤドカリは, ホシゾラホンヤドカリに比べてより幅広い地域から記録されている.

図 40. *Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849 ケアシホンヤドカリ, 島根県松江市島根町小具, オス (sl 7.5 mm).

***Pagurus maculosus* Komai and Imafuku, 1996** ホシゾラホンヤドカリ
(図 41)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 2010 年 6 月 18 日, 1 オス (sl 8.0 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013 年 4 月 16 日, 1 オス (sl 7.3 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013 年 5 月 16 日, 1 オス (sl 8.7 mm), 1 メス (sl 8.6 mm). 松江市島根町加賀桂島, 2011 年 3 月 28 日, 1 オス (sl 6.8 mm), SNMH. 松江市美保関町菅浦, 水深 1 m, 転石下, 2011 年 8 月 13 日, 1 オス (sl 5.2 mm), SNMH. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 1 オス (sl 6.1 mm), SNMH.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から紀伊半島, 伊豆大島; 日本海・東シナ海側: 能登半島, 島根県, 熊本県天草市), 韓国 (Komai and Imafuku, 1996; 奥野・有馬, 2004; Asakura, 2006; 大澤ほか, 2014; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 15 m (Komai and Imafuku, 1996; 奥野・有馬, 2004).

備考. 島根半島沿岸では, ホシゾラホンヤドカリは, ケアシホンヤドカリ *Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849 に比べて, 生息・確認個体数は少ない.

図 41. *Pagurus maculosus* Komai and Imafuku, 1996 ホシゾラホンヤドカリ, 島根県松江市島根町小具, オス (sl 7.3 mm).

***Pagurus minutus* Hess, 1865 ユビナガホンヤドカリ**
(図 6A, B, 42)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 2010 年 6 月 4 日, 1 オス (sl 3.0, 3.5 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 2010 年 6 月 18 日, 1 オス (sl 8.0 mm), 1 抱卵メス (sl 7.3 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 2010 年 6 月 23 日, 1 オス (sl 3.7 mm), SNMH. 松江市島根町加賀桂島, 2013 年 5 月 12 日, 1 メス (sl 2.6 mm), SNMH. 松江市島根町加賀桂島, 2013 年 10 月 4 日, 2 オス (sl 3.3, 5.2 mm). 松江市美保関町法田, 漁港近くの小川河口, 2010 年 6 月 9 日, 1 メス (sl 3.9 mm), SNMH. 松江市新庄町 (中海), 潮間帯, 砂底, 2011 年 4 月 13 日, 2 オス (sl 5.3, 5.5 mm), SNMH. 松江市美保関町森山, 境水道大橋下近く, 潮間帯, 2013 年 5 月 17 日, 2 オス (sl 4.8, 5.7 mm), SNMH. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 2013 年 4 月 15 日, 1 オス (sl 2.7 mm). 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 1 メス (sl 3.6 mm), SNMH. **鳥取県.** 岩美町羽尾, 2009 年 4 月 29 日, 2 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM-CB-0000381. **兵庫県.** 新温泉町諸寄, 2007 年 8 月 12 日, 1 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM-CB-0000120.

分布. 日本 (北海道南部から九州まで, 琉球列島), 台湾, 韓国, 中国北東部, ロシア (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007).

生息場所. 河口や干潟の砂泥底, 汽水域, 岩礁; 潮間帯から水深 5 m (McLaughlin et al., 2007).

備考. 「分布」において示したとおり, 本種は北西太平洋の亜寒帯区から熱帯区 (西村 1992 を参照) にかけて, 幅広い地域から記録されている.

ユビナガホンヤドカリの学名には, *Pagurus dubius* (Ortmann, 1892)があてられてきた (たとえば, Miyake, 1978; 朝倉, 1995; 三宅, 1998)が, これは *Pagurus minutus* Hess, 1865 の新参異名 (junior synonym)であることが判明している (Komai and Mishima, 2003). なお Sandberg and McLaughlin (1993)は, *P. minutus* のシンタイプ (総模式標本) [*P. minutus* のレクトタイプ (後模式標本)とホンヤドカリ *P. filholi* (De Man, 1887)のホロタイプ (完模式標本)] のタイプ産地とされている“Sydney”について, これらの種がオーストラリア東岸では確認されていないことから, その産地に誤りがある可能性を指摘している. これら 2 種の記録から判断すると, 東アジア域が実際の産地である可能性が高く, *Pagurus dubius* のタイプ産地も東京湾となっている (Komai and Mishima, 2003).

一方 Jung et al. (2018)は, 韓国, 日本 (本州, 九州, 琉球列島), 台湾の標本を対象にして遺伝学的解析を行い, それらは 3 つのグループ (韓国・九州から本州, 韓国・九州, 台湾・琉球列島)に分けられ, グループ間は形態および色彩でも区別されるとしている. 識別形質は, 形態では眼柄と歩脚指節の長さ (大型個体では, 歩脚指節の上縁末端部の棘数), 色彩では歩脚の側面の基盤色とその腕節・前節の側面における縦じまの数・有無であるとしているが, 3 つのグループの分類の決定にはさらなる追加標本およびそれらのより詳細な比較・検討が必要であると考えられる.

ユビナガホンヤドカリは, 島根県中海や境水道沿岸において多数個体が確認できる, 代表的な汽水性のヤドカリ類である.

図 42. *Pagurus minutus* Hess, 1865 ユビナガホンヤドカリ, 松江市美保関町森山, オス (sl 5.7 mm).

***Pagurus nigrivittatus* Komai, 2003** クロシマホンヤドカリ
(図 43)

調査標本. 島根県. 松江市美保関町菅浦, 水深 1 m, 転石下, 2011 年 8 月 13 日, 1 オス (sl 3.9 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013 年 5 月 16 日, 1 オス (sl 3.5 mm), SNMH. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 1 オス (sl 3.4 mm), SNMH.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から九州; 日本海側: 福井県, 島根県), 韓国, 台湾北東部, 澎湖諸島 (Komai, 2003a; McLaughlin et al., 2007; 大澤ほか, 2014; Jung et al., 2018).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 7 m (Komai, 2003a; Komai and Takeda, 2006).

備考. 本種は,「*Pagurus pilosipes* (Stimpson, 1858)」または「アカシマホンヤドカリ」として誤って認識されてきた (たとえば, Miyake, 1978; 朝倉, 1995; 三宅, 1998; 峯水, 2002). Komai (2003a)は, *Pagurus erythrogrammus* Komai, 2003 の和名を「アカシマホンヤドカリ」とするとともに, 本種 *Pagurus nigrivittatus* に対して和名「クロシマホンヤドカリ」を与えた.

図 43. *Pagurus nigrivittatus* Komai, 2003 クロシマホンヤドカリ，島根県松江市島根町小具，オス (sl 3.5 mm).

***Pagurus nigrofascia* Komai, 1996** ヨモギホンヤドカリ
(図 6D, 44)

調査標本. 島根県. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 2 オス (sl 5.9, 6.7 mm), SNMH.

分布. 日本 (北海道函館湾; 太平洋側: 東京湾, 大阪湾, 和歌山県, 岡山県, 広島県; 日本海・東シナ海側: 石川県, 島根県 隠岐諸島, 福岡県, 熊本県天草市), 韓国 (Komai, 1996; Asakura, 2006; Komai and Takeda, 2006; 山田, 2012; Kim and Kim, 2014; 大澤ほか, 2014; 吉郷, 2022).

生息場所. 岩礁, 干潟; 潮間帯 (Komai, 1996; 三島, 1997; Komai and Takeda, 2006). 山田 (2012)は, 大阪湾沿岸におけるヨモギホンヤドカリの分布調査の結果に基づき、本種に適した生息場所は「大きな礫や石積護岸があり、河川水 (淡水)の影響をあまり受けない環境で、多少とも内湾的な海岸に限られる」と推察している. 三島 (1998)も博多湾において, 潮間帯上部の転石下にヨモギホンヤドカリが多数生息していることを確認しており, その生息場所は内湾的傾向が強く, 砂泥の堆積の少ない転石海岸であるとしている.

備考. ヨモギホンヤドカリの抱卵期間は約 9 ヶ月と, 他の同属の種のものに比べて著しく長い (Goshima et al., 1996; Mishima and Henmi, 2008). 福岡県博多湾において, 本種は冬期には潮間帯下部に分布するが, 夏期には厳しい高温・乾燥状態になる潮間帯上部に移動することが報告されている (Mishima and Henmi, 2008).

調査標本に加えて, 島根県海士町 (隠岐諸島島前中ノ島)においても生息を確認している. 隠岐諸島から採集されているが, 島根県の本州側の沿岸からは見つかっていない.

図 44. *Pagurus nigrofascia* Komai, 1996 ヨモギホンヤドカリ，島根県隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後)，オス (sl 6.7 mm).

***Pagurus nipponensis* (Yokoya, 1933)** シマハダカホンヤドカリ
(図 45)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2019 年 4 月 17 日, 1 抱卵メス (sl 5.9 mm), TRPM-798. **兵庫県.** 浜坂町 (新温泉町) 沖, 水深 100 m, トロール, 1993 年 7 月 8 日, 1 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM-甲 07-033.

分布. 日本 (太平洋側: 茨城県から鹿児島; 日本海・東シナ海側: 青森県から鳥取県, 五島列島, 甑列島), 韓国, 台湾 (Yokoya, 1933, *Eupagurus nipponensis* として報告; Komai, 1998, *Parapagurodes nipponensis* として報告; Asakua, 2006; McLaughlin et al., 2007; Kim and Kim, 2014; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 貝殻まじりの砂・砂泥底; 水深 30–335 m (Komai and Takeda, 2006; McLaughlin et al., 2007).

備考. 本種は, ハダカホンヤドカリ *Pagurus gracilipes* (Stimpson, 1858)と混同されていた (例えば, Miyake, 1978; 三宅, 1998) が, Komai (1998, *Parapagurodes nipponensis* として報告)は, 尾節や歩脚の指節の形態, そして鉗脚および歩脚の色彩により, これら 2 種は区別できることを示した.

ハダカホンヤドカリおよびシマハダカホンヤドカリとも, 宿貝の表面に通常, 1 個体または複数個体のイソギンチャク類を付ける (Komai, 1998, *Parapagurodes nipponensis* として報告).

図 45. *Pagurus nipponensis* (Yokoya, 1933) シマハダカホンヤドカリ，鳥取県鳥取市長尾鼻沖，抱卵メス (sl 5.9 mm).

***Pagurus ochotensis* Brandt, 1851 オホーツクホンヤドカリ**
(図 46)

調査標本. 島根県. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 底曳網, 漁獲残物, 2013 年 5 月 30 日, 1 乾燥性不明個体 (sl 16.0 mm), SNMH.

分布. 日本 (北海道から千葉県銚子市犬吠埼・山口県まで), 韓国, シベリア, カムチャッカ, オホーツク海, サハリン, クリル諸島, ピョートル大帝湾, ベーリング海からオレゴン州 (McLaughlin, 1974; 三宅, 1998; Asakura, 2006; 園山ほか, 2017b).

生息場所. 岩盤上に岩石の多いところ, 砂・砂泥底; 水深 5–249 m (McLaughlin, 1974; 三宅, 1998; 峯水, 2002).

備考. 調査標本は, 漁港岸に漁獲残物として放置されていた乾燥個体である. 右鉗脚を失っていることに加え, 体全体が大きく破損しているが, 保存されている眼柄, 左鉗脚, 歩脚の形態に加え, 歩脚の前節および指節の側面に見られる縞模様に基づき, オホーツクホンヤドカリ *Pagurus ochotensis* Brandt, 1851 に同定された (McLaughlin, 1974; 三宅, 1998 を参照; 大澤ほか, 2014).

島根県出雲市十六島漁港に着岸していた漁船付近より得られたことから, 調査標本は沖合の底曳網漁業の混獲物であると考えられる. 島根県の沖合からは, オホーツクホンヤドカリのほか, ゴトウヤドカリ *Elassochirus cavimanus* (Miers, 1879), ラスバンホンヤドカリ *Pagurus rathbuni* (Benedict, 1892), ミゾテホンヤドカリ *Pagurus undosus* (Benedict, 1892), ミツカドホンヤドカリ *Pagurus trigonocheirus* (Stimpson, 1858)の 4 種の寒海・深海性ヤドカリ類が記録されている (本尾ほか, 2011; Komatsu, 2014).

図 46. *Pagurus ochotensis* Brandt, 1851 オホーツクホンヤドカリ, 島根県出雲市十六島町,漁港, 性不明個体 (sl 16.0 mm), 乾燥.

***Pagurus proximus* Komai, 2000** イクビホンヤドカリ
(図 47)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, タコつぼ, 2013 年 4 月 20 日, 1 オス (sl 4.7 mm), SNMH.

分布. 日本 (北海道函館湾; 太平洋側: 青森県から房総半島, 岡山県, 広島県, 伊豆大島; 日本海側: 新潟県, 島根県), 韓国, ロシア (ピョートル大帝湾) (Komai, 2000; Kim et al., 2004; 奥野・有馬, 2006; 大澤ほか, 2014; 吉郷, 2022).

生息場所. 岩礁, 藻場, 砂泥底; 潮間帯から水深 20 m (Komai, 2000; 峯水, 2002; Komai and Takeda, 2006).

備考. 調査標本に加えて, 島根県松江市島根町加賀桂島においても本種を確認している.

Komai (2000)は, *Pagurus brachiomastus* (Thallwitz, 1891)に同定されてきた標本およびその時点までの報告・記録の整理を行い, *Pagurus brachiomastus* (ツマベニホンヤドカリ)の他に *Pagurus proximus* Komai, 2000 (イクビホンヤドカリ)および *Pagurus simulans* Komai, 2000 (チャイロイクビホンヤドカリ)の 2 新種が混同されていたことを明らかにした.

図 47. *Pagurus proximus* Komai, 2000 イクビホンヤドカリ, 島根県松江市島根町小具, オス (sl 4.7 mm).

***Pagurus quinquelineatus* Komai, 2003** ゴホンアカシマホンヤドカリ
(図 48)

調査標本. 島根県. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 水深 1.5 m, 2015 年 3 月 30 日, 1 抱卵メス (sl 1.9 mm), SNMH. **鳥取県.** 岩美町羽尾岬沖, ゴイシクラ, 35°60.4′N, 134°33.9′E, 水深 10 m, SCUBA, 2018 年 8 月 13 日, 1 オス (sl 1.7 mm), TRPM-799.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から伊豆半島, 伊豆大島; 日本海側: 福井県から島根県), 韓国 (Komai, 2003a; 奥野・有馬, 2004; Asakura, 2006; 大澤ほか, 2016; Jung et al., 2018).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 16 m (Komai, 2003a; 有馬, 2014).

備考. Komai et al. (2015)は, ゴホンアカシマヤドカリに形態および色彩が近似するエダジマホンヤドカリ *Pagurus rectidactylus* Komai, Saito and Myorin, 2015 を, 広島県および福井県から採集された標本に基づき記載した. エダジマホンヤドカリは, 右鉗脚の指節上に明瞭な棘列を持たないこと, 歩脚がより伸長して細くなり, その指節と前節の腹縁により多くの小棘を持つこと, そして色彩については, 眼柄の内面に明瞭な暗褐色の斑紋を持たないこと, 両鉗脚の長節の内面の斑紋がより明色であることによって, ゴホンアカシマヤドカリから区別できる (Komai, 2003; Komai et al., 2015).

図 48. *Pagurus quinquelineatus* Komai, 2003 ゴホンアカシマホンヤドカリ, 島根県出雲市十六島町, 抱卵メス (sl 1.9 mm).

***Pagurus rathbuni* (Benedict, 1892)** ラスバンホンヤドカリ
(図 49)

調査標本. 兵庫県. 香美町沖, 35°51.7′N, 134°45.6′E, 水深 226 m, 底曳網, 2010 年 6 月 2 日, 3 オス (sl 8.2–14.9 mm), SNMH. 但馬沖 (香美町沖), 水深 300 m, トロール, 1995 年 11 月 24 日, 2 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM-甲 07-001.

分布. 東シベリア海, カムチャッカ, オホーツク海, クリル諸島, 日本 (北海道から茨城県・島根県まで), チュクチ海, ベーリング海, 北極海, 韓国 (McLaughlin, 1974; 三宅, 1998; Komatsu and Komai, 2009; 本尾ほか, 2011; Kim and Kim, 2014).

生息場所. 水深 420 m 以浅 (Komatsu and Komai, 2009).

備考. 大澤ほか (2014)は, 本調査標本の産地を「鳥取県東部沖」と誤って報告している.

島根県の沖合からは, ゴトウヤドカリ *Elassochirus cavimanus* (Miers, 1879), オホーツクホンヤドカリ *Pagurus ochotensis* Brandt, 1851, ラスバンホンヤドカリ, ミツカドホンヤドカリ *Pagurus trigonocheirus* (Stimpson, 1858), ミゾテホンヤドカリ *Pagurus undosus* (Benedict, 1892)の 5 種の寒海・深海性ヤドカリ類が記録されている (本尾ほか, 2011; Komatsu, 2014; 大澤ほか, 2014). 日本海の沖合域において, これら 5 種の中で確認されている個体数が最も多いのは, ラスバンホンヤドカリである (Komatsu, 2014).

図 49. *Pagurus rathbuni* (Benedict, 1892) ラスバンホンヤドカリ, 兵庫県香美町沖, オス (sl 14.9 mm), エタノール液浸.

***Pagurus rubrior* Komai, 2003** ベニホンヤドカリ
(図 6E, 50)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 2013 年 4 月 5 日, 1 オス (sl 17.5 mm), 1 メス (sl 16.4 mm), SNMH. 松江市島根町大芦, 大芦漁港, 刺網, 2013 年 6 月 29 日, 1 オス (sl 15.6 mm), SNMH. 松江市島根町野波, 漁港, 刺網, 2013 年 4 月 13 日, 1 メス (sl 14.8 mm), SNMH. **鳥取県.** 東伯町 (琴浦町)逢束加勢蛇川河口, 1991 年 7 月 14 日, 1 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 岩美町羽尾, 2009 年 8 月 20 日, 1 抱卵メス (sl 未測定), TRPM-CB-0000561.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から九州; 日本海側: 新潟県から山口県), 韓国 (Komai, 2003b; Asakura, 2006; 本尾, 2007).

生息場所. 岩礁; 水深 30 m 以浅 (Komai, 2003b).

備考. ベニホンヤドカリの学名には, *Pagurus similis* (Ortmann, 1892)があてられてきた (たとえば, Miyake, 1978; 朝倉, 1995; 三宅, 1998; 峯水, 2002). しかしながら, それらの付図のほとんどは *Pagurus rubrior* Komai, 2003 のものであると判断されている (Komai, 2003b)ことから, *P. rubrior* の和名には「ベニホンヤドカリ」を使用することが適当であるとみなされている (奥野・有馬, 2004). *Pagurus similis* の和名は, その体色にちなみ「ヤマブキホンヤドカリ」となっている (Komai and Takeda, 2006).

ベニホンヤドカリは, 大型個体ではサザエ *Turbo sazae* Fukuda, 2017 を宿貝とし, 島根半島沿岸ではサザエ刺網漁業の混獲物として, ヤマトホンヤドカリ *Pagurus japonicus* (Stimpson, 1858)とともに, 頻繁に見かけることができる.

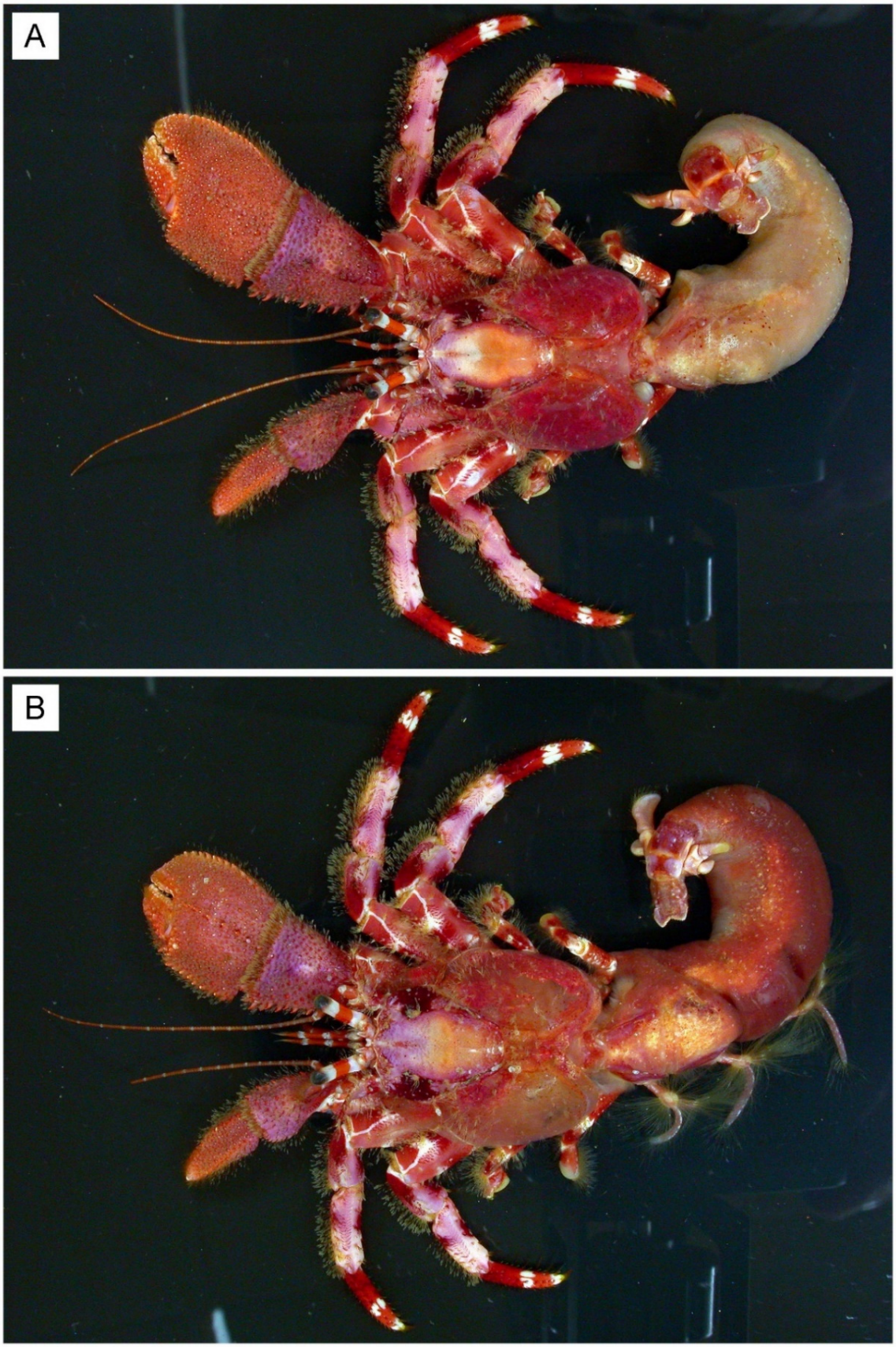


図 50. *Pagurus rubrior* Komai, 2003 ベニホンヤドカリ, 島根県松江市島根町小具, オス (sl 未測定) (A); 島根県松江市島根町小具, メス (sl 未測定) (B).

***Pagurus spina* Komai, 1994** ヒメケアシホンヤドカリ
(図 51)

調査標本. 島根県. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013 年 6 月 9 日, 1 オス (sl 3.6 mm), SNMH.

分布. 日本 (太平洋側: 岩手県, 伊豆半島, 伊豆大島; 日本海側: 福井県, 島根県), 韓国 (奥野・有馬, 2006; 大澤ほか, 2014; Jung et al. 2018).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 5 m (Komai, 1994; 奥野ほか, 2006).

備考. 本種の形態的特徴については, Komai (1994)および奥野ほか (2006)が示している. 加えて, ヒメケアシホンヤドカリと形態が類似する 2 種, ケアシホンヤドカリ *Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849 およびホシゾラホンヤドカリ *Pagurus maculosus* Komai and Imafuku, 1996 との色彩における識別点は, 奥野ほか (2006)が記述している. ヒメケアシホンヤドカリは, 眼柄上の暗褐色の縦縞に加え, 鉗脚および歩脚の長節の末部に白色の横帯を持つことによって, ケアシホンヤドカリおよびホシゾラホンヤドカリから容易に区別できる. 胸脚上の白色の横帯は, 奥野ほか (2006, pl. 3-I)においても図示されている.

図 51. *Pagurus spina* Komai, 1994 ヒメケアシホンヤドカリ, 島根県隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), オス (sl 3.6 mm).

***Porcellanopagurus nihonkaiensis* Takeda, 1985 マルミカイガラカツギ**
(図 52)

調査標本. 鳥取県. 岩美町田後沖, ヤマダシ, 35°60.2′N, 134°31.1′E, 水深 15 m, SCUBA, 2018 年 9 月 20 日, 1 抱卵メス (sl 1.9 mm), TRPM-800.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島, 相模湾, 伊豆半島, 伊豆大島, 紀伊半島; 日本海側: 石川県, 鳥取県), 韓国 (奥野・有馬, 2004; Komai and Takeda, 2006; Kim and Kim, 2017; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 岩礁; 水深 15–73 m (Komai and Takeda, 2006; Osawa and Ota, 2020).

備考. カイガラヤドカリ属 *Porcellanopagurus* Filhol, 1885 は, 二枚貝の 1 殻を背負うという特徴を持つ. 本属は, 日本沿岸から, *P. filholi* de Saint Laurent and McLaughlin, 2000, カイガラカツギ *P. japonicus* Balss, 1913, マルミカイガラカツギ *P. nihonkaiensis* Takeda, 1985, チビカイガラカツギ *P. truncatifrons* Takeda, 1981 の 4 種, そして日本海沿岸から, マルミカイガラカツギのみが記録されている (Komai and Takeda, 2006; McLaughlin et al., 2010; 有馬, 2014). マルミカイガラカツギのタイプ (模式)産地は, 日本海沿岸の石川県飯田湾であり (Takeda, 1985), Komai and Takeda (2006)によって当種の詳細な再記載がなされた.

調査標本は抱卵メスであり, 腹部の背面に卵を抱えていた.

図 52. *Porcellanopagurus nihonkaiensis* Takeda, 1985 マルミカイガラカツギ, 鳥取県岩美町田後, 抱卵メス (sl 1.9 mm).

Pylochelidae ツノガイヤドカリ科

***Pomatocheles jeffreysii* Miers, 1879 ツノガイヤドカリ**
(図 53)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 6 月 18 日, 1 性未確認個体 (sl 未測定), 画像のみ.

分布. 日本 (太平洋側: 相模湾, 駿河湾, 伊勢湾, 田辺湾, 土佐湾; 日本海・東シナ海側: 山形県から山口県, 福岡県), 韓国, 台湾 (Forest, 1987; 三宅, 1998; Asakura, 2006; McLaughlin et al., 2007; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 泥底; 水深 23–331 m (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007).

備考. ツノガイヤドカリ科の種は, 腹部に発達した背板を持ち, 腹節構造が明瞭である. 日本沿岸から記録されているツノガイヤドカリ科は, ツノガイヤドカリのほか, ヒゲナガヤドカリ *Cheiroplatea mitoi* Miyake, 1978, カルイシヤドカリ *Pylocheles mortensenii* Boas, 1926, ウキボリヤドカリ *Cancellocheles sculpti*pes (Miyake, 1978), アルバトロストガリツノガイヤドカリ *Trizocheles albatrossi* Forest, 1987, トゲナシトガリツノガイヤドカリ *T. loquax* Forest, 1987, トガリツノガイヤドカリ *T. sakaii* Forest, 1987, アシジロトガリツノガイヤドカリ *T. albipes* Komai, 2013, ハナシトガリツノガイヤドカリ *T. inermis* Komai, 2013, ハザマトガリツノガイヤドカリ *T. parvispina* Komai, 2013 の 9 種である (Forest, 1987; Komai, 2013). 日本海からはツノガイヤドカリのみが記録されている (Asakura, 2006).

ツノガイヤドカリは, ゾウゲツノガイ科 Dentaliidae の殻を利用する (McLaughlin et al., 2007).

図 53. *Pomatocheles jeffreysii* Miers, 1879 ツノガイヤドカリ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, 性未確認個体 (sl 未測定), 画像のみ;

Lithodoidea タラバガニ上科

Hapalogastridae ヒラトゲガニ科

***Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849)** ヒラトゲガニ
(図 7E, 54)

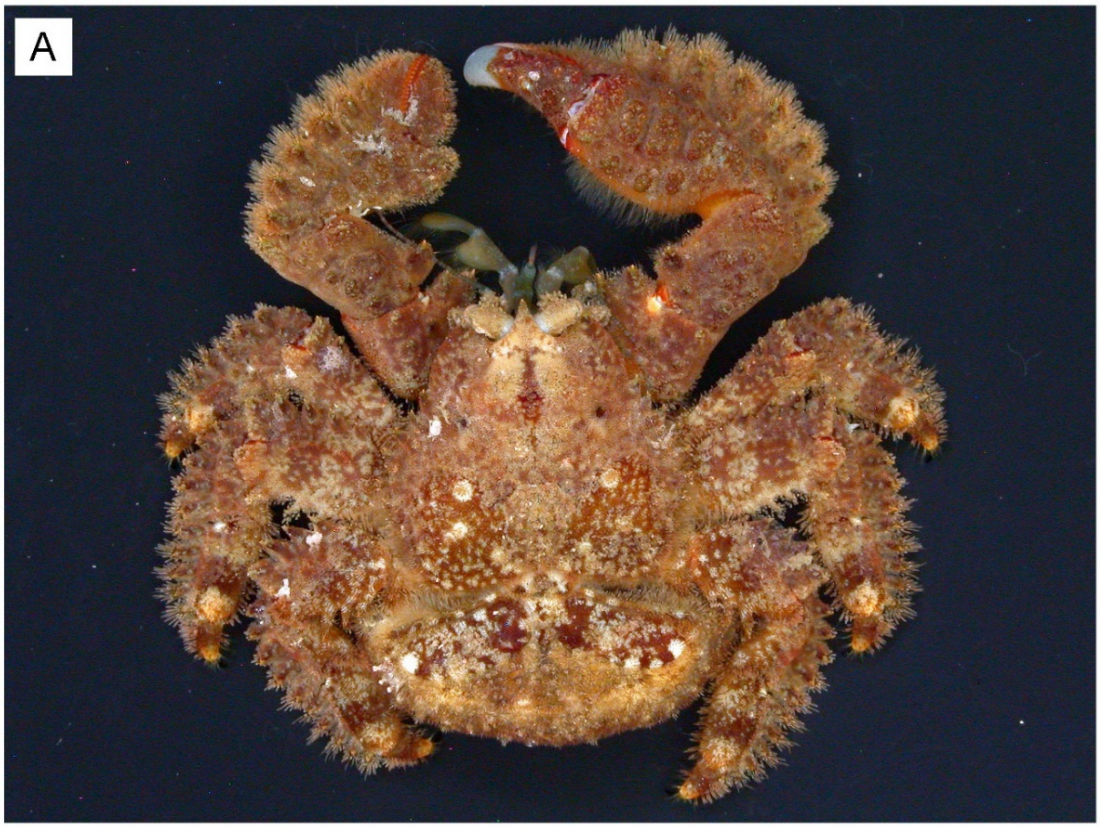
調査標本. 島根県. 松江市美保関町菅浦, 潮間帯, 転石下, 2011 年 8 月 6 日, 2 オス (cl 13.6, 13.8 mm), SNMH. 松江市美保関町菅浦, 水深 1 m, 転石下, 2011 年 8 月 13 日, 1 オス (cl 17.1 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 水深 1 m, 転石下, 2013 年 8 月 23 日, 2 オス (cl 10.1, 11.4 mm), 1 メス (cl 10.0 mm), SNMH. **鳥取県.** 岩美町熊井浜, 2006 年 7 月 22 日, 1 性未確認個体 (cl 未測定), TRPM-CB-0000125. 岩美町田後, 2009 年 10 月 17 日, 1 オス (cl 15.1 mm), TRPM-CB-0000597.

分布. ロシア, 日本 (北海道から九州まで), 韓国 (三宅, 1998; Marin, 2013).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 10 m (三宅, 1998).

備考. 日本沿岸から知られているヒラトゲガニ属 *Hapalogaster* Brandt, 1850 は, ヒラトゲガニとショウジョウガニ *H. grebnitzkii* Schalfeew, 1892 の 2 種を含む (三宅, 1998). ショウジョウガニは, 日本国内では北海道東岸から知られている (三宅, 1998; 峯水, 2002).

本種は動きが鈍く, 石の下に張り付いており, 体をつかむと胸脚を丸める行動を示す. 島根半島の岩礁海岸では, 潮間帯下部から潮下帯にかけての転石下にまとまって, 複数個体を確認できる.


A


B

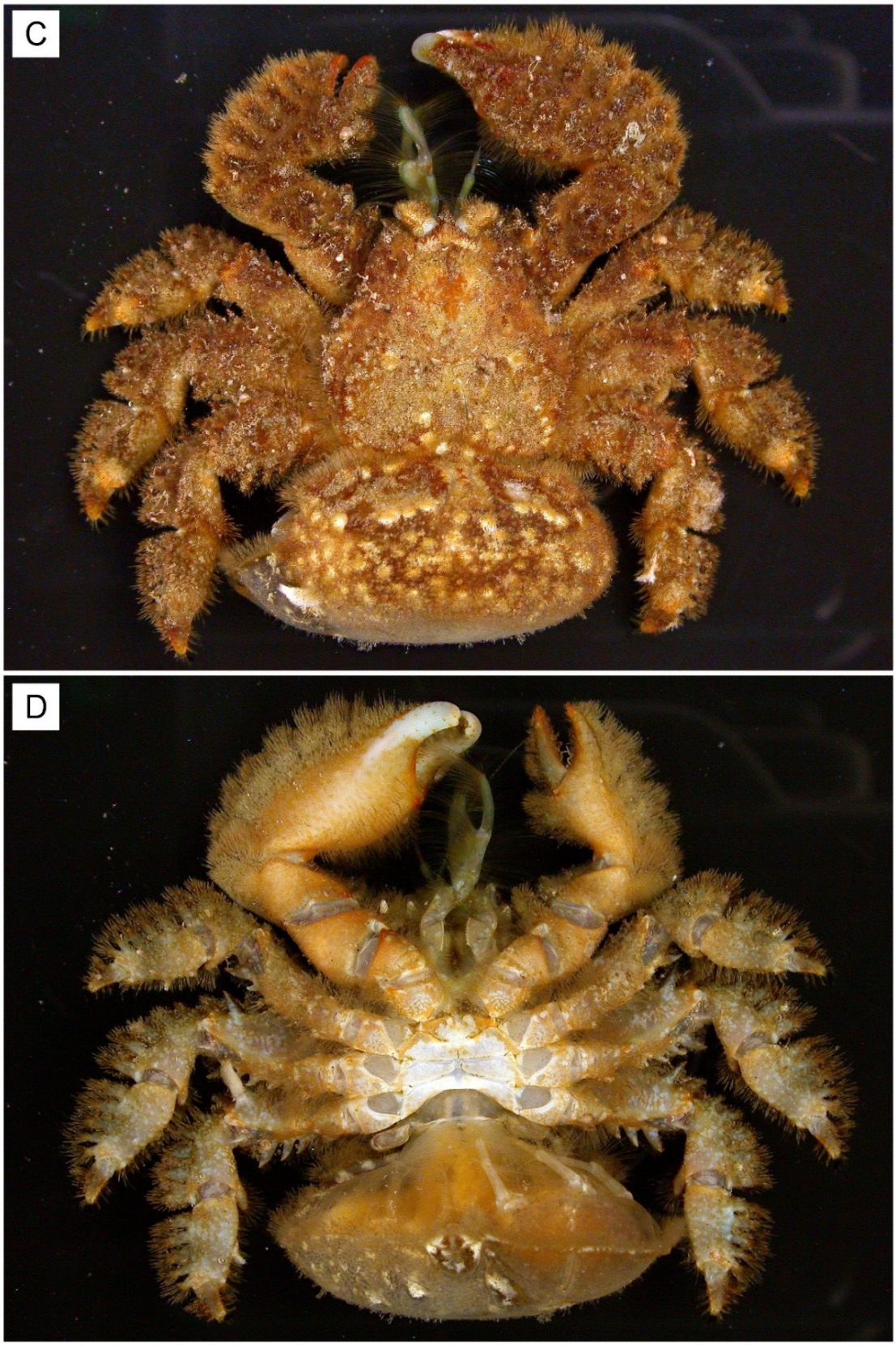


図 54. *Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849) ヒラトゲガニ, 島根県松江市島根町加賀桂島, オス (cl 未測定), 背面 (A); 同, 腹面 (B); 島根県松江市島根町加賀桂島, メス (cl 未測定), 背面 (C); 同, 腹面 (D).

***Oedignathus inermis* (Stimpson, 1860) イボガニ**
(図 55)

調査標本. 島根県. 松江市島根町野井, 1990 年 8 月 10 日, 1 乾燥メス (cl 11.1 mm), TRPM (未登録). **鳥取県.** 岩美町東浜沖 150 m, 1995 年 8 月 6 日, 8 乾燥個体 (4 オス, 最大 cl 16.4 mm; 4 性未確認, 最大 cl 13.7 mm), TRPM (未登録). 岩美町網代漁港, 2009 年 8 月 4 日, 2 オス (cl 16.0, 16.5 mm), TRPM-CB-0000510.

分布. 韓国, 日本 (北海道から相模湾・福岡県まで), ロシア, ベーリング海, アラスカ海からカリフォルニア (三宅, 1998; 朝倉, 2005; 倉持・池田, 2007; 本尾, 2007; Marin, 2013; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 波浪の強い岩礁; 潮間帯から水深 50 m (三宅, 1998; 朝倉, 2005).

備考. イボガニ属 *Oedignathus* Benedict, 1895 には, イボガニ *O. inermis* のみが含まれる. 本種は, ヒラトゲガニ *Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849)と同様に, 袋状の柔らかい腹部を持つ. イボガニでは, 甲や胸脚に多数のいぼ状突起を持つ一方, ヒラトゲガニでは, 甲の側縁および胸脚の前縁に鋸歯を持つことで区別できる. 日本沿岸では, ヒラトゲガニに比べて, イボガニの記録は限られている.

図 55. *Oedignathus inermis* (Stimpson, 1860) イボガニ, 鳥取県岩美町網代, 漁港, オス (cl 16.5 mm), エタノール液浸.

Lithodidae タラバガニ科

***Paralithodes camtschaticus* (Tilesius, 1815) タラバガニ**
(図 56)

調査標本. 鳥取県. 境港市, 境港水産物地方卸売市場, 2014 年 10 月, 画像のみ.

分布. 北極海, ベーリング海, カムチャッカ. オホーツク海, 日本, 韓国 (上田, 1958; 三宅, 1998). 日本での記録は, 北海道羅臼町・襟裳岬, 日本海 (北海道から山口県) (上田, 1958; Miyake et al.,1962; 三宅, 1998).

生息場所. 岩礁; 水深 3–800 m (峯水, 2002). 通常, 200 m を超える深海域に生息するが, 春期に浅所に移動し, 抱卵メスは幼生をふ化させる. その後, メスは脱皮を行い, オスと交尾し, オスとともに浅所から深所に移動し, 翌春に再び幼生をふ化させるために浅所に戻ってくる (酒井, 1976). 一方, 甲幅 30–50 mm の若い個体は, 浅所で通年確認できる (峯水, 2002).

備考. 境港水産物地方卸売市場の生け簀内において, タラバガニ *Paralithodes camtschaticus* (Tilesius, 1815)を確認した. 甲幅が 200 mm ほどになる, 高価な漁獲対象種で, かつてはカニ缶詰として数多く加工・消費されていた (酒井, 1976; 岸田, 1963b). 寒海性種であり,「山陰」での漁獲は限られていたようであるが, 岸田 (1963b) によると, 鳥取県の漁獲統計では, タラバガニの漁獲量は, 1952–1958 年において年間約 3–14 トンあった. 現在,「山陰」を含む本州日本海沿岸でのタラバガニの漁獲量は皆無に等しい (本尾, 2007).

なお本尾 (2007)は, 岸田 (1963b)に基づき, タラバガニが山口県から記録されているとしているが, 岸田 (1963b)の記録は鳥取県または兵庫県から得られた個体に基づくものである. 日本海の日本側におけるタラバガニの分布の南限が山口県であることは, 上田 (1956, 1958)が述べている.

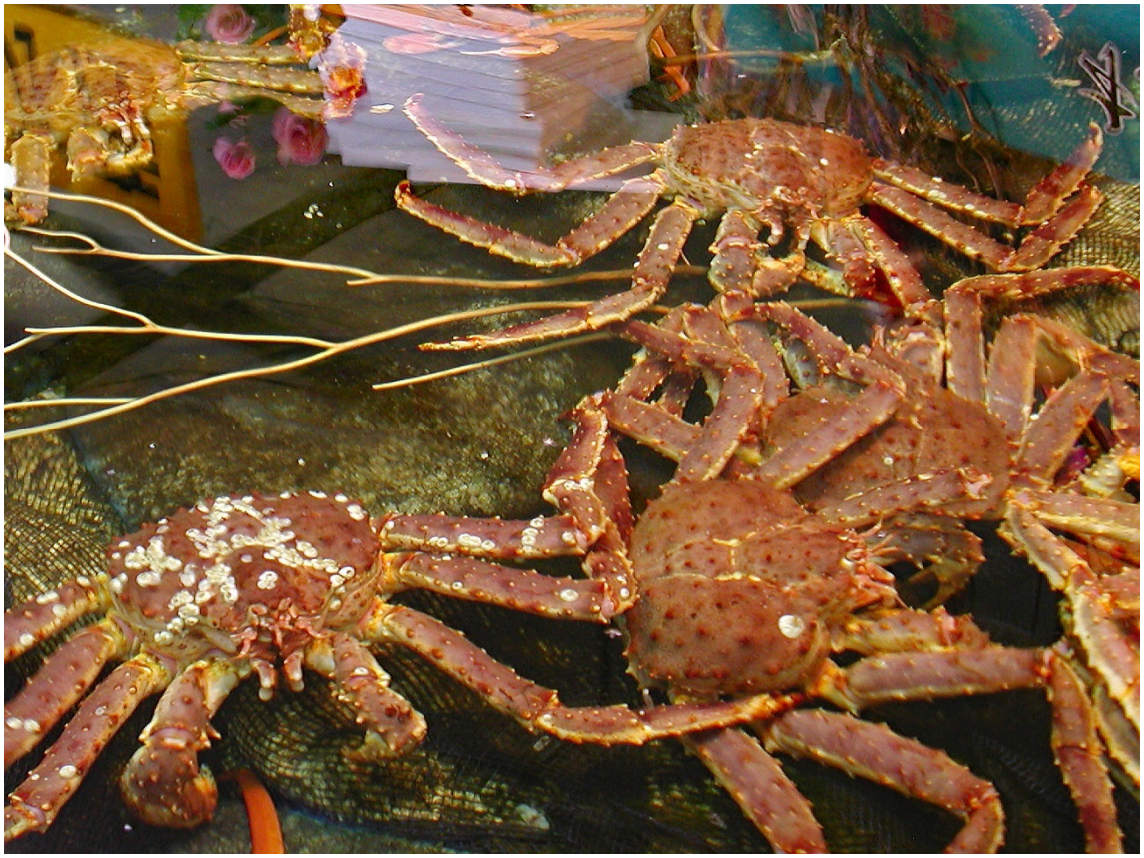


図 56. *Paralithodes camtschaticus* (Tilesius, 1815) タラバガニ, 鳥取県境港市, 境港水産物地方卸売市場, 画像のみ.

Chirostyloidea ワラエビ上科

Chirostylidae ワラエビ科

***Chirostylus ortmanni* Miyake and Baba, 1968** オルトマンワラエビ
(図 57)

調査標本. 鳥取県. 岩美町田後沖, 水深 27 m, 2021 年 10–11 月, 抱卵メス, 画像のみ.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から薩摩半島, 伊豆諸島; 日本海・東シナ海側: 鳥取県; 福岡県沖ノ島), 台湾 (Osawa, 2007; Lin and Osawa, 2014; 本報).

生息場所. 岩礁, 礁斜面; 水深 10–90 m (Miyake and Baba, 1968; 峯水, 2002; Osawa, 2007). ウミトサカ類, イソバナ類, ウミカラマツ類 (刺胞動物門: 花虫綱)の群体上に棲む (加藤・奥野, 2001; 峯水, 2002).

備考. 標本は得られていないが, 画像の個体の色彩は, Osawa (2007)によるオルトマンワラエビ *Chirostylus ortmanni* Miyake and Baba, 1968 の再記載のものによく一致しており, 当種であることは間違いない. 本報は, 日本海沿岸からのオルトマンワラエビの初記録となる. 近年, 当画像の撮影地点ではオルトマンワラエビが一年にわたって出現し, かつ抱卵個体も確認されていることから同所で再生産していると推察される (撮影者 山崎英治氏私信).

日本沿岸から記録されているワラエビ属 *Chirostylus* Ortmann, 1892 は, オルトマンワラエビのほか, ムギワラエビ *C. dolichopus* Ortmann, 1892, *C. rostratus* Osawa and Nishikiori, 1998, ホシゾラワラエビ *C. stellaris* Osawa, 2007 の 3 種を含む (Osawa, 2007). 本州沿岸からは, ムギワラエビとオルトマンワラエビが記録されている (Osawa, 2007; Okuno and Osawa, 2016).

図 57. *Chirostylus ortmanni* Miyake and Baba, 1968 オルトマンワラエビ，鳥取県岩美町田後，抱卵メス (pcl 未測定)，画像のみ (山崎英治氏 撮影).

Galatheoidea ガラテア上科

Galatheidae コシオリエビ科

***Galathea guttata* Osawa, 2004** テハンコシオリエビ **(新称)**
(図 58)

調査標本. 鳥取県. 岩美町田後沖, 35°59.1′N, 134°31.0′E, 水深 12 m, SCUBA, 2017 年 10 月 11 日, 1 オス (pcl 3.1 mm), TRPM-785.

分布. 日本 (八丈島, 沖縄島, 久米島, 鳥取県), 南シナ海, ニューギニア, ニューカレドニア (加藤・奥野, 2001, *Galathea* sp. B として報告; Osawa, 2004; Dong and Li, 2010; Macpherson and Robainas-Barcia, 2015; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 岩, 生・死サンゴ, 貝殻・砂泥底; 水深 1–54 m (Osawa, 2004; Dong and Li, 2010; Macpherson and Robainas-Barcia, 2015).

備考. これまでの記録 (Osawa, 2004; Dong and Li, 2010; Macpherson and Robainas-Barcia, 2015)から判断すると, 本種は西太平洋熱帯域に広く分布していると考えられる. 現時点での日本海からの記録は, 鳥取県沿岸のみに限られる (Osawa and Ota, 2020).

鉗脚の鉗部の背面末端部に見られる白斑 (Osawa, 2004: fig. 3A, B; 図 58)にちなみ, 本種の標準和名を「テハンコシオリエビ」とすることを提唱する. 和名の基準となる標本には, 本報の調査標本 (TRPM-785)を指定する.

図 58. *Galathea guttata* Osawa, 2004 テハンコシオリエビ (新称), 鳥取県岩美町田後, オス (pcl 3.1 mm), エタノール液浸.

***Galathea orientalis* Stimpson, 1858** トウヨウコシオリエビ
(図 59)

調査標本. 島根県. 境水道, 底曳網, 2010 年 3 月 24 日, 1 メス (pcl 5.5 mm), SNMH. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 2013 年 11 月 19 日, 1 オス (pcl 1.8 mm), SNMH. **鳥取県.** 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 50 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 5 性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 50 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 70 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). 岩美町羽尾岬沖, ゴイシクラ, 35°60.4′N, 134°33.9′E, 水深 10 m, SCUBA, 2018 年 8 月 13 日, 1 性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). 岩美町田後沖, ヤマダシ, 35°60.2′N, 134°31.1′E, 水深 15 m, SCUBA, 2018 年 9 月 20 日, 1 性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). **兵庫県.** 新温泉町釜屋沖, 2008 年 3 月 14 日, 2 性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM-CB-000088.

分布. 日本 (北海道函館市; 太平洋側: 相模湾から鹿児島県, 奄美大島, 小笠原諸島; 日本海・東シナ海側: 鳥取県, 島根県, 長崎県, 壱岐諸島沖), 韓国, 台湾, 東シナ海, 香港, 西オーストラリア (三宅, 1998; Baba et al., 2009; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 砂泥底, 岩礁, サンゴ塊, 転石, 海藻の基部; 潮間帯から水深 549 m (峯水, 2002; Baba et al., 2009).

備考. 調査標本のほか, 島根県海士町 (隠岐諸島島前中ノ島)の養殖イワガキに付着する生物の間隙からも, 本種を確認している. また, 本尾・山内 (2011)は, 本種を島根県隠岐の島町 (隠岐諸島島後)から記録している.

トウヨウコシオリエビは, 日本沿岸において頻繁に確認でき, 出現記録も多いコシオリエビ類である. 全体的な色彩には, 幅広い変異がみられる (峯水, 2002; 図 59).

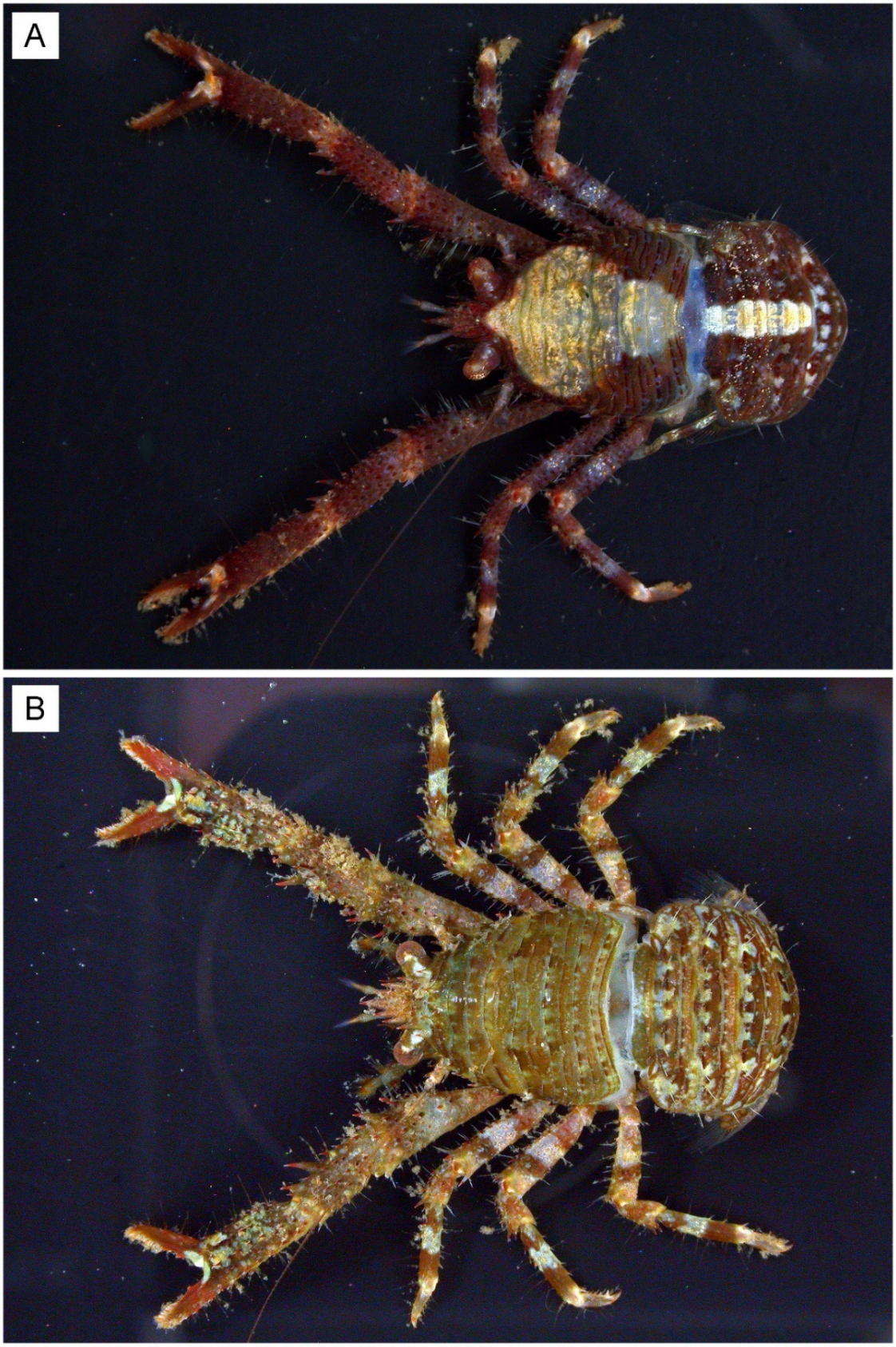


図 59. *Galathea orientalis* Stimpson, 1858 トウヨウコシオリエビ，島根県海士町保々見 (隠岐諸島島前中ノ島)，メス (pcl 未測定) (A); 島根県海士町保々見 (隠岐諸島島前中ノ島)，メス (pcl 未測定) (B).

***Galathea peitho* Macpherson and Robainas-Barcia, 2015 ニセウロココシオリエビ**
(図 60)

調査標本. 島根県. 海士町保々見 (隠岐諸島島前中ノ島), 養殖イワガキの付着生物の間隙, 2016 年 6 月 3 日, 1 オス (pcl 4.7 mm), SNMH.

分布. 日本 (島根県, 琉球列島 西表島, 沖縄島), マリアナ諸島 (グアム), パプアニューギニア, オーストラリア (西オーストラリア, クィーンズランド) (Macpherson and Robainas-Barcia, 2015; 大澤ほか, 2018).

生息場所. 潮間帯から水深 37 m (Macpherson and Robainas-Barcia, 2015). 調査標本は, 島根県海士町保々見湾 (隠岐諸島中ノ島)周辺において養殖され, 港に水揚げされたイワガキ *Crossostrea nippona* (Seki,1934)の付着生物の間隙から得られた (大澤ほか, 2018). イワガキ上の付着動物としては, 被覆する橙色の群体ホヤが数多く確認された. コシオリエビ類では, トウヨウコシオリエビ *Galathea orientalis* Stimpson, 1858 が同所的に複数個体見つかった.

備考. 西村・鈴木 (1977: pl. 31-2)および朝倉 (1995: pl. 98-10)が図示しているサンゴコシオリエビ (ウロココシオリエビの別名) *Galathea subsquamata* Stimpson, 1858 の個体は, Macpherson and Robainas−Barcia (2015: fig. 118I) の *Galathea peitho* Macpherson and Robainas-Barcia, 2015 の標本および本調査標本に色彩がよく似ており, それらはニセウロココシオリエビである可能性がある (大澤ほか, 2017). 朝倉 (1995)は,「(サンゴコシオリエビは)南紀沿岸ではごく普通」と記述している. そして, ニセウロココシオリエビは西太平洋から東インド洋にかけての熱帯・亜熱帯域の広範囲から記録されている (上記の“**分布**”を参照). これらのことから, ニセウロココシオリエビは, 紀伊半島, 日本海西部, そして琉球列島にかけての南日本沿岸に広く分布している可能性が高い.

図 60. *Galathea peitho* Macpherson and Robainas-Barcia, 2015 ニセウロココシオリエビ, 島根県海士町保々見 (隠岐諸島島前中ノ島), オス (pcl 4.7 mm).

***Lauriea simulata* Macpherson and Robainas-Barcia, 2013 ヒヅメコシオリエビ属の 1 種 (和名なし)**
(図 61A)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 漁獲残物, ザラカイメンに付着, 2013 年 9 月 28 日, 1 抱卵メス (pcl 5.0 mm), SNMH.

分布. 日本 (島根県), フィリピン, 南シナ海, ニューカレドニア, バヌアツ (Macpherson and Robainas-Barcia, 2013; Dong and Li, 2013; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 潮間帯から水深 120 m (Macpherson and Robainas-Barcia, 2013). 調査標本は, ザラカイメン *Callyspongia confoederata* (Ridley, 1884) (図 61B)に付着していた (大澤ほか, 2014).

備考. 調査標本は, 漁港岸に漁獲残物として放置されていたザラカイメンに付着していた乾燥個体 (現在はエタノール液浸)であり, 破損が進んでいたが, 第 2 触角や歩脚などの形態に基づき, *Lauriea simulata* Macpherson and Robainas-Barcia, 2013 に同定された (Macpherson and Robainas-Barcia, 2013 を参照; 大澤ほか, 2014).

Macpherson and Robainas-Barcia (2013)は, *Lauriea gardineri* (Laurie, 1926)の分類学的再検討を行い, この種の分布を西インド洋に限定するとともに, 5 新種を記載した. そのため, 日本国内から記録されていた「ヒヅメコシオリエビ *Lauriea gardineri*」(例えば, 亀崎ほか, 1998; 加藤・奥野, 2001; 峯水, 2002)は, Macpherson and Robainas-Barcia (2013)が記載したいずれかの新種にあたると考えられる.

調査標本は, 大きく破損した個体であるため, 当標本に基づいた和名新称の提唱を避けた.

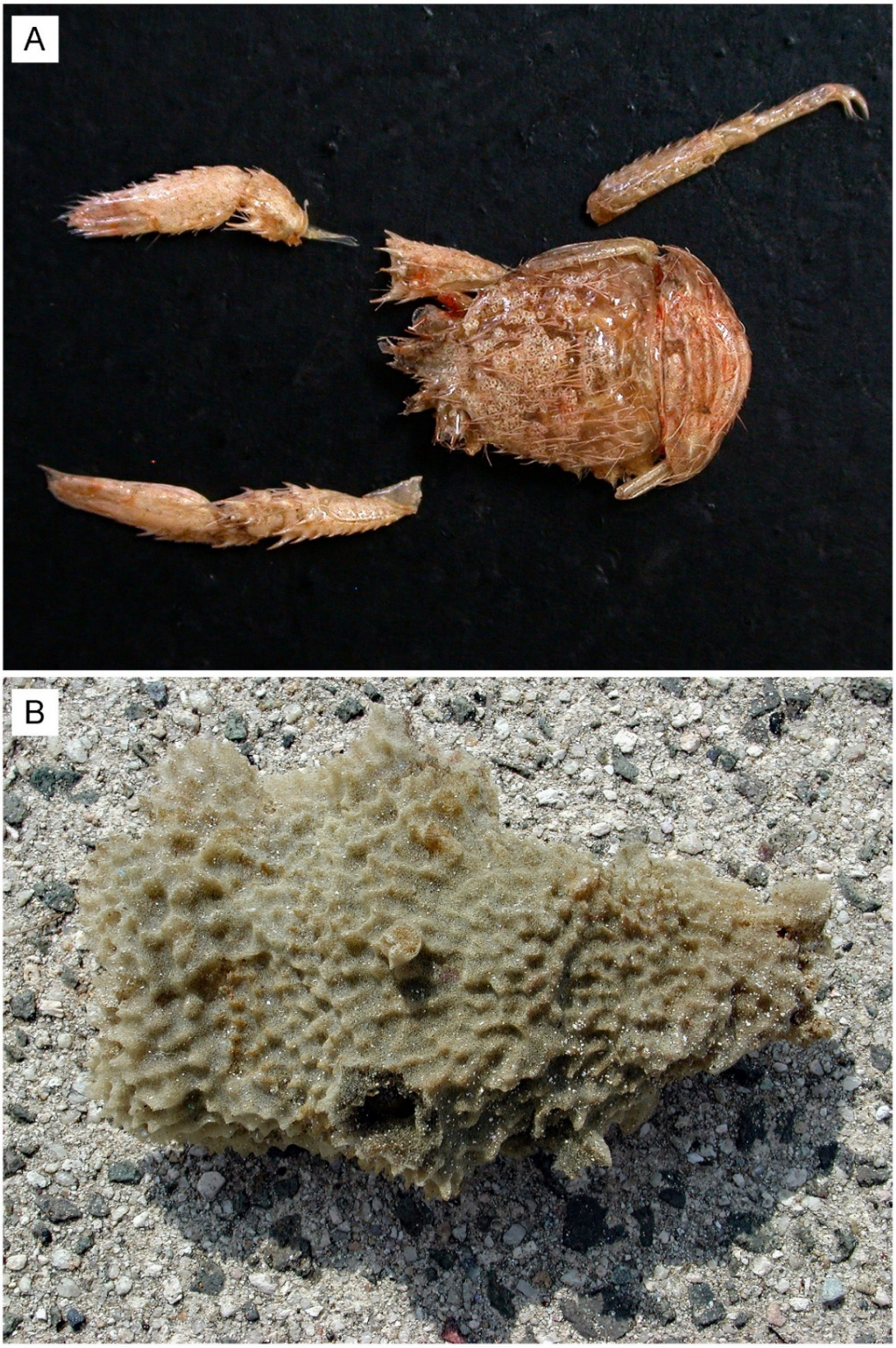


図 61. *Lauriea simulata* Macpherson and Robainas-Barcia, 2013 ヒヅメコシオリエビ属の 1 種 (和名なし), 島根県松江市島根町小具, 漁港, 抱卵メス (pcl 5.0 mm), 乾燥 (A); *Callyspongia confoederata* (Ridley, 1884), ザラカイメン, 島根県松江市島根町小具, 漁港, 乾燥 (B).

Munididae チュウコシオリエビ科

***Bathymunida brevirostris* (Yokoya, 1933) ハバヒロチュウコシオリエビ (新称)**
(図 62)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55´N, 134°00´E, 水深 80 m, けた網, 2019 年 9 月 10 日, 1 メス (pcl 5.4 mm), TRPM-801.

分布. 日本 (鳥取県, 山口県, 対馬東岸, 五島列島北方), 韓国 (Komai et al., 2002; Baba et al., 2008; Osawa and Ota, 2020; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 砂泥底; 水深 79–117 m (Komai et al., 2002; Kim and Kim, 2017; Osawa and Ota, 2020).

備考. Yokoya (1933, *Munida brevirostris* として報告)の原記載以降, 本種の形態的特徴を示した報文は, 対馬東岸から得られた同一標本に基づいた Baba (1970)と Baba and de Saint Laurent (1996)に限られる. *Bathymunida brevirostris* (Yokoya, 1933)のタイプ (模式)標本は失われているとみなされている (Baba, 1970). Osawa and Ota (2020: fig. 3I)では, 鳥取県産の標本に基づき, 本種の生鮮時の画像が示されている (図 62 に転載).

Bathymunida は, チュウコシオリエビ科において, 甲が比較的幅広い種で構成されていることから, 本属の標準和名を「ハバヒロチュウコシオリエビ属」とすることを提唱する. 加えて, 本種の標準和名を「ハバヒロチュウコシオリエビ」とする. 和名の基準となる標本には, 本報の調査標本 (TRPM-801)を指定する.

図 62. *Bathymunida brevirostris* (Yokoya, 1933) ハバヒロチュウコシオリエビ (新称), 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, メス (pcl 5.4 mm).

***Grimothea princeps* (Benedict, 1902) オオコシオリエビ**
(図 63)

調査標本. 島根県. 浜田市沖, 35°13.4′N, 132°05.5′E, 水深 141 m, 底曳網, 島根県水産技術センター (浜田市), 2012 年 12 月 17 日, 1 オス (pcl 50.4 mm), SNMH. 浜田市沖, 35°02.5′N, 132°06.0′E, 水深 107 m, 底曳網, 島根県水産技術センター (浜田市), 2013 年 2 月 18 日, 1 オス (pcl 46.7 mm), SNMH.

分布. 日本 (太平洋側: 宮城県石巻市金華山沖, 駿河湾; 日本海側: 山形県沖, 島根県沖; 鹿児島県南方), 東シナ海, 韓国, 台湾, ルソン島北方沖 (Takeda, 1997; 三宅, 1998; Baba et al., 2009; 大澤ほか, 2014; Kim and Kim, 2017; いずれも, *Cervimunida princeps* として報告).

生息場所. 緑泥底; 水深 76–452 m (Baba et al., 2009, *Cervimunida princeps* として報告).

備考. オオコシオリエビはその和名のとおり, オスの最大甲長が 60 mm ほどに達する大型種である (Baba et al., 2009). 本種は, *Cervimunida* に属するとされていたが (たとえば, 三宅, 1998; Baba et al., 2009), Machordom et al. (2022)によるチュウコシオリエビ科全体を網羅した系統学的研究に基づき, *Grimothea* に移され, *Cervimunida* は, *Grimothea* の新参異名 (junior synonym)と判断されている.

駿河湾や土佐湾では, 本種は深海底曳網で漁獲され, 食用として市場や販売店に並ぶことがある.

図 63. *Grimothea princeps* (Benedict, 1902) オオコシオリエビ，島根県浜田市沖，オス (pcl 50.4 mm).

***Paramunida tricarinata* (Alcock, 1894)** ミツトゲザラザラチュウコシオリエビ
(図 66)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 1 オス (pcl 6.6 mm), 1 抱卵メス (pcl 7.9 mm), TRPM-790. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 メス (pcl 6.2 mm), TRPM-791. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 120 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 メス (pcl 6.3 mm), TRPM-792.

分布. 日本 (鳥取県), 台湾, フィリピン, アンダマン海, オーストラリア北西部, モルジブ, アラビア海 (McCallum et al., 2016; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 砂泥底; 水深 100–384 m (McCallum et al., 2016; Osawa and Ota, 2020).

備考. Osawa and Ota (2020)は, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖で採集された本調査標本に基づき, *Paramunida tricarinata* (Alcock, 1894)を日本初記録として報告した. Komai et al. (2002)は, ザラザラチュウコシオリエビ *Paramunida scabra* (Henderson. 1888)を長崎県壱岐島の北東から記録しているが, 日本海から記録されている同属種は, 現時点でミツトゲザラザラチュウコシオリエビに限られる.

図 66. *Paramunida tricarinata* (Alcock, 1894) ミツトゲザラザラチュウコシオリエビ，鳥取県鳥取市長尾鼻沖，抱卵メス (pcl 7.9 mm).

***Trapezionida agave* (Macpherson and Baba, 1993) ハヤトチュウコシオリエビ (新称)**
(図 64)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 2 オス (pcl 5.9, 6.0 mm), TRPM-786. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 70 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 抱卵メス (pcl 7.5 mm), TRPM-787. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 抱卵メス (pcl 7.4 mm), TRPM-788. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 70 m, けた網, 2019 年 4 月 17 日, 1 メス (pcl 5.3 mm), TRPM-789.

分布. 日本 (相模湾, 鳥取県, 鹿児島県), フィリピン, インドネシア (Macpherson and Baba, 1993; Baba, 2005; Osawa and Ota, 2020; いずれも, *Munida agave* として報告).

生息場所. 硬い基底, 岩, 砂泥底; 水深 89–549 m (Baba, 2005; Baba et al., 2008; Osawa and Ota, 2020; いずれも, *Munida agave* として報告).

備考. Macpherson and Baba (1993)は, チュウコシオリエビ *Munida japonica* Stimpson,1858 および当種と形態が類似する既知種 (サガミチュウコシオリエビ *M. heteracantha* Ortmann, 1892; *M. semoni* Ortmann, 1894; スジチュウコシオリエビ *M. honshuensis* Benedict, 1902)の分類の混乱解決を図るとともに, 13 新種を記載した. 本種は, その 13 新種のうちの 1 つである. 本種は, Machordom et al. (2022)によるチュウコシオリエビ科全体を網羅した系統学的研究に基づき, *Munida* から新属 *Trapezionida* に移された.

本種の日本産のパラタイプ (副模式標本)の産地は, 鹿児島県枕崎沖である. そして, 本種の種小名は, ギリシャ神話に登場する海に棲む女神の一人 (Agauē または Agave)にちなんでいる (Macpherson and Baba, 1993). 本種の標準和名については, 日本産のパラタイプの産地と日本神話を関連付け,「ハヤト (隼人)チュウコシオリエビ」とすることを提唱する. 和名の基準となる標本には, 本報の調査標本 (TRPM-787)を指定する.

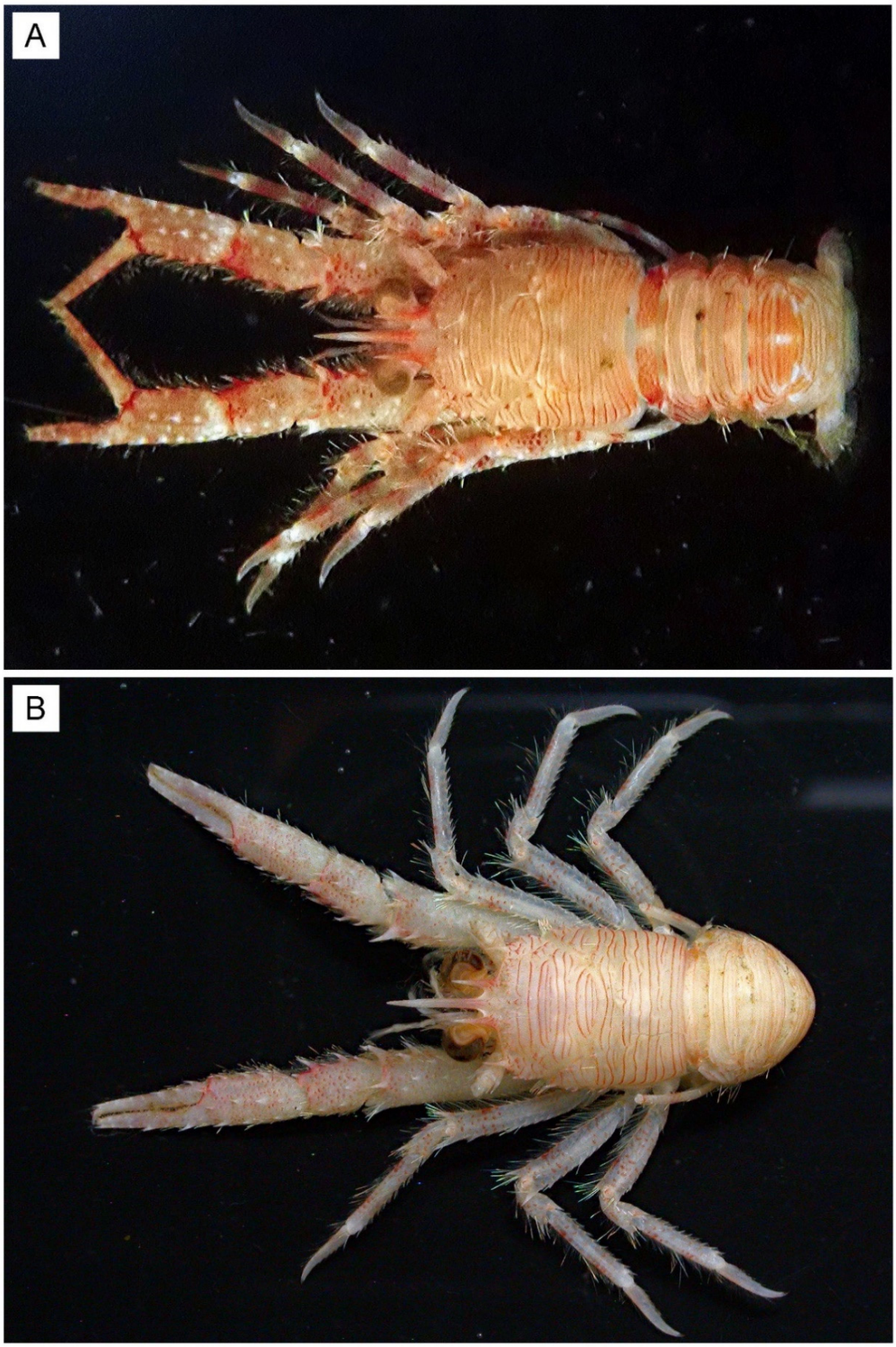


図 64. *Trapezionida agave* (Macpherson and Baba, 1993) ハヤトチュウコシオリエビ (新称), 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, 抱卵メス (pcl 7.5 mm) (A); 同, エタノール液浸 (B).

***Trapezionida pherusa* (Macpherson and Baba, 1993) シロツノチュウコシオリエビ (新称)**
(図 65)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 オス (pcl 6.6 mm), 1 抱卵メス (pcl 7.7 mm), TRPM-802. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 80 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録).

分布. 日本 (鳥取県, 山口県, 対馬沖, 九州西方), 韓国, 台湾, フィリピン, インドネシア (Macpherson and Baba, 1993; Komai et al., 2002; Kim and Kim, 2017; Osawa and Ota, 2020; いずれも, *Munida pherusa* として報告).

生息場所. 砂泥底; 水深 73–167 m (Baba et al., 2008; Osawa and Ota, 2020; いずれも, *Munida pherusa* として報告).

備考. ハヤトチュウコシオリエビ (新称) *Munida agave* Macpherson and Baba, 1993 と同様, 本種は Macpherson and Baba (1993)によって記載された 13 新種のうちの 1 つである. 本種は, Machordom et al. (2022)によるチュウコシオリエビ科全体を網羅した系統学的研究に基づき, *Munida* から新属 *Trapezionida* に移された.

額角および眼上棘の基部が白色であることにちなみ, 本種の標準和名を「シロツノチュウコシオリエビ」とすることを提唱する. 和名の基準となる標本には, 本報の調査標本 (TRPM-802, オス, pcl 6.6 mm)を指定する.

鉗脚の長さは, 雌雄間で性差がある (図 65A, B).

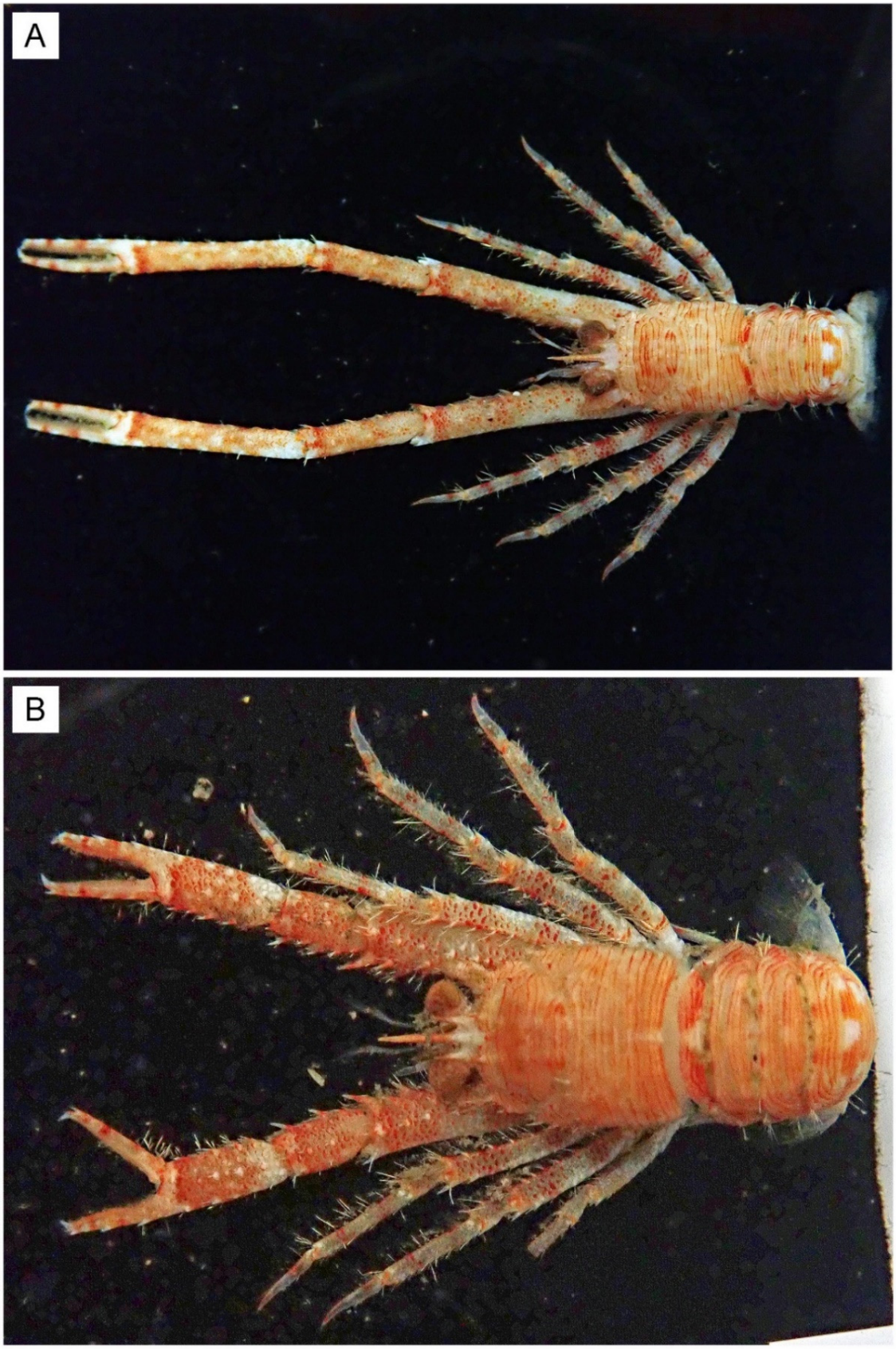


図 65. *Trapezionida pherusa* (Macpherson and Baba, 1993) シロツノチュウコシオリエビ (新称), 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, オス (pcl 6.6 mm) (A); 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, 抱卵メス (pcl 7.7 mm) (B).

Porcellanidae カニダマシ科

***Enosteoides ornatus* (Stimpson, 1858)** トゲカニダマシ
(図 67)

調査標本. 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 水深 3 m, 転石下, 2015 年 8 月 10 日, 1 抱卵メス (cl 5.2 mm), SNMH.

分布. パキスタンから日本にかけてのインド－西太平洋の広域 (北限は日本および韓国, 南限はオーストラリア; Haig, 1981; Osawa and Chan, 2010). 国内の分布は, 太平洋側では房総半島から瀬戸内海, 日本海側では青森県 (深浦町)および島根県, そして九州では福岡県 (沖ノ島), 熊本県 (天草市) (Miyake, 1943, *Porcellana ornata* として報告; 内田ほか, 1971, *P. ornata* として報告; 大澤, 2000; 大澤ほか, 2016).

生息場所. 転石下, 死サンゴ, カイメン類; 潮間帯から水深 54 m (Haig, 1981; Osawa and Chan, 2010). 調査標本は, 水深 3 m の砂泥底の転石下から得られた (大澤ほか, 2016).

備考. 日本沿岸から記録されているトゲカニダマシ属 *Enosteoides* Johnson,1970 は, トゲカニダマシ, サンゴカニダマシ *E. melissa* (Miyake, 1942), ツノカニダマシ *E. lobatus* Osawa, 2009, パラオカニダマシ *E. palauensis* (Nakasone and Miyake, 1968)の 4 種を含む (Osawa, 2009). 日本国内の分布については, トゲカニダマシが本州から九州にかけて記録されている一方, 他の 3 種は琉球列島のみから知られている (Osawa, 2009; 大澤, 2012).

トゲカニダマシは動きが鈍く, 転石下にじっと張り付いており, 体全体が淡褐色と目立たない色彩をしている.

図 67. *Enosteoides ornatus* (Stimpson, 1858) トゲカニダマシ，島根県松江市島根町加賀桂島，抱卵メス (cl 5.2 mm).

***Pachycheles hertwigi* Balss, 1913** バルスカニダマシ
(図 68)

調査標本. 島根県. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 湾内, 魚養殖いかだの付着物中, 2013 年 5 月 30 日, 4 抱卵メス (cl 6.8–8.4 mm), SNMH. **兵庫県.** 新温泉町釜屋沖, 2006 年 9 月 4 日, 5 オス (cl 4.0–6.4 mm), 1 メス (cl 4.8 mm), 2 抱卵メス (cl 5.9–6.4 mm), TRPM-CB-0000127.

分布. 韓国, 日本 (太平洋側: 相模湾, 和歌山県田辺湾; 日本海・東シナ海側: 新潟県, 兵庫県, 島根県, 福岡県) (Miyake, 1978, *P. balssi* Miyake, 1943 として報告; Ko, 1999; 本間・鶴田, 2004; 大澤ほか, 2014; 本報).

生息場所. 岩礁, カイメン類と共生; 水深 4–55 m (Nakasone and Miyake, 1968, *P. balssi* として報告; Miyake, 1978, *P. balssi* として報告; 峯水, 2002).

備考. 本種の学名の妥当性については, 大澤ほか (2014)が論じている. Balss (1913)は, *Pachycheles hertwigi* を新種名として提唱していない可能性が有るため, 三宅 (1982: 203)によって同物異名として扱われた *Pachycheles balssi* Miyake, 1943 が有効名となるかもしれない. 本報では暫定的に三宅 (1982)に従い, バルスカニダマシの学名を *P. hertwigi* とする.

島根県出雲市十六島漁港の湾内では, 魚養殖いかだの付着生物中から, コブカニダマシ *Pachycheles stevensii* Stimpson, 1858 とともに, 本種が採集された.

図 68. *Pachycheles hertwigi* Balss, 1913 バルスカニダマシ, 島根県出雲市十六島町, 抱卵メス (cl 8.4 mm).

***Pachycheles stevensii* Stimpson, 1858 コブカニダマシ**
(図 69)

調査標本. 島根県. 松江市美保関町菅浦, 水深 1 m, 転石下, 2011 年 8 月 13 日, 2 オス (cl 6.9, 7.4 mm), SNMH. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 湾内, 魚養殖いかだの付着物中, 2013 年 5 月 30 日, 9 オス (cl 5.2–9.5 mm), 1 メス (cl 5.3 mm), 9 抱卵メス (cl 6.4–10.0 mm), SNMH. **鳥取県.** 東伯町 (琴浦町)逢束沖合 40 m, 水深 4–5 m, 1990 年 8 月 1 日, 2 乾燥性未確認個体 (cl 未測定), TRPM (未登録). **兵庫県.** 新温泉町釜屋沖, 2006 年 9 月 4 日, 39 個体 (1 オス, cl 8.7 mm; 1 抱卵メス, cl 7.9 mm を含む), TRPM-CB-0000128.

分布. 日本 (北海道から九州まで), 韓国, ウラジオストック (朝倉, 1995; 三宅, 1998; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 岩礁, 転石下; 潮間帯から水深 7 m (朝倉, 1995; 三宅, 1998; 峯水, 2002).

備考. コブカニダマシは, 動きの素早いイソカニダマシ属 *Petrolisthes* Stimpson, 1858 の種とは異なり, 動きが鈍く, 転石下やその他の生息基底上で静止していることが多い. 島根半島では, 岩礁の潮下帯浅部の転石域において確認できるが, 個体数は少ない. 同所では,「カニ型」の異尾類としてヒラトゲガニ *Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849)の個体数が多く, 目立つ.

図 69. *Pachycheles stevensii* Stimpson, 1858 コブカニダマシ, 島根県出雲市十六島町, 抱卵メス (cl 10.0 mm).

***Petrolisthes coccineus* (Owen, 1839) オオアカハラ**
(図 70)

調査標本. 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 潮間帯, 転石下, 2013 年 11 月 22 日, 2 オス (cl 6.6, 6.8 mm), SNMH.

分布. インドー西太平洋の広域から散在して記録されている. 記録の北限は日本 (太平洋側: 房総半島から九州, 伊豆諸島, 小笠原諸島; 日本海・東シナ海側: 島根県, 福岡県沖ノ島・津屋崎, 熊本県天草市; 琉球列島), 南限はインドネシア, 西限はアフリカ東岸, 東限はツアモツ諸島・ハワイ諸島 (Miyake et al., 1962; Miyake, 1978; Osawa and Chan, 2010; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 岩礁, 転石下; 潮間帯から水深 7.2 m (峯水, 2002; Osawa and Chan, 2010).

備考. 本種は, 日本沿岸沿岸で確認されているカニダマシ科のうち最大となり, 成長したオスでは甲長が 20 mm, 左右の鉗脚の腕節の両端の長さが 80 mm に達する (大澤, 2000). 調査標本は, まだ十分に成長していない小型個体である (大澤ほか, 2014). 調査標本の採集地では, 春期から夏期において出現が確認されていないため, 本種は秋期に当地に定着した後, 越冬できていない可能性がある.

図 70. *Petrolisthes coccineus* (Owen, 1839) オオアカハラ, 島根県松江市島根町加賀桂島, オス (cl 6.8 mm).

***Petrolisthes japonicus* (De Haan, 1849)** イソカニダマシ
(図 7F, 71)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 2010 年 5 月 19 日, 1 オス (cl 7.0 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, 転石下, 2013 年 4 月 5 日, 2 オス (cl 8.9, 9.5 mm), SNMH. 松江市島根町加賀桂島, 潮間帯, 転石下, 2013 年 11 月 9 日, 2 オス (cl 8.4, 8.7 mm), SNMH. 松江市美保関町片江, 潮間帯, 転石下, 2011 年 4 月 29 日, 1 メス (cl 9.1 mm), SNMH. **鳥取県.** 岩美町羽尾, 2010 年 2 月 9 日, 1 オス (cl 7.9 mm), TRPM (未登録).

分布. 日本 (房総半島・青森県西岸から九州まで, 琉球列島, 小笠原諸島), 台湾, 韓国, 中国 (浙江省, 香港, 広西) (三宅, 1998; Osawa and Chan, 2010).

生息場所. 岩礁, 転石下; 潮間帯から水深 3 m (三宅, 1998; 峯水, 2002; Osawa and Chan, 2010).

備考. イソカニダマシは, 千葉県から鹿児島県までの太平洋岸での岩礁の潮間帯転石域において, 最も普通に確認できるカニダマシ類である (Miyake, 1978; 朝倉, 1995; 大澤, 2000). 著者の採集経験に基づくと, 島根半島の岩礁の潮間帯転石域において確認できるが, 太平洋岸に比べると明らかに出現個体数が少ないと判断される.

本種は, 転石の下面に張り付いており, 捕まえようとすると, 石の表面を滑るように素早く移動する. 加えて, 鉗脚をつかむと自切しやすく, その鉗脚を残して逃げてゆく.

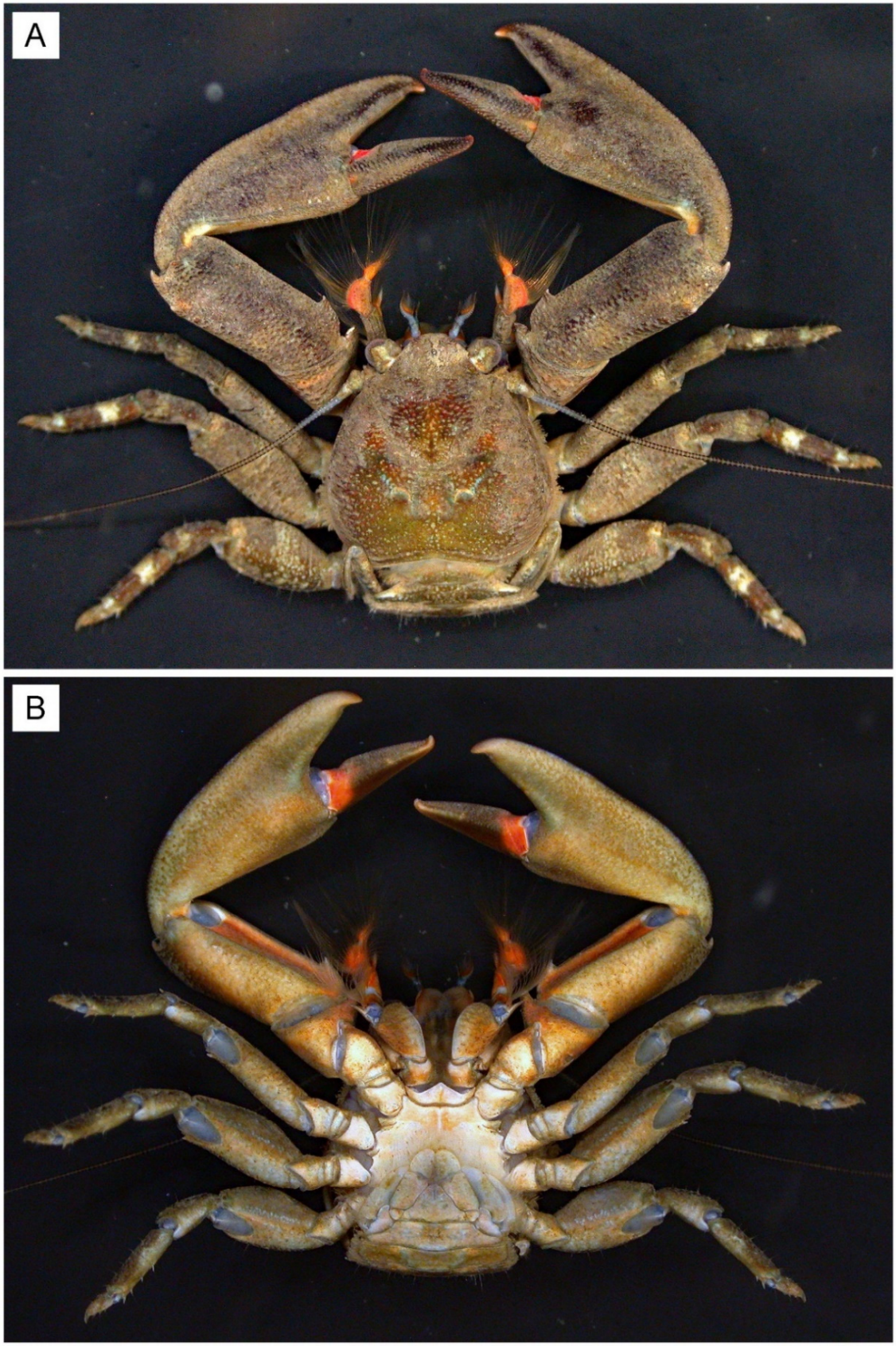


図 71. *Petrolisthes japonicus* (De Haan, 1849) イソカニダマシ，島根県松江市島根町小具，オス (cl 9.5 mm)，背面 (A)；同，腹面 (B).

***Pisidia serratifrons* (Stimpson, 1858)** フトウデネジレカニダマシ
(図 72)

調査標本. 島根県. 松江市境水道, 底曳網, 2010 年 3 月 24 日, 16 オス (cl 3.7–9.2 mm), 29 メス (cl 3.3–8.4 mm), SNMH. **鳥取県.** 東伯町 (琴浦町)逢束沖, 1991 年 7 月 8 日, 1 乾燥オス (cl 5.2 mm), 1 乾燥メス (cl 4.3 mm), TRPM (未登録). 東伯町 (琴浦町)逢束加勢蛇川河口, 1991 年 9 月 1 日, 1 乾燥オス (cl 4.7 mm), TRPM (未登録).

分布. 日本 (大阪湾, 瀬戸内海, 新潟県, 島根県, 鳥取県, 福岡県, 長崎県, 熊本県), 韓国, 黄海, 朝鮮海峡 (対馬海峡), 台湾海峡, 東シナ海, 南シナ海, 香港 (Miyake, 1943; Honma and Kitami, 1978; 有山ほか, 1997; Osawa and Chan, 2010; 大澤ほか, 2014; 本報).

生息場所. 泥をかぶった石の下, ホヤ類やカキ類の隙間, 死サンゴの基部, 船底の汚損生物に付着; 潮間帯から水深 68 m (三宅, 1998; Haig, 1981; 1992). 大谷 (2013)は,「(本種は)潮間帯下部から潮下帯の岩の隙間や転石下, 貝の死骸の中などに生息するが, 船底や海中構造物の汚損生物として発見されることが多い」と述べている. 加えて渡部 (2014)は,「内湾で深い場所を好むが, 港の浮き桟橋に付着するホヤや二枚貝のすき間にいることもある」としている.

備考. 島根県境水道において底曳網を用いて採集された標本数が 45 個体と多いことから, 局所的に集中して生息していたか, あるいはフトウデネジレカニダマシは, 内湾的環境の潮下帯に棲む, 代表的なカニダマシ類の可能性がある (大澤ほか, 2014).

左右の鉗脚の大きさは異なり, 掌部の背面が外側に傾く. 小鉗脚の指節の状態には性差があり, オスの方がメスより強く垂直方向に開くとともにねじれる.

図 72. *Pisidia serratifrons* (Stimpson, 1858) フトウデネジレカニダマシ，島根県松江市境水道，メス (cl 8.4 mm)，エタノール液浸.

***Porcellanella triloba* White, 1852 ウミエラカニダマシ**
(図 73)

調査標本. 島根県. 松江市境水道, ウミエラに付着, 底曳網, 2007 年 4 月 11 日, 1 メス (cl 12.3 mm), SNMH. 松江市境水道, 底曳網, 2010 年 3 月 24 日, 1 オス (cl 12.0 mm), SNMH. 松江市美保関町森山 (境水道), 森山郵便局近く, ウミエラに付着, 2011 年 9 月 24 日, 1 オス (cl 10.4 mm), SNMH.

分布. アフリカ東岸, ペルシャ湾, タイ湾, シンガポール, ベトナム, 香港, 台湾, 日本 (太平洋側: 千葉県から高知県; 日本海・東シナ海側: 島根県, 山口県, 熊本県), オーストラリア (Haig, 1992; 三宅, 1998, *P. picta* Stimpson, 1858 として報告; 大澤, 2000; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 砂泥底, ウミエラ類 (*Pennatula*, *Pteroeides*; 刺胞動物: 花虫綱: 八放サンゴ亜綱)に共生; 潮間帯から水深 72 m (Haig, 1981; Osawa and Chan, 2010).

備考. ウミエラカニダマシの学名は, *Porcellanella picta* Stimpson, 1858 とされていた (たとえば, Miyake, 1978; 三宅, 1998)が, この種は *Porcellanella triloba* White, 1852 の新参異名 (junior synonym)として現在認識されている (Sankarankutty, 1962; Haig, 1981).

ウミエラカニダマシ属 *Porcellanella* White, 1852 には, ウミエラカニダマシとウミシャボテンカニダマシ *P. haigae* Sankarankutty, 1963 の 2 種が含まれている. ウミシャボテンカニダマシは, ウミサボテン類 (*Cavernularia*)に共生し, 鉗脚の長節や歩脚の指節などの形態によって, ウミエラカニダマシから区別できる (Sankarankutty, 1963; Nakasone and Miyake, 1972; 峯水, 2002).

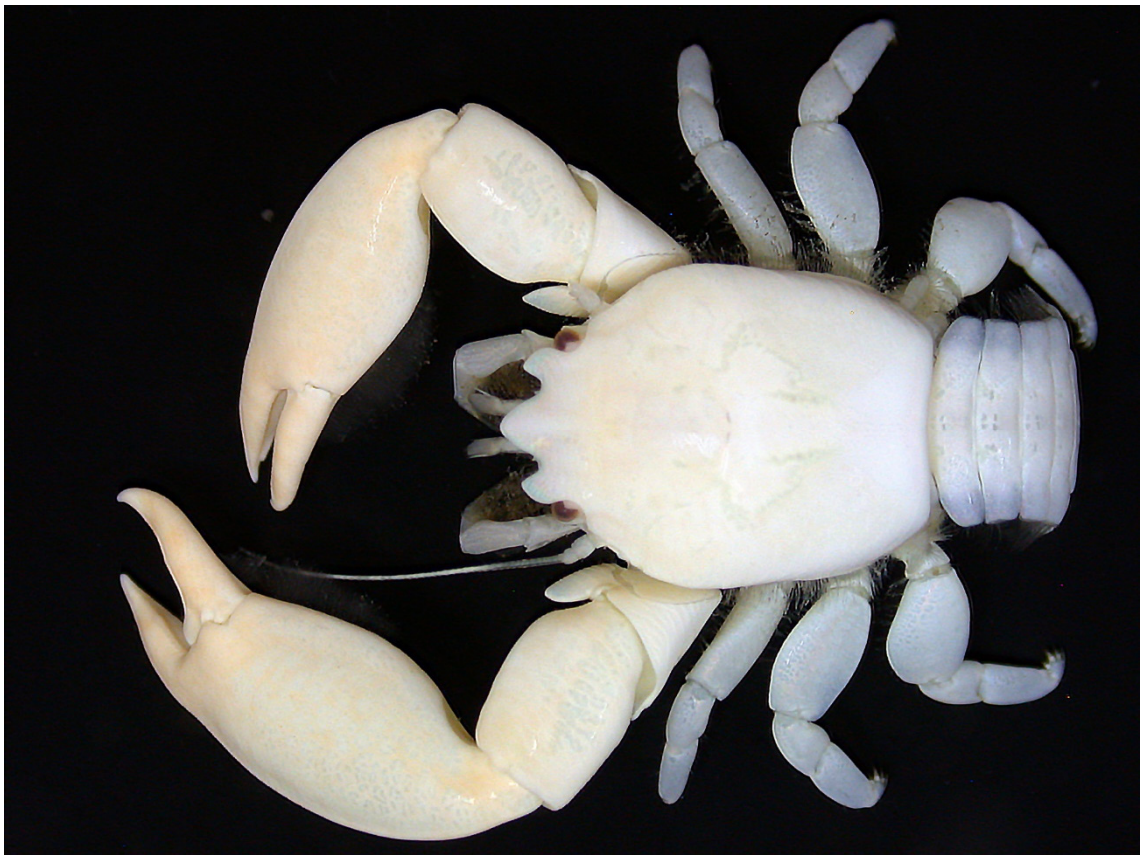


図 73. *Porcellanella triloba* White, 1852 ウミエラカニダマシ, 島根県松江市境水道, オス (cl 12.0 mm), エタノール液浸.

謝辞

標本の調査にあたり，島根県立宍道湖自然館・ホシザキグリーン財団，鳥取県立博物館，鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館，国立科学博物館にお世話になりました．これらの機関では，以下の方々にご協力頂きました．

桑原友春様（島根県立宍道湖自然館・ホシザキグリーン財団），一澤　圭様（鳥取県立博物館），太田悠造様（鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館），小松浩典様（国立科学博物館）．

なお，これらの貴重な標本は，島根県・鳥取県における多くの収集・寄贈者によるものを含んでいます．

本報の標本画像は，「ホシザキグリーン財団研究報告」および「Species Diversity」に掲載された報文の付図を改変したものを含んでいます．ホシザキグリーン財団および日本動物分類学会より，これらの画像の使用許可を頂きました．また，山崎英治様（ブルーライン田後）には，オルトマンワラエビの生態画像を提供して頂きました．

本報の作成にあたっては，エスチュアリー研究センターと汽水域研究会の編集委員会の方々から貴重なご意見を頂きました．また，表紙と裏表紙のデザインでは，三井彩子様 (島根大学エスチュアリー研究センター)にお世話になりました．

以上の機関，皆様に記して感謝申し上げます．

引用文献

Ahyong, S.T., Baba, K., Macpherson, E., and Poore, G.C.B., 2010a. A new classification of the Galatheoidea (Crustacea: Decapoda: Anomura). Zootaxa, 2676: 57–68.

Ahyong, S.T., Macpherson, E., and Chan, T.-Y., 2010b. Part II. Lithodoidea (King crabs). In: Chan, T.-Y. (ed.), Crustacean Fauna of Taiwan: Crab-like Anomurans (Hippoidea, Lithodoidea and Porcellanidae), pp. 42–66. National Taiwan Ocean University, Keelung, viii+197 pp.

有馬啓人, 2014. ネイチャーウォッチングガイドブック ヤドカリ. 誠文堂新光社, 東京, 223 pp.

有山啓之・矢持進・佐野雅基, 1997. 大阪湾奥部における大型底生動物の動態について. III. 出現種のリストおよび他海域・過去との比較. 大阪府立水産試験場研究報告, 10: 19–27.

朝倉彰, 1995. 異尾下目. 西村三郎 (編), 原色検索日本海岸動物図鑑 [II], pp. 347–378, pls. 93–100. 保育社, 大阪, xii, pls. 73–144, 663 pp.

朝倉彰, 2003. ヤドカリ類の分類学, 最近の話題ーホンヤドカリ科 その3. 海洋と生物, 145: 140–144.

Asakura, A., 2006. Shallow water hermit crabs of the families Pylochelidae, Diogenidae and Paguridae (Crustacea: Decapoda: Anomura) from the Sea of Japan, with the description of a new species of *Diogenes*. Bulletin of the Toyama Science Museum, 29: 23–103.

朝倉彰, 2012. テナガツノヤドカリ. 日本ベントス学会 (編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック, p. 186. 東海大学出版会, 秦野, xvii+285 pp.

Baba, K., 1970. Redescription of *Bathymunida brevirostris* (YOKOYA, 1933) (Crustacea, Decapoda, Galatheidae). Memoirs of the faculty of Education, Kumamoto University, Section 1 (Natural Science), 18: 59–62.

Baba, K., 2005. Deep-sea chirostylid and galatheid crustaceans (Decapoda: Anomura) from the Indo-West Pacific, with a list of species. Galathea Reports, 20: 1–317.

Baba, K. and de Saint Laurent, M., 1996 Crustacea Decapoda: Revision of the genus *Bathymunida* Balss, 1914, and description of six new related genera (Galatheidae). In: Crosnier, A. (ed.), Résultats des Campagnes MUSORSTOM, Volume 15. Mémoires du Muséum National d'Histoire Naturelle, Paris, 168: 433–502.

Baba, K., Macpherson, E., Poore, G.C.B., Ahyong, S. T., Bermudez, A., Cabezas, P., Lin, C.-W., Nizinski, M., Rodrigues, C., and Schnabel, K.E. 2008. Catalogue of squat lobsters of the world (Crustacea: Decapoda: Anomura—families Chirostylidae, Galatheidae and Kiwaidae). Zootaxa, 1905: 1–220.

Baba, K., Macpherson, M., Lin, C.-W., and Chan, T.-Y., 2009. Crustacean Fauna of Taiwan: Squat Lobsters (Chirostylidae and Galatheidae). National Taiwan Ocean University, Keelung, ix+311 pp.

Ball, E.E. and Haig, J., 1972. Hermit crabs from eastern New Guinea. Pacific Science, 26: 87–107.

Balss, H., 1913. Ostasiatische Decapoden I. Die Galatheiden und Paguriden. In: Doflein, F. (ed.), Beiträge zur Naturgeschichte Ostasiens. Abhandlungen der Mathematisch-Physikalischen Klasse der Königlich Bayerischen Akademie der Wissenschaften, 2, Supplement, 9: 1–85, pls. 1, 2.

Boyko, C.B., 2002. A worldwide revision of the Recent and fossil sand crabs of the Albuneidae Stimpson and Blepharipodidae, new family (Crustacea: Decapoda:

Anomura: Hippoidea). Bullutin of the American Museum of Natural History, 272: 1–396.
Boyko, C.B., 2010. New records and taxonomic data for 14 species of sand crabs (Crustacea: Anomura: Albuneidae) from localities worldwide. Zootaxa, 2555:49–61.
Boyko, C.B., 2020. New records of sand crabs (Crustacea: Decapoda: Albuneidae and Blepharipodidae) from the western Pacific with description of two new species of *Paralbunea* Serène, 1977. Zoological Studies, 59: e15 (1–16).
Boyko, C.B. and McLaughlin, P.A., 2010. Annotated checklist of anomuran decapod crustaceans of the world (exclusive of the Kiwaoidea and families Chirostylidae and Galatheidae of the Galatheoidea) Part IV–Hippoidea. In: Low, M.E.Y. and Tan, S.H. (eds.), Checklist of Anomuran Decapod Crustaceans of the World (exclusive of the Kiwaoidea and families Chirostylidae and Galatheidae of the Galatheoidea) and Marine Lobsters of the World. Raffles Bulletin of Zoology, Supplement, 23: 139–151.
Bracken-Grissom, H.D, Cannon, M.E., Cabezas, P., Feldmann, R.M., Schweitzer, C.E., Ahyong, S.T., Felder, D.L., Lemaitre, R., and Crandall, K.A., 2013. A comprehensive and integrative reconstruction of evolutionary history for Anomura (Crustacea: Decapoda). BMC Evolutionary Biology, 13: 128 (1–28).
de Saint Laurent, M., 1970. Révision des genres *Catapaguroides* et *Cestopagurus* et description de quatre genres nouveaux. V. *Trichopagurus* De Saint Laurent (Crustacés Décapodes Paguridae). VI. Conclusion. Bulletin du Muséum National d'Histoire Naturelle, Paris, Series 2, 42: 210–222.
de Saint Laurent, M. and McLaughlin, P.A., 2000. Superfamily Paguroidea, Family Paguridae. In: Forest, J., de Saint Laurent, M., McLaughlin, P.A., and Lemaitre, R. (eds.), The marine fauna of New Zealand: Paguridea (Decapoda: Anomura) exclusive of the Lithodidae. NIWA Biodiversity Memoir, 114: 104–209.
土井航・鈴木伸洋, 2022. 駿河湾におけるハマスナホリガニ *Hippa truncatifrons*の成長と繁殖. 水生動物, 2022: AA2022-11.
土井啓行・園山貴之・荻本啓介・石橋敏章・本尾洋, 2014. 山口県萩沖でバイ篭により得られたミツカドホンヤドカリ. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, 13: 73–76.
Dong, C. and Li, X., 2010. Reports of *Galathea* Fabricius, 1793 (Crustacea: Decapoda: Anomura: Galatheidae) from Chinese waters, with descriptions of two new species. Zootaxa 2687: 1–28.
Dong, C. and Li, X., 2013. Galatheid squat lobster species from Chinese waters. Chinese Journal of Oceanology and Limnology, 31: 1315–1321.
Forest, J., 1987. Les Pylochelidae ou "Pagures symetriques" (Crustacea Coenobitoidea). In: Résultats des Campagnes MUSORSTOM. Mémoires du Museum national d'Histoire naturelle, série A, Zoologie, 137: 1–254.
Fraaije, R.H.B., 2014. Diverse Late Jurassic anomuran assemblages from the Swabian Alb and evolutionary history of paguroids based on carapace morphology. Neues Jahrbuch für Geologie und Paläontologie Abhandlungen, 273: 121–145.
Fraaije, R.H.B., Van Bakel, B.W.M., and Jagt. J.W.M., 2017. A new paguroid from the type Maastrichtian (upper Cretaceous, the Netherlands) and erection of a new family. Bulletin de la Societe geologique de France, 188: 17 (1–4).

Fraaije R.H.B., Van Bakel, B.W.M., Jagt, J.W.M., Charbonnier, S., Schweigert, G., Garcia, G. and Valentin, X., 2022. The evolution of hermit crabs (Crustacea, Decapoda, Anomura, Paguroidea) on the basis of carapace morphology: a state-of-the-art-report. Geodiversitas, 44: 1–16.

García-Gómez, J., 1994. The systematics of the genus *Anapagurus* Henderson, 1886, and a new genus for *Anapagurus drachi* Forest (Crustacea, Decapoda, Paguridae). Zoologische Verhandelingen, 295: 1–131.

Goshima, S., Wada, S., and Ohmori, H., 1996. Reproductive biology of the hermit crab *Pagurus nigrofascia* (Anomura: Paguridae). Crustacean Research, 25: 86–92.

Haig, J., 1981. Porcellanid crabs from the Indo-West Pacific, Part II. Steenstrupia, 7: 269–291.

Haig, J., 1992. Hong Kong's porcellanid crabs. In: Morton, B. (ed.), The Marine Flora and Fauna of Hong Kong and Southern China III, pp. 303–327. Proceedings of the Fourth International Marine Biological Workshop: The Marine Flora and Fauna of Hong Kong and Southern China, Hong Kong, 11–29 April 1989. Hong Kong University Press, Hong Kong, 922 pp.

Honma, Y. and Kitami, T., 1978. Fauna and flora in the waters adjacent to the Sado Marine Biological Station, Niigata University. Annual Report of the Sado Marine Biological Station, Niigata University, 8: 7–81.

本間義治・鶴田教明, 2004. イワガキへ穿孔していたイシマテガイの殻内で発見されたバルスカニダマシ. のと海洋ふれあいセンター研究報告, 10: 39–42.

Harada, E., 1968. Ecology and biological production of Lake Naka-umi and adjacent regions. 5. Seasonal changes in distribution and abundance of some decapod crustaceans. Special Publicartions from the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, 2: 75–103.

Imafuku, M. and Ikeda, H., 1995. On the two types of the hermit crab *Pagurus lanuginosus* (Crustacea: Anomura: Paguridae). Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 36: 339–349.

石飛裕・平塚純一・桑原弘道・山室真澄, 2000. 中海・宍道湖における魚類および甲殻類相の変動. 陸水学会誌, 61: 129–146.

Jung, J., Jung, J., and Kim, W., 2018. Subdividing the common intertidal hermit crab *Pagurus minutus* Hess, 1865 (Decapoda: Anomura: Paguridae) based on molecular, morphological and coloration analyses. Zoological Studies, 57: 61 (1–20).

亀崎直樹・野村恵一・浜野龍夫・御前洋, 1998. 甲殻類 (エビ・ヤドカリ). 海中公園センター (監), 新星図鑑シリーズ 沖縄海中生物図鑑, 第 8 巻. 新星図書出版, 浦添, 232 pp.

上田常一, 1956. 朝鮮産甲殻十脚類の研究 第ニ報 ヤドカリ類 (その三). 島根大学論集, 自然科学, 6: 58–75.

上田常一, 1958. 朝鮮産甲殻十脚類の研究 第ニ報 ヤドカリ類 (その五). 島根大学論集, 自然科学, 8: 59–74.

柏尾翔・花崎勝司・児嶋格・山田浩二・大畠麻里・大古場正・松岡悠・大谷道夫, 2016. 岸和田市阪南 2 人工干潟における魚類および貝類, 甲殻類相について (2009 年度–2014 年度の調査記録). きしわだ自然資料館研究報告, 4, 1–13.

加藤琢矛・池田等, 1992. 木村コレクション隠岐産動物標本目録 (1) 十脚甲殻類. 隠岐の文化財, 9: 1–29.

加藤昌一・奥野淳兒, 2001. エビ・カニガイドブック—伊豆諸島・八丈島の海から—. TBS-ブリタニカ, 東京, 157 pp.

加藤隆・鈴木博, 1992. 相模湾のスナホリガニ類の生態とハマスナホリガニ*Hippa truncatifrons* (Miers) (スナホリガニ科・十脚目・甲殻綱) の後期発生について. 横浜国立大学教育学部附属理科教育実習施設研究報告, 8: 77–97.

河野光久・土井啓行・堀成夫・園山貴之・荻本啓介・園森拓也, 2015. 2010~2013年の山口県日本海域における海洋生物に関する特記的現象. 山口県水産研究センター研究報告, 12: 1–21.

菊池勘左衛門, 1932. 富山湾産十脚甲殻類. 富山湾生物調査目録. 富山教育, 富山, 23 pp.

Kim, J.N. and Kim, M.H., 2014. Invertebrate Fauna of Korea, Volume 21, Number 39. Hermit Crabs. National Institute of Biological Resources, Incheon, 95 pp.

Kim, J.N. and Kim, M.H., 2017. Invertebrate Fauna of Korea, Volume 21, Number 43. Hermit Crabs II. National Institute of Biological Resources, Incheon, 133 pp.

Kim, M.H., Kim, J.N and Hong, S.Y., 2004. Two hermit crabs of the genus *Pagurus* (Crustacea: Decapoda, Anomura, Paguridae) from East Sea, Korea. The Korean Journal of Systematic Zoology, 20: 87–98.

岸田隆, 1963a. 鳥取市近海並びに千代川水系の甲殻十脚類. 郷土と科学, 8 (1, 2): 15–23.

岸田隆, 1963b. 山陰近海の異尾類－主に鳥取市－. 採集と飼育, 25 (4): 41–45.

Ko, H.S., 1999. First zoea of *Pachycheles hertwigi* Balss, 1913 (Decapoda: Anomura: Porcellanidae) reared under laboratory conditions. Korean Journal of Biological Science, 3: 127–131.

Komai, T., 1994. *Pagurus spina*, a new species of hermit crab (Decapoda: Anomura: Paguridae) from Japan. Crustacean Research, 23: 23–41.

Komai, T., 1996. *Pagurus nigrofascia*, a new species of hermit crab (Decapoda: Anomura: Paguridae) from Japan. Crustacean Research, 25: 59–72.

Komai, T., 1998. The taxonomic position of *Pagurus gracilipes* (Stimpson, 1858) and *Pagurus nipponensis* (Yokoya, 1933), and description of a new species of *Pagurus* (Decapoda, Anomura, Paguridae) from Japan. Zoosystema, 20: 265–288.

Komai, T., 1999a. Hermit crabs of the families Diogenidae and Paguridae (Crustacea: Decapoda: Anomura) collected during the Shin'yo-maru cruise to the Ogasawara Islands and Torishima Island, oceanic islands in Japan. Natural History Research, Special Issue, 6: 1–66.

Komai, T., 1999b. Reexamination of the type material of *Pagurus sagamiensis* Miyake, 1978 (Decapoda: Anomura: Paguridae). Natural History Research, 6: 79–92.

Komai, T., 2000. The identity of *Pagurus brachiomastus* and descriptions of two new species of *Pagurus* (Decapoda: Anomura: Paguridae) from the northwestern Pacific. Species Diversity, 5: 229–265.

Komai, T., 2001. A review of the north-western Pacific species of the genus *Paguristes* (Decapoda: Anomura: Diogenidae), I. Five species initially reported by Ortmann (1892) from Japan. Journal of Natural History, 35: 357–428.

Komai, T., 2003a. Reassessment of *Pagurus pilosipes* (Stimpson), supplemental description of *P. insulae* Asakura, and descriptions of three new species of *Pagurus* from East Asian waters (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguridae). Natural History Research, 7: 115–166.

Komai, T., 2003b. Identities of *Pagurus japonicus* (Stimpson, 1858), *P. similis* (Ortmann, 1892) and *P. barbatus* (Ortmann, 1892), with description of a new species (Crustacea, Decapoda, Anomura, Paguridae). Zoosystema, 25: 377–411.

Komai, T., 2004. Redescription of *Pagurus conformis*, the senior synonym of *P. megalops* (Crustacea: Decapods: Anomura: Paguridae). Species Diversity, 9: 343–358.

Komai, T., 2009. A review of the northwestern Pacific species of the genus *Paguristes* (Decapoda: Anomura: Diogenidae). II. Species transferred to the genus *Stratiotes*, with descriptions of two new species. Natural History Research, 10: 59–92.
Komai, T., 2010. A review of the northwestern Pacific species of the genus *Paguristes* (Decapoda: Anomura: Diogenidae). III. Clarification of the identity of a species heretofore referred to *Paguristes balanophilus* Alcock and descriptions of two new species from Japan. Natural History Research, 11: 9–33.
Komai, T., 2013. Records of four species of the pylochelid hermit crab genus *Trizocheles* Forest, 1987 (Crustacea: Decapoda: Anomura) from the Sagami Sea and Izu Islands, central Japan, with descriptions of three new species. Natural History Research, 12: 91–112.
Komai, T., 2017. Redescription of the pagurid hermit crab *Catapaguroides fragilis* (Melin, 1939) and descriptions of two new species from deep-sea off the Ryukyu Islands, Japan (Crustacea: Decapoda: Anomura). Zootaxa, 4273 (2): 235–257.
Komai, T. and Imafuku, M., 1996. Redescription of *Pagurus lanuginosus* with the establishment of a neotype, and description of a new closely related species (Decapoda: Anomura: Paguridae). Journal of Crustacean Biology, 16: 782–796.
Komai, T. and Mishima, S., 2003. A redescription of *Pagurus minutus* Hess, 1865, a senior synonym of *Pagurus dubius* (Ortmann, 1892) (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguridae). Benthos Research, 58: 15–30.
Komai, T. and Osawa, M., 2001. A new distinctive species of pagurid hermit crab (Crustacea: Decapoda: Anomura) from Japan. Zoological Science, 18: 1291–1301.
Komai, T. and Takeda, M., 2006. A review of the pagurid hermit crab (Decapoda: Anomura: Paguroidea) fauna of the Sagami Sea, Central Japan. Memoirs of the National Science Museum, Tokyo, 41: 71–144.
Komai, T., Ohtsuka, S., Nakaguchi, K., and Go, A., 2002. Decapod crustaceans collected from the southern part of the Sea of Japan in 2000–2002 using TRV Toyoshio-maru. Natural History Research, 7: 19–73.
Komai, T., Yang, C.-H., Okuno, J., and Chan, T.-Y., 2011. Revisiting *Pagurus pilosipes* (Stimpson, 1858) (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguridae). Zootaxa, 3096: 41–52.
Komai, T., Saito, Y., and Myorin, E., 2015. A new species of the hermit crab genus *Pagurus* Fabricius, 1775 (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguridae) from shallow coastal waters in Japan, with a checklist of the East Asian species of the genus. Zootaxa, 3918: 224–238.
Komatsu, H., 2014. Deep-sea decapod crustaceans from off the Japanese coast of the Sea of Japan. Deep-sea Fauna of the Sea of Japan. In: Fujita, T. (ed.), Deep-sea Fauna of the Sea of Japan. National Museum of Nature and Science Monographs, 44: 177–203.
Komatsu, H. and Komai, T., 2009. Thalassinidea, Anomura and Brachyura (Crustacea: Decapoda) from northeastern Japan collected during the "Research on Deep-sea Fauna and Pollutants off Pacific coast of northern Japan" Project. In: Fujita, T. (ed.), Deep-sea Fauna and Pollutants off Pacific Coast of Northern Japan. National Museum of Nature and Science Monographs, 39: 581–613.
Korn, O.M., Kornienko, E.S., and Komai, T., 2008. A reexamination of adults and larval stages of *Diogenes nitidimanus* (Crustacea: Decapoda: Anomura: Diogenidae). Zootaxa, 1693: 1–26.
倉持卓司・池田等, 2007. 相模湾より採集されたイボガニ (十脚目: 異尾亜目). 神奈川自然誌資料, 28: 115–116.
Lin, C.-W. and Osawa, M., 2014. First record of chirostylid squat lobster, *Chirostylus ortmanni* Miyake & Baba, 1968 (Crustacea: Decapoda: Anomura), from Taiwan. Platax, 11: 63–69.

Machordom, A., Ahyong, S.T., Andreakis, N., Baba, K., Buckley, D., García-Jiménez, R., McCallum, A.W., Rodríguez-Flores, P.C., and Macpherson, E. 2022. Deconstructing the crustacean squat lobster genus *Munida* to reconstruct the evolutionary history and systematics of the family Munididae (Decapoda, Anomura, Galatheoidea). Invertebrate Systematics, 36 (10): 926–970.

Macpherson, E. and Baba, K., 1993. Crustacea Decapoda: *Munida japonica* Stimpson, 1858, and related species (Galatheidae). In: Crosnier, A. (ed.), Resultats des Campagnes MUSORSTOM, Volume 10. Mémoires du Muséum National d'Histoire Naturelle, Paris, 156: 381–420.

Macpherson, E. and Robainas-Barcia, A., 2013. A new genus and some new species of the genus *Lauriea* Baba, 1971 (Crustacea, Decapoda, Galatheidae) from the Pacific and Indian Oceans, using molecular and morphological characters. Zootaxa, 3599: 136–160.

Macpherson, E. and Robainas-Barcia, A., 2015. Species of the genus *Galathea* Fabricius, 1793 (Crustacea, Decapoda, Galatheidae) from the Indian and Pacific Oceans, with descriptions of 92 new species. Zootaxa, 3913 (1): 1–335.

Maki, M. and Tsuchiya, H., 1923. A monograph of the decapod crustaceans from Formosa. Department of Agriculture Government Research Institute, Formosa, 3: 1–215.

Malay, M.C.(M.), Rahayu, D.L., and Chan, T.-Y., 2018. Hermit crabs of the genera Calcinus Dana, Clibanarius Dana, and Dardanus Paul'son from the PANGLAO 2004 Expedition, with description of a new species and a checklist of the hermit crabs of the Philippines (Crustacea: Anomura: Paguroidea). Raffles Bulletin of Zoology, 66: 23–65.

Marin, I.N., 2013. Atlas of decapod crustaceans of Russia. KMK Scientific Press, Moscow. 145 pp. [In Russian with English abstract]

Marin, I., 2016. Notes on holotypes of hermit crabs (Decapoda: Anomura: Paguroidea) deposited in the collection of Zoological Museum of RAS (Saint-Petersburg, Russia) with remarks on hermit crab diversity along the Russian coast of the Sea of Japan. Zootaxa, 4105: 171–180.

McCallum, A.W., Cabezas, P., and Andreakis, N., 2016. Deep-sea squat lobsters of the genus *Paramunida* Baba, 1988 (Crustacea: Decapoda: Munididae) from north-western Australia: new records and description of three new species. Zootaxa, 4173: 201–224.

McLaughlin, P.A., 1974. The hermit crabs (Crustacea Decapoda, Paguridea) of northwestern North America. Zoologische Verhandelingen, 130: 1–396.

McLaughlin, P.A., 2002a. A review of the hermit crab (Decapoda: Anomura: Paguridea) fauna of southern Thailand, with particular emphasis on the Andaman Sea, and descriptions of three new species. In: Bruce N., Berggren, M., and Bussawarit, S. (eds.), Proceedings of the International Workshop on the Crustacea in the Andaman Sea, Phuket Marine Biological Center, 29 November–20 December, 1998. Phuket Marine Biological Center, Special Publication, 23: 385–460.

McLaughlin, P.A., 2002b. *Diogenes pallescens* Whitelegge, *D. gardineri* Alcock and *D. serenei* Forest (Decapoda: Anomura: Paguroidea: Diogenidae): Distinct species or morphological variants? Raffles Bulletin of Zoology, 50: 81–94.

McLaughlin, P.A., 2004. A review of the hermit crab genus *Nematopagurus* A. Milne-Edwards and Bouvier, 1892 and the descriptions of five new species. In: Marshall, B. and Richer de Forges, B. (eds.), Tropical Deep-Sea Benthos, Volume 23. Memoires du Museum national d'Histoire naturelle, Paris, 191: 151–229.

McLaughlin, P.A. and Gunn, S.W., 1992. Revision of *Pylopagurus* and *Tomopagurus* (Crustacea: Decapoda: Paguridae), with the descriptions of new genera and species: Part IV. *Lophopagurus* McLaughlin and *Australeremus* McLaughlin. Memoirs of the Museum of Victoria, 53: 43–99.

McLaughlin, P.A., Rahayu, D.L., Komai, T., and Chan, T.-Y., 2007. A Catalog of the Hermit Crabs (Paguroidea) of Taiwan. National Taiwan Ocean University, Keelung, 367 pp.

McLaughlin, P.A., Komai, T., Lemaitre, R., and Rahayu, D.L., 2010. Annotated checklist of anomuran decapod crustaceans of the world (exclusive of the Kiwaoidea and families Chirostylidae and Galatheidae of the Galatheoidea) Part I–Lithodoidea, Lomisoidea and Paguroidea. In: Low, M.E.Y. and Tan, S.H. (eds.), Checklist of Anomuran Decapod Crustaceans of the World (exclusive of the Kiwaoidea and families Chirostylidae and Galatheidae of the Galatheoidea) and Marine Lobsters of the World. Raffles Bulletin of Zoology, Supplement, 23: 5–107.

峯水亮, 2002. ネイチャーガイド 海の甲殻類. 第2刷. 文一総合出版, 東京, 344 pp. (第1刷: 2000)

三島伸治, 1997. ヨモギホンヤドカリを和白干潟で採集. Cancer (日本甲殻類学会会員連絡誌), 6: 19–21.

三島伸治, 1998. 福岡のヨモギホンヤドカリ. Cancer (日本甲殻類学会会員連絡誌), 7: 9–11.

Mishima, S. and Henmi, Y., 2008. Reproduction and embryonic diapause in the hermit crab *Pagurus nigrofascia*. Crustacean Research, 37: 26–34.

Miyake, S., 1943. Studies on the crab-shaped Anomura of Nippon and adjacent waters. Journal of the Department of Agriculture, Kyushu Imperial University, 7: 49–158.

Miyake, S., 1978. The Crustacean Anomura of Sagami Bay. Biological Laboratory, Imperial Household (Hoikusha), Tokyo (Osaka), ix+200 pp. (English part), 4 pls., 161 pp. (Japanese part). [三宅貞祥, 1978. 相模湾産甲殻異尾類. 生物学御研究所 (保育社), 東京 (大阪), ix+200 pp. (英文), 4 pls., 161 pp. (和文)]

三宅貞祥, 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑 (I). 第 1 版. 保育社, 東大阪, vii＋261 pp. (第 2 版: 1991)

三宅貞祥, 1998. 原色日本大型甲殻類図鑑 (I). 第 3 版. 保育社, 東大阪, vii＋261 pp.

Miyake, S. and Baba, K., 1968. On the generic characters of *Chirostylus*, with description of two Japanese species (Crustacea, Anomura). Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University, 14: 379–387.

Miyake, S., Sakai, K., and Nishikawa, S., 1962. A fauna-list of the decapod Crustacea from the coasts washed by the Tsushima warm current. Records of Oceanographic Works in Japan, Special Number, 6:121–131.

本尾洋, 2007. 日本海産異尾類-I. 既知種. のと海洋ふれあいセンター研究報告, 13: 21–32.

本尾洋・豊田幸詞, 2005. 京都府沿岸の異尾類. のと海洋ふれあいセンター研究報告 11: 43–49.

本尾洋・山内健生, 2011. 隠岐島後海域からドレッジで得られた十脚甲殻類. ホシザキグリーン財団研究報告, 14: 263–267.

本尾洋・山内健生・向井哲也, 2011. 島根県出雲市沖でバイ篭により得られたコエビ類と異尾類. ホシザキグリーン財団研究報告, 14: 257–261.

Nakasone, Y. and Miyake, S., 1968. On six species of *Pachycheles* (Anomura: Porcellanidae) from the West Pacific. OHMU (Occasional Papers of Zoological

Laboratory, Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan), 1: 61–83, pls. 5, 6.
Nakasone, Y. and Miyake, S., 1972. Four unrecorded porcellanid crabs (Anomura: Porcellanidae) from Japan. Bulletin of the Sciences & Engineering Division of University of the Ryukyus (Mathematics & Natural Science), 15: 136–147.
西村三郎, 1992. 概説. I. 日本近海における動物分布. 西村三郎 (編), 原色検索日本海岸動物図鑑 (I), pp. xi–xix. 保育社, 大阪, 425 pp.
西村三郎・鈴木克美, 1977. 標準原色図鑑全集 (16) 海岸動物 (改訂版). 保育社, 大阪, 196 pp., 84 pls.
お茶の水大学湾岸生物教育研究センター, 2013. 海の観察ガイド 千葉県館山市沖ノ島 磯の動物編. お茶の水大学湾岸生物教育研究センター, 館山, 66 pp.
奥野淳兒・有馬啓人, 2004. 伊豆諸島・伊豆大島における浅海性ヤドカリ類相 (甲殻上綱, 十脚目, 異尾下目). 日本生物地理学会会報, 59: 49–69.
奥野淳兒・有馬啓人, 2006. 伊豆諸島・伊豆大島から新たに採集された浅海性ヤドカリ類 (甲殻上綱, 十脚目, 異尾下目). 日本生物地理学会会報, 61: 29–43.
Okuno, J. and Osawa, M., 2016. Rediscovery of *Chirostylus dolichopus* Ortmann, 1892 (Crustacea: Decapoda: Anomura: Chirostylidae) from its type locality, Boso Peninsula, Japan, with description of the colouration in life. Marine Biodiversity Records, 9: 28 (1–4).
奥野淳兒・武田正倫・横田雅臣, 2006. 伊豆海洋公園産浅海性ヤドカリ類 (甲殻上綱: 十脚目: 異尾下目). 国立科学博物館専報, 41: 145–171.
大澤正幸, 2000. ガラテア類. 奥谷喬司 (編), 千葉県の自然誌 本編7. 千葉県の動物2 海の動物. 県史シリーズ 46, pp. 349–354. 財団法人 千葉県史料研究財団, 千葉, vii+813 pp.
Osawa, M., 2004. A new shallow-water species of the genus *Galathea* (Decapoda: Anomura: Galatheidae) from the Ryukyu and Izu Islands, Japan. Crustacean Research, 33: 92–102.
Osawa, M., 2007. A new species of *Chirostylus* Ortmann, 1892 (Crustacea: Decapoda: Anomura: Chirostylidae) from the Ryukyu Islands, southwestern Japan, with a supplemental description of *Chirostylus ortmanni* Miyake & Baba, 1968. Zootaxa, 1450: 31–43.
Osawa, M., 2009. New records of three species of the genus *Enosteoides* Johnson,1970 (Decapoda: Anomura: Porcellanidae) from Japan, with description of a new species. Komai, T. and Komatsu, H. (eds.), New Crustaceans of Japan. Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), Supplement, 3: 157–166.
Osawa, M., 2012. A new species of the genus *Pagurus* Fabricius, 1775 (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguridae) from the Ryukyu Islands, southwestern Japan. In: Naruse, T., Chan, T.-Y., Tan, H. H., Ahyong, S. T., and Reimer, J. D. (eds.), Scientific Results of the Marine Biodiversity Expedition — KUMEJIMA 2009. Zootaxa, 3367: 155–164.
大澤正幸, 2012. サンゴカニダマシ. 日本ベントス学会 (編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック, p. 187. 東海大学出版会, 秦野, xvii+285 pp.

Osawa, M., 2013. Identity of *Pagurus watasei* (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguroidea). Species Diversity, 18: 39–44.
Osawa, M. and Chan, T.-Y., 2010. Part III. Porcellanidae (Porcelain crabs). In: Chan, T.-Y. (ed.), Crustacean Fauna of Taiwan: Crab-like Anomurans (Hippoidea, Lithodoidea and Porcellanidae), pp. 67–181. National Taiwan Ocean University, Keelung, viii+197 pp.
Osawa, M. and Fujita, Y., 2007. Sand crabs of the genus *Albunea* (Crustacea: Decapoda: Anomura: Albuneidae) from the Ryukyu Islands, southwestern Japan, with the description of a new species. Species Diversity, 12: 127–140.
Osawa, M. and Fujita, Y., 2012. New records of Albuneidae (Decapoda, Anomura) from Japan, with description of a new species of *Paralbunea*. In: Komatsu, H., Okuno, J., and Fukuoka, K. (eds.), Studies on Eumalacostraca: A Homage to Masatsune Takeda. Crustacana Monographs, 17: 245–261. Brill, Leiden and Boston.
Osawa, M. and Ota, Y., 2020. New records of species of Gebiidea and Anomura (Crustacea: Decapoda) from the Sea of Japan. Species Diversity, 25: 295–307.
Osawa, M., Boyko, C.B., and Chan, T.-Y., 2010. Part I. Hippoidea (Mole crabs). In: Chan, T.-Y. (ed.), Crustacean Fauna of Taiwan: Crab-like Anomurans (Hippoidea, Lithodoidea and Porcellanidae), pp. 1–41. National Taiwan Ocean University. Keelung, viii+197 pp.
大澤正幸・桑原友春・吉田隆太・倉田健悟, 2014. 島根県沿岸の異尾甲殻類. ホシザキグリーン財団研究報告, 17: 207–236.
大澤正幸・小松浩典・桑原友春・倉田健悟, 2015. 島根県沿岸における異尾類の追加記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 18: 151–159.
大澤正幸・桑原友春・倉田健悟, 2016. 島根県沿岸からの異尾類 2 種の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 19: 201–204.
大澤正幸・桑原友春・倉田健悟, 2018. ニセウロココシオリエビ (新称) の日本海からの初記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 21: 91–95.
大澤正幸・桑原友春・淺津紳司, 2022. ナメラカクダヒゲガニ (新称) の日本海からの初記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 25: 281–284.
大谷道夫, 2013. カニダマシ科. 今原幸光 (編), フィールド版 写真でわかる 磯の生き物図鑑, pp. 121–122. トンボ出版, 大阪, 280 pp.
Poupin, J., Bouchard, J.-M., Dinhut, V., Cleva, R., and Dumas, J., 2013. Anomura (Crustacea Decapoda) from the Mayotte region, western Indian Ocean. Atoll Research Bulletin, 593: i–iv, 1–73.
Rahayu, D.L. and Forest, J., 2009. Le genre *Paguristes* Dana aux Philippines avec la description de deux nouvelles especes (Decapoda, Anomura, Diogenidae). Crustaceana, 82: 1307–1338.
Rahayu, D.L. and McLaughlin, P.A., 2006. Clarifications of the identities of *Paguristes balanophilus* and *P. calvus* Alcock (Decapoda, Anomura, Paguroidea, Diogenidae) and the description of another broadly distributed new species. Zoosystema, 28: 865–886.
Rahayu, D.L. and McLaughlin, P.A., 2010. *Areopaguristes*, a generic replacement name for *Stratiotes* Thomson, 1899 (Crustacea: Decapoda: Paguroidea: Diogenidae). Zootaxa, 2509: 67–68.
Rahayu, D.L. and Osawa, M., 2012. Hermit crabs (Crustacea: Decapoda: Diogenidae) from the KUMEJIMA 2009 Expedition, Japan. In: Naruse, T., Chan, T.-Y., Tan, H.H., Ahyong, S.T., and Reimer, J.D. (eds.), Scientific Results of the Marine Biodiversity Expedition — KUMEJIMA 2009. Zootaxa, 3367: 176–190.

Reimer, J.D., Hirose, M., Nishisaka, T., Sinniger, F., and Itani, G., 2010. *Epizoanthus* spp. associations revealed using DNA markers: a case study from Kochi, Japan. Zoological Science, 27: 729–734.

酒井恒, 1976. 日本産蟹類. 講談社, 東京, 461 pp. (日本語巻), xxix+773pp. (英語巻), 16 pp.+251 pls. (図版巻). [Sakai, T., 1976. Crabs of Japan and the Adjacent Seas. Koudansha, Tokyo, 461 pp. (Japanese volume), xxix+773pp. (English volume), 16 pp.+251 pls. (figure plate volume)]

Sandberg, L. and McLaughlin, P.A., 1993. Reexamination of *Pagurus munutus* Hess, 1865 and *Pagurus filholi* (de Man, 1887) (Crustacea: Anomura: Paguridae). Zoologische Mededelingen, 67: 197–206.

Sankarankutty, C., 1962. On the porcellanid crab, *Porcellanella triloba* White (Crustacea-Anomura), a commensal on sea pen; with remarks on allied species. Journal of Marine Biological Association of India, 3: 96–100.

Sankarankutty, C., 1963. On three species of porcellanids (Crustacea-Anomura) from the Gulf of Mannar. Journal of Marine Biological Association of India, 5: 273–279.

佐藤仁志・加藤琢矛, 1996. 上田常一動物標本コレクション目録: 甲殻類. 島根県立三瓶自然館収蔵資料目録, 1: 1–138.

Schnabel, K.E., Ahyong S.T., and Maas, E.W., 2011. Galatheoidea are not monophyletic – molecular and morphological phylogeny of the squat lobsters (Decapoda: Anomura) with recognition of a new superfamily. Molecular Phylogenetics and Evolution, 58: 157–168.

締次美穂・木村昭一, 2019. 三重県 (伊勢湾) 初記録のヒメクダヒゲガニ. 南紀生物, 61: 23–26.

品川明・秦明徳, 2005. 海浜地域の自然を生かした環境教育－日本海と太平洋の潮間帯生物分布の比較－. 島根大学教育支援センター教育臨床総合研究紀要, 4: 117–129.

園山貴之・石橋敏章・本尾洋, 2017a. 鳥取県, 島根県, 山口県から既報の異尾下目と短尾下目. ホシザキグリーン財団研究報告, 20: 85–94.

園山貴之・石橋敏章・本尾洋, 2017b. 山口県日本海から初記録のオホーツクホンヤドカリとケガニ. ホシザキグリーン財団研究報告, 20: 71–74.

Takeda, M., 1985. Occurrence of a new hermit crab of the genus *Porcellanopagurus* in the Sea of Japan. Memoirs of the National Science Museum, Tokyo, 18: 141–144.

Takeda, M., 1997. Deep-sea decapod crustacean fauna of Suruga Bay, central Japan. National Science Museum Monographs, 12: 229–255.

Terao, A., 1913. A catalogue of hermit-crabs found in Japan (Paguridea excluding Lithodidae), with descriptions of four new species. Annotationes Zoologicae Japonenses, 8: 355–391.

鳥取県立博物館, 2015. 山陰海岸の身近な海の生きものガイドブック. 鳥取県立博物館, 鳥取市, 55 pp.

Tsang, L.M., Chan, T.-Y., Ahyong, S.T., and Chu, K.H., 2011. Hermit to King, or hermit to all: Multiple transitions to crab-like forms from hermit crab ancestors. Systematic Zoology, 60: 616–629.

Tudge, C.C., Asakura, A., and Ahyong, S.T., 2012. Infraorder Anomura MacLeay, 1838. Schram, F.R. and von Vaupel Klein, J.C. (eds.), Treatise on Zoology – Anatomy, Taxonomy, Biology. The Crustacea, Volume 9, Part B. Eucarida: Decapoda: Astacidea P.P. (Enoplometopoidea, Nephropoidea), Glypheidea, Axiidea, Gebiidea, and Anomura, pp. 221–333. Brill, Leiden·Boston, 362 pp.

内田一・紺野一碩・千葉滋男, 1971. 深浦臨海実習所付近産海産動物目録 予報 第3部. 深浦臨海実習所報告, 3: 10–31.

山田浩二, 2012. 大阪湾におけるヨモギホンヤドカリの分布. 貝塚の自然, 14: 16–19.
Yokoya, Y., 1933. On the distribution of decapod Crustacea inhabiting the continental shelf around Japan, chiefly based upon the materials collected by S.S. “Soyo Maru” during the years 1923–1930. Journal of the College of Agriculture Tokyo Imperial University, 12: 1–236.
米子市, 1997. IV 魚介類. 米子市史. 第 6 巻. 自然編, pp. 349–375. 米子市.
吉郷英範, 2022. 広島県から記録があるヤドカリ科とホンヤドカリ科 (甲殻類, 十脚目). 比婆科学, 274: 19–28.
和田年史・長田信人・原口展子・宇野政美, 2014. 鳥取県東部の砂浜海岸サーフゾーンにおける魚類および海産無脊椎動物の出現記録. 鳥取県立博物館研究報告, 51: 23–41.
渡部哲也, 2014. 海辺のエビ・ヤドカリ・カニ ハンドブック. 文一総合出版, 東京, 104 pp.

書 名: 山陰 (島根県・鳥取県)の異尾甲殻類
日本海西部沿岸のヤドカリ類とその仲間たち
著 者: 大澤正幸（エスチュアリー研究センター客員研究員）
発行日: **2022 年 11 月 30 日**
発行者・連絡先: 島根大学研究・学術情報本部エスチュアリー研究センター
〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060
Tel: 0852-32-6099, E-mail: kisui@soc.shimane-u.ac.jp

Estuary Research Center, Shimane University, Special Publications, No. 1
Laguna, Special Publications, No. 1

Anomuran Crustacea in San'in District (Shimane Prefecture and Tottori Prefecture), Western Japan

Masayuki Osawa

November 2022